

# 大鋸町遺跡

(第8地点)

—宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—



2009

水戸市教育委員会  
島帆ハウス株式会社  
有限会社毛野考古学研究所



お が ま ち  
大 鋸 町 遺 跡  
(第8地点)

— 宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

2009

水戸市教育委員会  
島帆ハウス株式会社  
有限会社毛野考古学研究所



## ごあいさつ

水戸市は、八溝山系の山並みと那珂川・千波湖の豊かな自然に囲まれています。そして私たちの祖先もこの豊かな自然のもと生活を営んできました。

歴史的文化遺産である埋蔵文化財は、その性格上一度壊されてしまうと二度と原状に復することができないため、私たちが大切に保存しながら後世へ伝えていかなければならぬ貴重な財産です。

近年水戸市における埋蔵文化財を取りまく環境は大きく変わり、調査件数は右肩上がりに増加して、開発と文化財保護との両立が行政として大きな課題となっております。本市ではその意義や重要性を踏まえ、文化財保護法並びに関係法令に基づき保護・保存に努めているところです。

さて、このたびの調査は大鋸町遺跡内における宅地造成工事に伴い、埋蔵文化財の現状保存が困難であることから記録保存を講ずることとし、実施したものです。

大鋸町遺跡は、市内東部に位置する吉田台地に深く入り込む開析谷の西側に面した台地上に位置し、縄文時代から近世にかけて断続的な土地利用が行われた遺跡です。

今回の発掘調査では、古代集落跡のほかに中世の堀跡が発見されました。最も近い中世城館跡である吉田城跡とは谷津を隔てて存在することから、これとは別の新たな城館跡に伴うものであると考えられ、地域の歴史を明らかにする上で貴重な成果を得ることができました。

本書が学術研究資料として広く活用され、市民の皆様が文化財の保護と郷土の歴史に御理解と御关心を寄せていただききっかけとなれば、これに勝る喜びはありません。

最後になりましたが、調査の実施にあたり御理解と御協力を賜りました事業者の島帆ハウス株式会社をはじめ、関係各位に心から感謝を申し上げます。

平成21年3月

水戸市教育委員会  
教育長 鯨 岡 武



## 例言

- 1 本書は、水戸市に所在する大鏡町遺跡（第8地点）の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は宅地造成工事に伴い、事業者 島帆ハウス株式会社の委託を受け、水戸市教育委員会の指導の下、有限会社毛野考古学研究所が行った。
- 3 調査概要及び調査組織は下記の通りである。

所 在 地 水戸市元吉田町2349番1, 2350番1, 2351番

調査面積 367m<sup>2</sup>

調査期間 平成20年6月23日 から 平成20年7月19日 まで

調査担当者 石丸 敦史（有限会社毛野考古学研究所 調査研究員）

調査参加者 鈴木 とし江・佐久間 順美・菅谷 和子・川上 孝子・小堤 静江  
野村 正子・鶴町 巍・大内 英雄・小柴 常光

整理参加者 亀田 浩子・永井 祐二・深谷 道子・真下 弘美

### 調査指導

水戸市教育委員会教育長 鯨岡 武

水戸市教育委員会教育次長 内田 秀泰

水戸市教育委員会文化振興課長 仲田 立

水戸市教育委員会文化振興課長補佐 中里 誠志郎

### 事務局

宮崎 賢司 水戸市教育委員会課文化財係兼世界遺産推進係長

萩谷 慎一 水戸市教育委員会文化振興課文化財係兼世界遺産推進係主査

関口 慶久 水戸市教育委員会文化振興課文化財係兼世界遺産推進係文化財主事

渥美 賢吾 水戸市教育委員会文化振興課文化財係兼世界遺産推進係文化財主事

金子 千秋 水戸市教育委員会文化振興課文化財係兼世界遺産推進係埋蔵文化財専門員

- 4 本書は、石丸・関口・渥美が分担して執筆し、関口・渥美的助言・指導に基づいて石丸が編集した。

- 5 遺構及び遺物の写真撮影は石丸が行った。

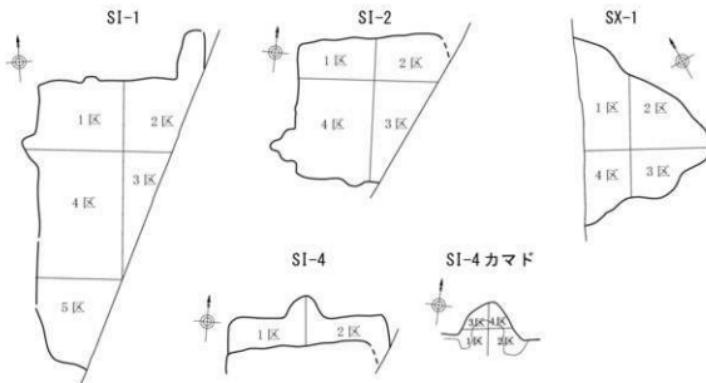
- 6 出土遺物及び図面・写真などの記録類は、報告書刊行後一括して水戸市大串貝塚ふれあい公園にて保管する。

- 7 発掘調査から本書の刊行に至るまで、下記の方々・諸機関より御教示・御協力を賜った。記して深く謝意を表す次第です（敬称略・順不同）。

島帆ハウス株式会社、有限会社三井考測、茨城県教育庁文化課、財団法人茨城県教育財団、文化庁文化財部記念物課、石川 太郎、中島 直樹、畠中 繁利、広瀬 季一郎、広瀬 千絵。

## 凡 例

- 1 本書に記している座標値は、世界測地系に基づく。挿図の内、平面図の方位記号は座標北を、土層堆積断面図の水準線高の数値は海拔標高をそれぞれ示す（単位：m）。
- 2 土層及び遺物の色調は『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務所・（財）日本色彩研究所色票監修 2002 年版）に準拠する。
- 3 遺構平面図及び土層堆積断面図の縮尺は、1/60, 1/150, 1/250 を基本とし、各図にスケールを明示した。
- 4 遺物実測図の縮尺は、土器類を 1/3 で掲載し、各図にスケールを明示した。
- 5 遺物写真的縮尺は実測図と同じである。
- 6 遺物法量の計測値については cm 及び g で示した。
- 7 遺物番号は、実測図、観察表、写真図版とも共通である。
- 8 挿表中における括弧付き数字については、( ) 内が推定値、< > 内が残存値・現存値を示す。
- 9 引用・参考文献は、一括して本文末に収めた。
- 10 遺物はトータルステーションで出土位置を記録した後、取り上げた。小破片については各区に分け、上から層厚 10cm 単位で「○区 1・2…」として一括で取り上げた。  
なお、遺物観察表の出土位置に記載したナンバーは取上げ時のものである。



## 目次

ごあいさつ	
例言	
凡例	
目次	
第Ⅰ章　はじめに.....	1
第1節　調査に至る経緯.....	1
第2節　調査・整理の方法.....	2
第3節　調査・整理の経過.....	2
第Ⅱ章　遺跡の位置と環境.....	3
第1節　地理的環境.....	3
第2節　歴史的環境.....	3
第Ⅲ章　発見された遺構・遺物.....	8
第1節　基本層序.....	8
第2節　発見された遺構.....	8
(1) 建物跡（堅穴建物跡・掘立柱建物跡）.....	10
(2) 溝・堀跡.....	32
(3) 井戸跡.....	37
(4) 性格不明遺構.....	38
(5) 土坑.....	49
(6) ピット.....	51
(7) 遺構外出土遺物.....	52
第Ⅳ章　まとめ.....	61

## 図版目次

第1図 大湖町道路第8地点位置図	1	第23図 SI-3 実測図	29
第2図 大湖町道路周辺の道路	4	第24図 SB-1 実測図(1)	31
第3図 基本層序実測図	8	第25図 SB-1 実測図(2)	32
第4図 大湖町道路第8地点全体図	9	第26図 SD-2出土遺物	33
第5図 SI-1 実測図(1)	11	第27図 SD-2 実測図(1)	34
第6図 SI-1 カマド実測図	12	第28図 SD-2 実測図(2)	35
第8図 SI-1 出土遺物(1)	12	第29図 SD-4 出土遺物	35
第7図 SI-1 鋸方実測図	12	第30図 道路実測図	36
第9図 SI-1 出土遺物(2)	13	第31図 SE-1 実測図	37
第10図 SI-2・SI-4 実測図	16	第32図 SX-1 実測図	38
第11図 SI-2 カマド実測図	17	第33図 SX-1 出土遺物(1)	39
第12図 SI-4 カマド実測図	17	第34図 SX-1 出土遺物(2)	40
第13図 SI-2・4 鋸方実測図	17	第35図 SX-1 出土遺物(3)	41
第14図 SI-2 出土遺物(1)	18	第36図 SX-1 出土遺物(4)	42
第15図 SI-2 出土遺物(2)	19	第37図 SX-1 出土遺物(5)	43
第16図 SI-2 出土遺物(3)	20	第38図 SX-1 出土遺物(6)	44
第17図 SI-2 出土遺物(4)	21	第39図 SX-1 出土遺物(7)	45
第18図 SI-4 出土遺物(1)	24	第40図 SK-1 出土遺物	49
第19図 SI-4 出土遺物(2)	25	第41図 土坑実測図	50
第20図 SI-4 出土遺物(3)	26	第42図 ピット実測図	51
第21図 SI-4 出土遺物(3)	27	第43図 道構外出土遺物	52
第22図 SI-3 出土遺物	29	第44図 調査区周辺シードカラー処理結果	62

## 表目次

第1表 大湖町道路と周辺道路一覧表	5	第14表 SX-1 出土遺物観察表(2)	47
第2表 SI-1 出土遺物観察表	14	第15表 SX-1 出土遺物観察表(3)	48
第3表 SI-2 出土遺物観察表(1)	22	第16表 SX-1 出土遺物観察表(4)	49
第4表 SI-2 出土遺物観察表(2)	23	第17表 SK-1 出土遺物観察表	50
第5表 SI-2 出土遺物観察表(3)	24	第18表 道構外出土遺物観察表	52
第6表 SI-4 出土遺物観察表(1)	27	第19表 出土遺物属性表(1)	53
第7表 SI-4 出土遺物観察表(2)	28	第20表 出土遺物属性表(2)	54
第8表 SI-3 出土遺物観察表(1)	29	第21表 出土遺物属性表(3)	55
第9表 SI-3 出土遺物観察表(2)	30	第22表 出土遺物属性表(4)	56
第10表 SD-2 出土遺物観察表(1)	33	第23表 出土遺物属性表(5)	57
第11表 SD-2 出土遺物観察表(2)	34	第24表 出土遺物属性表(6)	58
第12表 SD-4 出土遺物観察表	35	第25表 出土遺物属性表(7)	59
第13表 SX-1 出土遺物観察表(1)	46	第26表 出土遺物属性表(8)	60

## 写真図版目次

図版 1	道路全景(北西から)	図版 3	SD-2 土層堆積状況(東から)	図版 8	SI-4 出土遺物(2)
	SI-1 全景(南から)		SD-6 全景(西から)	図版 9	SI-3 出土遺物
	SI-1 土層堆積状況(北から)		SX-1 出土遺物(北)		SD-2 出土遺物
	SI-1 鉄鍊出土状況(北から)		SE-1 全景(東から)		SD-4 出土遺物
	SI-1 鋸方全景(南から)		SD-3・SD-4・SD-7 全景(西から)		SX-1 出土遺物(1)
図版 2	SI-2 全景(東から)		SX-1 全景(東から)	図版 10	SX-1 出土遺物(2)
	SI-2 鉄鍊出土状況(東から)		SX-1 土層堆積状況(南から)	図版 11	SX-1 出土遺物(3)
	SI-2・SI-4 鋸方全景(南から)	図版 4	SE-1 壁面状況(東から)	図版 12	SX-1 出土遺物(4)
	SB-1 完壁全景(北から)		SI-2 出土遺物(1)	図版 13	SX-1 出土遺物(5)
	SI-2 カマド全景(東から)	図版 5	SI-2 出土遺物(2)	図版 14	SX-1 出土遺物(6)
	SI-4 カマド全景(南から)	図版 6	SI-2 出土遺物(3)		SX-1 出土遺物
	SI-3 全景(北から)	図版 7	SI-2 出土遺物(4)		道構外出土遺物
	SD-2 全景(南東から)		SI-4 出土遺物(1)		SX-9 出土遺物

# 第Ⅰ章 はじめに

## 第1節 調査に至る経緯

宅地分譲工事に伴う「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて」の照会文書が、平成20年1月30日付にて、島帆ハウス株式会社代表取締役 前島 忠（以下、事業者という。）より、水戸市教育委員会（以下、市教委という。）へ提出された。

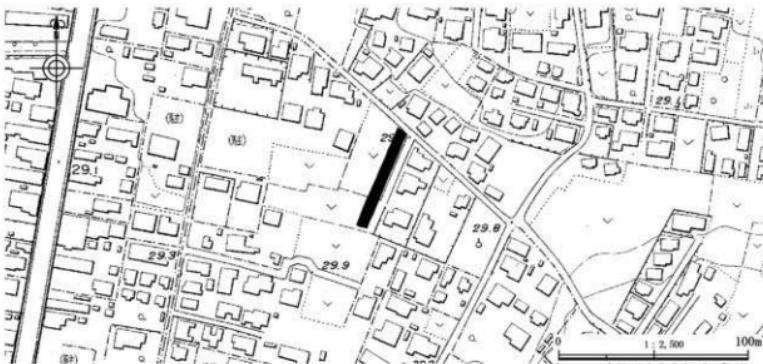
照会地である水戸市元吉田町2349番1、2350番1及び2351番は、周知の埋蔵文化財包蔵地「大鋸町遺跡」の範囲に該当しており、市教委事務局専門職員による現地踏査の結果、土器等の散布が認められたことから、市教委は、試掘・確認調査を実施する必要があるとともに、文化財保護法（以下、法という。）に基づく届出が必要である旨回答した（教文第77号）。

その後事業者から法第93条第1項に基づいて「埋蔵文化財発掘の届出について」が市教委に提出され、市教委は平成20年2月25・26日に試掘・確認調査を行った。その結果、古代の堅穴住居跡3軒、中世の堀跡、近世初頭の大型土坑のほか、土坑・ピット13基が確認された。

市教委は、遺構の現状保存の可否をめぐり事業者と協議を行った。分譲宅地部分については、主たる計画が盛土工事であることから、埋蔵文化財への直接的な影響は考えられなかつたが、位置指定道路については計画の変更が困難であるとの結論に達した。これを受けて市教委は、平成20年3月7日付にて茨城県教育委員会（以下、県教委という。）へ届出を進達した（教文第79号）。

県教委は事業者に対し、位置指定道路部分について事前の本発掘調査を行うこと、宅地部分については、造成工事時に市教委が立会うこと、並びに調査の結果重要な遺構等が確認された場合にはその保存等について別途協議をする旨勧告した（平成20年3月13日付文第2104号）。

この勧告を受けて事業者は、有限会社毛野考古学研究所と発掘調査業務委託契約を締結し、平成20年6月23日から平成20年7月19日まで、市教委の指導・助言の下、記録保存を目的とした発掘調査を実施することとなった。(渥美)



第1図 大鋸町遺跡第8地点位置図

## 第2節 調査・整理の方法

**発掘調査** 試掘・確認調査に基づいて、遺構検出作業を行った。まず重機によって表土下約30～40cmまで掘削し、その後人力による遺構検出を行い、写真撮影および概略図を作成した。グリッドは国家座標に基づき、調査区内に4m四方に杭を設置した。遺構は、平面検出状況からベルト設定もしくは半蔵をし、土層堆積状況の確認・図化、撮影を行った。遺物は、各遺構ごとに必要に応じてトータルステーションを用いて出土位置を記録した。なお出土層位等が明らかな場合は、層位を優先して取上げた。また豎穴建物跡においては、遺構検出面から深さ10cm単位で土器小片を取上げる方法も併用した。その際は、豎穴部分を4分割し、北西（1区）・北東（2区）・南東（3区）・南西（4区）とした。基本層序はSD-2溝の側壁を深さ約50cmほど掘り下げて確認した。

遺構平面図はトータルステーションを用いて作図した。遺構断面図は、遺り方測量を用いた。

**整理作業** 出土した遺物は、全て洗浄した後、専用機械を用いて注記を行った。注記の遺跡略称は「ミ11-8」とし、遺構名称+出土位置を付した。復元作業は、溶剤系接着剤（セメダインC）を用いて接着し、欠落部分についてはエポキシ系樹脂を用いて充填した。遺物抽出後、遺物実測を行い、製図用万年筆（ロットリング）を用いてトレースした。

遺構平面図は、DWG形式で出力し、描画ソフト（IllustratorCS2）を用いて編集した。遺構断面図は、調整後、遺構平面図と合わせてデジタルトレースを行った。

報告書原稿執筆は各担当ごとに行い、編集用ソフト（InDesignCS2）を用いて編集した。（石丸）

## 第3節 調査・整理の経過

発掘調査の経過は以下のとおりである。

2008年

6月23日 機材搬入。基準杭設置。  
6月24日 表土除去作業。現地安全対策。  
6月25日 遺構検出作業。SD-2掘削開始。  
6月30日 豊穴建物跡の調査開始。  
7月9日 SD-2完掘。  
7月11日 遺構測量開始。  
7月14日 ピット調査開始。  
7月15日 完掘全景写真撮影。掘方調査開始。  
7月17日 掘方調査終了。  
7月18日 現場埋め戻し。機材撤収。

整理作業の経過は以下のとおりである。

2008年

8月1日 遺物洗浄開始。  
8月26日 遺物注記開始。  
9月3日 遺物実測開始。  
10月5日 遺物実測図トレース開始。  
10月15日 遺構図面トレース開始。  
10月22日 遺物写真撮影開始。  
11月11日 原稿作成開始。  
11月28日 版下作成開始。  
2009年  
3月17日 報告書印刷。  
3月25日 報告書刊行。（石丸）

## 第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

### 第1節 地理的環境

大鏡町遺跡は茨城県水戸市大鏡町に所在する。今般対象となった第8地点は北緯36度21分19秒、東経140度28分58秒、242番地1に位置する。

水戸市は、関東平野の北東部を占める常総台地、なかでも茨城台地北部に位置する。太平洋岸に近接するが、東部には大洗町・ひたちなか市に接し、海岸には面していない。市域北部は八溝山地を横切る那珂川下流にのぞみ、茨城台地の一部水戸台地の北西端には、八溝山地外縁の丘陵がつづく。

**周辺地形** 周囲の地形に目を移すと、北部の阿武隈山地に属する多賀山地は、太平洋岸に海岸段丘からなる多賀海岸平野を形成し、阿武隈山地から分かれる久慈山地と八溝山地の間には、久慈川の侵蝕谷がつくられている。さらに八溝山地に属する鶴足山塊と筑波山塊の間には、笠間の谷盆地がある。他方、水戸の南部には常総の平野が展開し、関東平野の一部をなす。このように南部の平野と西部の笠間の谷盆地、北部の久慈川の谷、多賀海岸平野などを結ぶ基点として水戸市を地形的に位置づけることができ、すなわち歴史的にいえば、水戸市域が水陸交通の拠点であるといえる。

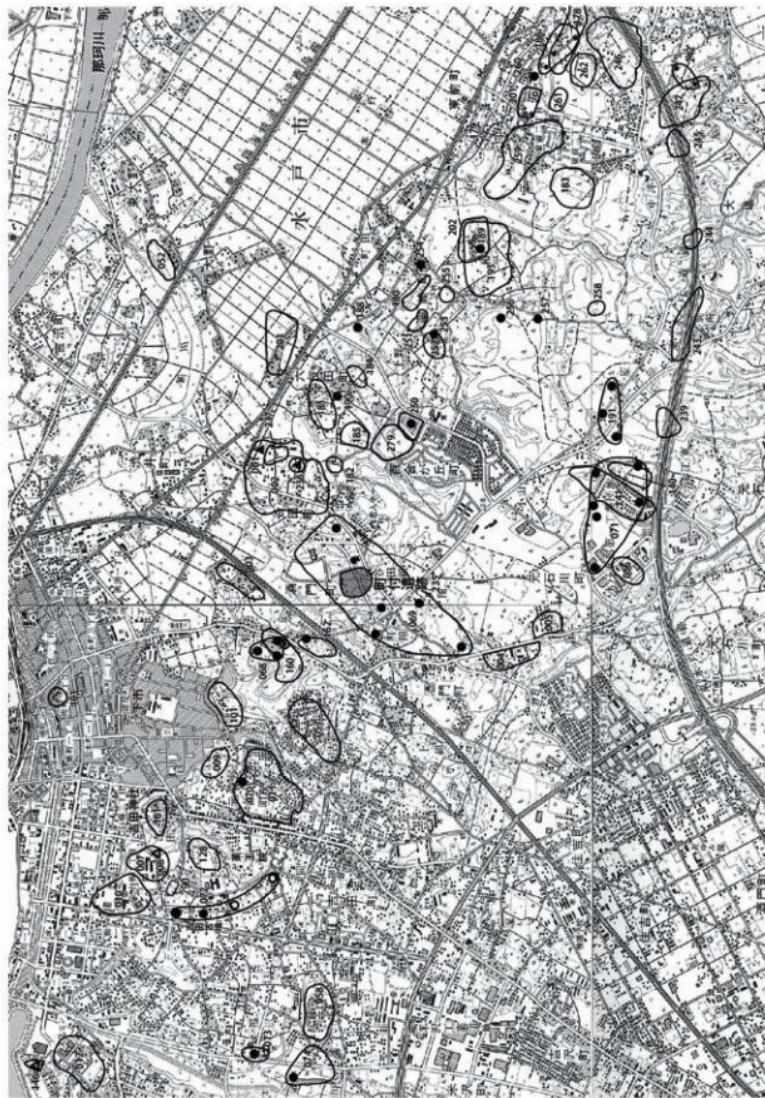
**地形区分** 水戸市の地形は、北部から東部に流れる那珂川を中心に構成される沖積層の低地地区、茨城台地の北東部をなす水戸台地（上市台地・緑岡台地など）と呼ばれる洪積層の台地、鶴足山塊の外縁部をなす第三紀の丘陵地区の三つに区分される。洪積層台地のうち、那珂川と涸沼川との合流点に向かって突き出た台地は、とくに吉田台地と呼称される。下市と呼ばれる市街地の東端で那珂川に注ぎ込む桜川の支流にあたる逆流によって、千波台地と分けられた当該台地は、那珂川右岸の狭い沖積層の低地帯をのぞみ、その低地帯から樹枝状に細い支谷が入り込んで、地形は複雑である。当該遺跡は、その細い支谷のひとつに面した標高27.9m前後の台地縁辺部に立地する。その複雑な地形と相俟って先土器時代から近世にかけて多くの遺跡が立地するが、近年ニュータウン建設などをはじめとした宅地化が急速に進んでおり、往時の景観は次第に失われつつある。

### 第2節 歴史的環境

**先土器時代～縄文時代草創期** 該期の遺跡は吉田台地東部を南北に開析する石川川両岸にまとまつて分布する。本遺跡（162）の南東南約4kmに位置する森戸古墳群では、台形様石器と考えられる石器が出土しており注目される。大鏡町遺跡（011）などでは橋本編年IIc期（橋本2002）の尖頭器が出土している。石川川右岸の下入野町地内および本遺跡の南東約1.5kmの百合ヶ丘町地内においては、先土器時代～縄文時代移行期の御子柴型尖頭器が採集されている（川口2008a）。

**縄文時代** ヤマトシジミ主体の内湾性汽水域貝塚が確認され、標高10m前後の低い段丘面に、前期の谷田貝塚（001）と仲通り貝塚（236）が隣あって位置する。中期は吉田貝塚（008）があり、不明な点が多いものの、隣接する水戸南高校遺跡（007）でかつて造成時に大量の遺物が出土したことを考慮すると、両遺跡で一つの拠点的集落の可能性もある。谷田貝塚の隣接地である下ノ内遺跡（237）では中～晚期の土器・石器・骨角器が多量に検出され、拠点集落の存在を予測させる。吉田貝塚付近の栗

第2図 大塙町遺跡周辺の遺跡



第1表 大鋸町遺跡と周辺遺跡一覧表

番号	名 称	種 別	所 在 地	時 代	備 考 ( ) 内は測定を含む総数
001	谷田貝塚	貝塚	谷田町下ノ内	縄文(前)	昭和47年発掘調査
002	谷田遺跡	集落跡	谷田町下ノ内	縄文(前～後)・古墳(後)	
003	埴平遺跡	集落跡	酒門町埴坪	弥生・奈良・平安	
004	酒門小学校遺跡	集落跡	酒門町1445	縄文(中～後)	昭和35年発掘調査、測定
005	酒門東原遺跡	集落跡	酒門東原	縄文(後)	測定
007	水戸南高校遺跡	集落跡	白山2丁目	縄文(早～後)・弥生・古墳	測定
008	吉田貝塚	貝塚	元吉田町井坂	縄文(中)	一部消滅
009	安楽寺遺跡	集落跡	元吉田町安楽寺	縄文(中～後)	
010	お下屋敷遺跡	集落跡	元吉田町お下屋敷	縄文(前～後)・弥生(後)・古墳・平安	測定
011	大鋸町遺跡	集落跡	元吉田町2309 等	先土器・縄文(早・晩)・弥生(後)・奈良・平安・中世・近世	昭和63年、平成16～19・20年 発掘調査
012	下本郷遺跡	集落跡	千波町下本郷	縄文(中)	測定
052	西大野A遺跡	集落跡	西大野町	弥生(後)・古墳(前)	
056	元石川橋現台遺跡	集落跡	元吉田町権現台	弥生・古墳	測定
057	横堀遺跡	集落跡	元吉田町古宿等	縄文(早)・弥生(後)・古墳(前)	測定
058	米沢町遺跡	集落跡	元吉田町荒谷	弥生(後)・古墳	測定
068	酒門町古墳群	古墳群	酒門町台	弥生(中)・古墳	前方後円墳1。円墳2
069	谷田古墳群	古墳群	酒門町町附外	古墳	前方後円墳1(2)、円墳5
070	大郷町古墳	古墳	元吉田町大郷町	古墳	円墳0(1)、測定
071	江東古墳群	古墳群	元吉田町江東等	古墳	円墳6(10?)
072	吉田古墳群 (国史跡吉田古墳)	古墳群	元吉田町東組	古墳	平成17～20年発掘調査 多角形墳?1、方墳?1、測定2?
073	私武古墳群	古墳群	千波町私武	古墳	円墳0(2)、測定
074	福沢古墳群	古墳群	米沢町福沢	古墳	円墳3(4)
101	吉田城跡	城跡跡	元吉田町2733	中世	
103	武熊故城	城跡跡	柳原2丁目		測定
128	葉王院東遺跡	集落跡	元吉田町599-2外	縄文(中)・弥生(後)・奈良・平安	平成元年発掘調査
140	乗渡跡遺跡	集落跡	元吉田町乗渡組	縄文(後)・古墳	平成元年発掘調査
141	雁武遺跡	集落跡	元吉田町雁武	縄文(中)・弥生(後)・古墳(前)・奈良・平安・若世	昭和57年、平成20年発掘調査
160	酒門町遺跡	集落跡	酒門町台11外	弥生(後)・古墳・奈良・平安・中世・近世	
161	吉田神社遺跡	集落跡	宮内町3193-2	弥生(後)・古墳	
162	荷駄坂遺跡	古墳跡	酒門町242-1	縄文(早～後)・弥生(後)・古墳(後)・奈良・近世	本報告書所収、円墳1
180	芳賀遺跡	集落跡	栗崎町宿	奈良・平安	
181	六地蔵寺遺跡	集落跡	六反田町818等	弥生(後)・古墳(前)・奈良・平安	
182	西谷津遺跡	集落跡	六反田町西谷津	古墳・奈良・平安	
183	小原遺跡	集落跡	東前町原	弥生(後)・古墳・奈良・平安	
184	新地遺跡	集落跡	六反田町新地	古墳(前～中)・奈良・平安	
185	薄内道路	集落跡	六反田町薄内	先土器・縄文(中)・弥生(中・後)・古墳・奈良・平安	平成20年発掘調査
188	栗崎北古墳	古墳	栗崎町北1751	古墳	円墳1
189	愛宕神社古墳	古墳	栗崎町上平	古墳	円墳1
190	六地蔵寺古墳	古墳	六反田町薄内	弥生・古墳	円墳1
191	小山谷墳群	古墳群	大塙町小山谷等	古墳	円墳3
193	上平道路	集落跡	栗崎町上平	古墳・奈良・平安	墨書き土器
202	和平駅跡	城跡跡	栗崎町上平	中世	
203	六反田庄町遺跡	集落跡	六反田町庄町1334外	古墳(前～中)	
235	町付遺跡	集落跡	酒門町町附	縄文(早)・弥生(後)・古墳(前)・平安・中世・近世	平成20年発掘調査
236	仲通り貝塚	貝塚	谷田町下ノ内	縄文(前)	
237	下ノ内遺跡	集落跡	谷田町下ノ内	縄文(後)	
250	六反田古墳群	古墳群	百引が丘町西道地内	古墳	十数基残存、測定
251	伊豆屋敷跡	城跡跡	栗崎町宿	古墳(後)・奈良・平安・近世	土塁3条、濠1条、平成9年発掘調査
252	上野遺跡	集落跡	栗崎町上野	奈良・平安	
253	佛性寺古墳	古墳	栗崎町上野1985	古墳(後～終?)	円1
254	フジヤマ古墳	古墳	栗崎町新屋1612	古墳	円0(1)、測定。埴輪・直刀・刀子・金環・ガラス玉・白玉・馬具
255	莓元遺跡	集落跡	栗崎町莓元	古墳	
256	諏訪神社古墳	古墳	栗崎町諏訪下	古墳(後～終?)	円1
257	千鶴神社古墳	古墳	栗崎町諏訪下2398	古墳(近世?)	円1(疑?)
258	打越遺跡	集落跡	栗崎町打越	奈良・平安	
259	東前町遺跡	集落跡	東前町原	古墳・奈良・平安	
279	道西遺跡	集落跡	六反田町道西	先土器・縄文・弥生・奈良・平安	方形周溝墓3・平成36粘発掘調査
290	東組遺跡	集落跡	元吉田町東組	縄文(早)・弥生(後)・古墳(前)・奈良・平安・中世・近世	古代火葬墓1、平成20年発掘調査

王院東遺跡（128）では、中期の堅穴状造構や早期沈線文系・後期安行式の土器が確認されている。大鋸町遺跡では早期撫糸文系・沈線文系、中期阿玉台式～後期堀之内式・安行式、晚期前浦式までの土器が出土している。全体的には早期～晚期まで長い活動が窺えるが、調査面積が狭く、集落は不明な点が多い。

**弥生時代** 後期後半の十王台式期が主体である。薬王院東遺跡・大鋸町遺跡・お下屋敷遺跡（010）・町付遺跡（235）で集落跡が確認され、半径1km圏内にやや集中する傾向が窺える。土器の細別型式から判断すると集落移動が捉えられるという（色川2008）。また、低位段丘上の薄内遺跡（185）では、前期末～中期初頭に比定される土器破片と中期末の土器破片がまとまって確認されており、注目に値する。

**古墳時代** 前期集落は大鋸町遺跡・お下屋敷遺跡・薄内遺跡・町付遺跡・東組遺跡（290）などがあり、弥生時代後期後半の立地を踏襲する。中期遺跡は極めて希薄だが、大鋸町遺跡で6軒の住居跡と9点の古式須恵器（TK208～TK47型式）が確認され、その拠点的性格が特筆される。後期集落はお下屋敷遺跡など各地に展開し、7世紀後半には台渡里遺跡一帯に集中するようである。

前期古墳は那珂川を涮った市北部の飯富町・藤井町に前方後方墳や前方後方形周溝墓が集中する。百合ヶ丘町の道西遺跡（279）では、平成16年の調査時に前期の方形周溝墓が2基発見された。大洗町域の丘陵上にも坊主山古墳（方方：50m）・鏡塚古墳（方円：105m）・車塚古墳（円：95m）の3基が築造されている。中期古墳は那珂川右岸に面した上市台地北縁、大鋸町遺跡の西約5.4kmに愛宕山古墳群があり、5世紀前葉の愛宕山古墳（方円：148m）と煙滅した姫塚古墳（方円：58m）が存在する。愛宕山古墳は県内第3位の大きさを誇り、黒班を持つ円筒埴輪が多数採集されている。

後期～終末期にかけては、吉田台地の中央部を開析する潤沼川の一支流である石川川と、那珂川低地帯に挟まれた吉田台地北半部に古墳群が密集する。いずれも両川に沿う低地帯から樹枝状に入り込む小谷津に面した台地縁辺部や平坦地に立地し、低地帯からは少々奥まった所に築造されるのが特徴である。後期は吉田台地に酒門台古墳群（068）や大串古墳群が展開する。酒門台古墳群では前方後円墳を思わせる盛土と円墳2基が確認されている。県道中石崎水戸線に面した宅地内には石室の天井石が残存し、近隣の畑地では円筒埴輪片が採集されている。本遺跡はこの酒門台古墳群に属すると考えられる。大串古墳群は本遺跡の南東約5.2kmに位置する。煙滅したものを含め、前方後円墳・円墳・方墳など10基程の構成と考えられている。前方後円墳からは五獣鏡・銅環・直刀・鐵鐵・木製壺鏡などが出土している。大串古墳群の一画には北屋敷古墳群があり、円墳2基が調査されている。第1号墳では横穴式石室から直刀や小刀などが、第2号墳では多くの円筒埴輪・形象埴輪が出土している。那珂川左岸の北東部には富士山古墳群・小原内古墳群が、西部には赤塚古墳群・加倉井古墳群・牛伏古墳群が築造されている。

終末期は那珂川右岸の北部にニガサワ古墳群・西原古墳群・大井古墳群、北東部に白石古墳群と権現山横穴墓群がある。吉田台地には谷田古墳群・吉田古墳群・福沢古墳群・払沢古墳群などが広がる。福沢古墳群（074）は円墳3基が現存し、隣接する払沢古墳群（073：煙滅）とは同一の古墳群と考えられる。本遺跡の南東に隣接する谷田古墳群（069）は、前方後円墳1基と円墳5基が現存する。吉田古墳群（072）は装飾古墳として史学的に有名な第1号墳「吉田古墳」を含む古墳群である。2基

が現存し、かつては4基あったときく。なお、第1号墳の周溝からは隣接古墳から流れ込んだとされる円筒埴輪が出土しており、吉田古墳群は遅くとも6世紀から築造が開始されていたと考えられる。

**奈良・平安時代** 上市台地北縁部に「台渡里遺跡群」が展開する。郡寺とされる台渡里廃寺跡や、推定郡衙正倉院の台渡里廃寺跡長者山地区、郡衙あるいは河内駅家とされる台渡里遺跡を筆頭に、郡庁・正倉・郡寺・集落が一体集中化した那賀郡中枢域として機能したようである。対岸には河内駅家と推測されている田谷廃寺跡・白石遺跡が位置する。また、大串遺跡第7地点では、郡衙正倉別院とされる掘り込み総地業礎石建物・正倉を区画する大型のV字溝・多量の炭化米が検出された大型床束掘立柱建物跡などが確認されている。隣接する梶内遺跡は100軒を越す集落で、綠釉・灰釉陶器や墨書き土器・円面鏡などが出土した。川口武彦は大串遺跡から南東約2.3km、瀬沼川左岸の平戸町に推定できる平津駅家について、駅家機能を大串遺跡と分担していた可能性を言及している（川口2008b）。町付遺跡では那珂郡衙と平津駅家とを繋ぐ伝路に想定される道路状遺構が検出されている。弘仁3(812)年には河内駅家は廃止され、10世紀第1四半期には台渡里廃寺も廃絶するという（関口2006）。律令体制が崩壊するなか、9世紀以降には吉田神社(161)が隆盛し、10世紀前半には吉田郡が那賀郡から独立している（水戸市史編纂委員会1963）。8～9世紀代の集落は、大鋸町遺跡で竪穴住居跡30軒・薬王院東遺跡で竪穴住居跡38軒が検出されるなど集住傾向があり、9世紀後半には道西遺跡など小規模集落の増加が窺えるという（渥美2008）。吉田神社を基点とした半径1kmの扇状範囲には東組遺跡・大鋸町遺跡・薬王院東遺跡がまとまる。7世紀後半の拠点集落を継続利用した官衙・駅家・寺院・集落の複合遺跡群に対し、8世紀以降に開発あるいは再開発された吉田地区を基盤として成立したのが、吉田神社・薬王院などの在地有力寺社勢力なのであろう。

**中世** 大鋸町遺跡から北東へと延びる細長い舌状台地上に吉田城(101)がある。常陸大掾氏系の吉田氏が平安末期に館を構えた伝承がある。吉田氏とその一族の石川氏・馬場氏は鎌倉御家人の地頭職として在地支配を行った。戦国期には佐竹氏が水戸城を居城とし、拡張・整備を実施した。大鋸町遺跡からは青磁・白磁・かわらけなどが出土し（平成16年調査）、中世の堀も確認されている（平成20年調査）。

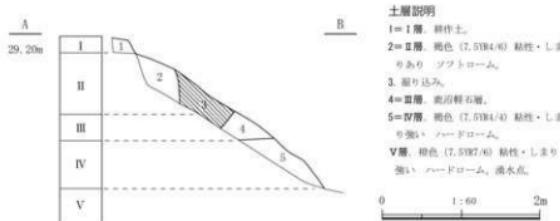
**近世** 佐竹氏の秋田移封・武田信吉の入封を経て、慶長14(1609)年に徳川頼房の入封をもって、水戸徳川家が成立する。本遺跡の東約1.2kmには近世の江戸（水戸）街道が南北に走り、吉田神社を経由して下市へ至る。水戸藩をはじめ東北諸藩が参勤交代に利用する幹線道路として機能していたようで、字町附から街道筋までには、同心町・古宿などの地名・字名が残っている。

## 第Ⅲ章 発見された遺構・遺物

### 第1節 基本層序

基本層序は、SD-2（堀跡）がローム層を深く掘りこんで構築していたため、その側壁面からおよそ50cmほど掘削して把握した。実測図は、そこで把握された層序（第3図右、I層～V層）をもとに柱状図（I層～V層）を作成した。

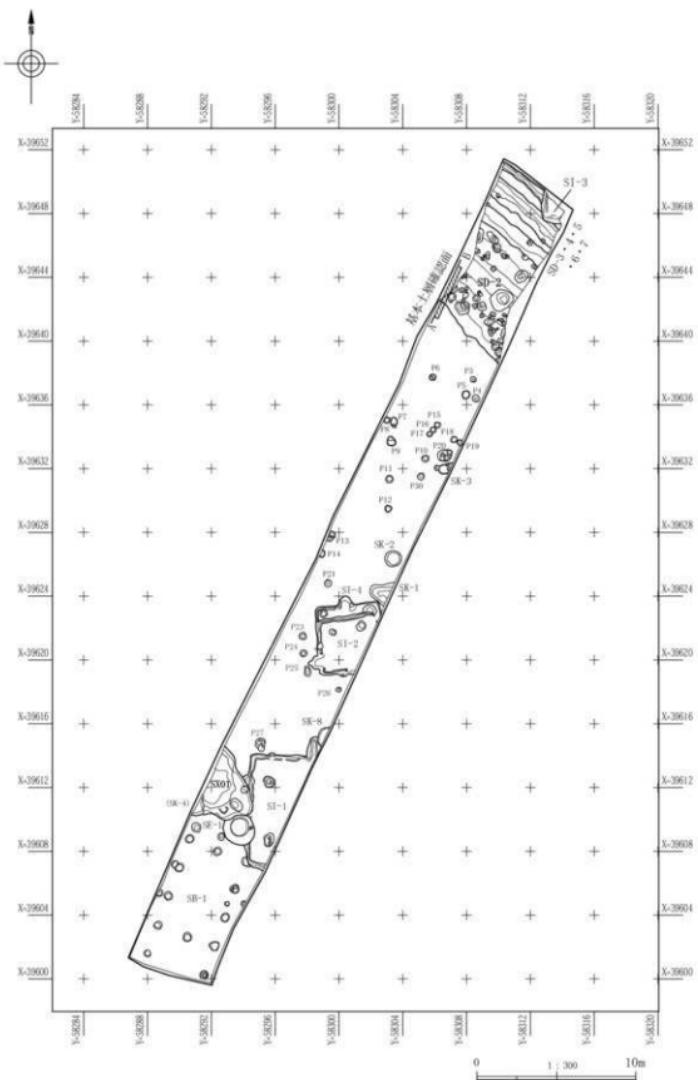
まず、現地表面から約30cmほど現耕作土が堆積しており、遺構確認面はそれを除去したローム上面（II層上面）で行った。確認されたいずれの遺構もII層から掘り込まれていた。III層は鹿沼軽石層で、この深さまで掘り込まれた遺構は、SD-2（堀跡）・SE-1（井戸跡）以外にはない。後述するが、SD-2・SE-1ではいずれもこの鹿沼軽石層において掘り込み角度を変換させており、構築物において何らかの鍵層となっていたと推測される。V層は粘性の強い堅緻な土層であるが、この層をわずかに掘り込むと現在の湧水点にあたる。SD-2はこれより下層へは掘り込まれず、SE-1（井戸跡）はこの層まで掘削することによって湧水点に達したことがわかった。（石丸）



第3図 基本層序実測図

### 第2節 発見された遺構

調査対象とした遺構は、竪穴建物跡4棟、掘立柱建物跡1棟、溝・堀跡5条、土坑4基、ピット20基である。いざれも基本土層II層上面から掘り込みが確認された遺構で、それより上層を遺構検出面とするものは確認できなかった。基本土層II層から上は耕作土となっており、耕作土直下で遺構が確認されることになる。基本土層II層は比較的安定した堆積をなしており、それより下の土層中から掘り込まれる遺構は窺えなかった。（石丸）



第4図 大鋸町遺跡第8地点全体図

## (1) 建物跡（堅穴建物跡・掘立柱建物跡）

検出された建物跡には堅穴建物跡と掘立柱建物跡がある。「住居跡」はその性格を限定するため使用していない。

堅穴建物跡は4棟検出された。その分布は密ではなく、ある程度の間隔をもって配置されている。いずれも平安時代に位置づけられるもので、別時代のものが複合したものではなく、当該期の集落の一端にあたるものとされる。掘立柱建物跡は、1棟確認された（SB-1）。堅穴建物跡（SI-1）と重複しており、それと同時期に存在した可能性は低いと考えられる。

### SI-1（堅穴建物跡）

**概要** 東半は調査区外に及んでいる。SE-1・SX-1・SB-1と重複しており、SI-1 → SB-1 → SE-1 → SX-1の先後関係が把握された。

**規模・形態** 南北7.4mを計測する。東壁は不明であるが、その平面形態は正方形と想定される。

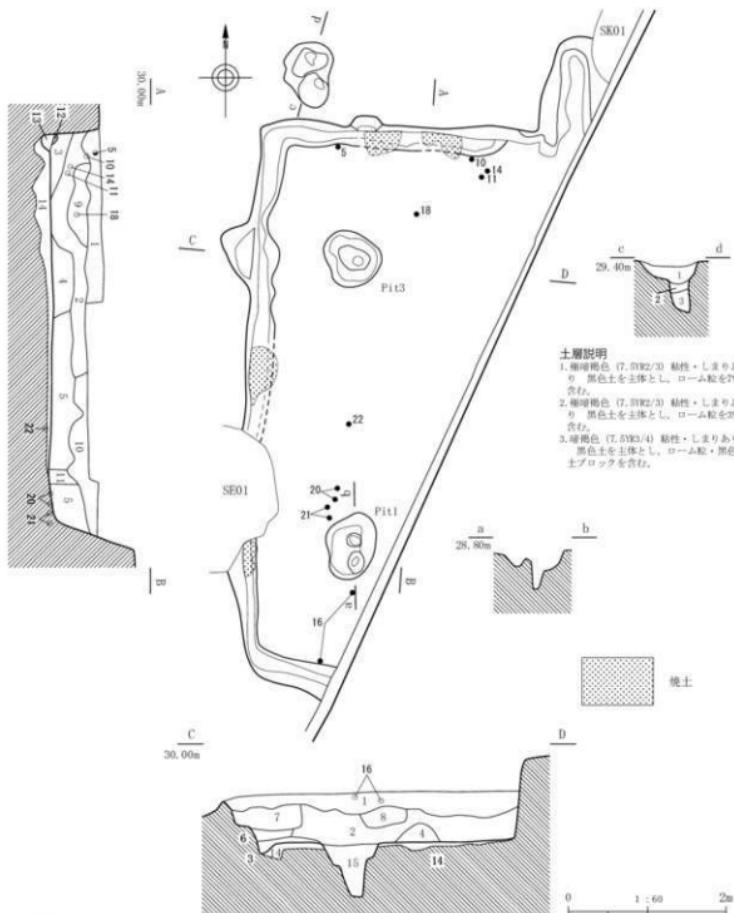
**建物施設** 北壁においてカマドが検出された。カマドは大きく壊されていたが、ロームブロックを多く含む褐色土（1・2層）が被覆していた。その下面、燃焼部側には焼土および被熱の痕跡が認められないいっぽうで、上面は堅緻で突き固めた観があることから、カマド破壊後に人為的に被覆した可能性が考えられる。柱穴は2基確認された。その平面検出プランは大きく、土層断面には柱痕が確認されなかった。柱穴脇には貼床由来と考えられるローム土が柱状に堆積しており、柱は抜き取られたものと考えられる。壁周溝は明瞭に認められた。北壁際には掘方の明瞭な柱穴が1基認められた。一部壁面を掘り込んでおり、壁材の外側に設置されたものと想定される。その他の壁面では同様の柱穴は確認されなかった。掘方は、堅穴四周を深く掘り込んでいる。その埋土中には遺物を若干包含していたが、意図的に埋置したものは認められなかつた。

貯蔵穴は調査区内では確認できなかつた。

**覆土堆積状況** 覆土はレンズ状に堆積しておらず、初期覆土は2・3・4・5層と考えられる。4層のような土山状の堆積も認められ、人為的埋没と想定される。また壁際には点在する焼土が確認された。焼土はいずれも壁から10cm程度離れた位置で検出され、壁との間に壁材が想定される黒色土層を挟んでいた。初期覆土中には炭化物を多く含んでいることからも、住居廃絶時に焼却行為が行われたものと想定される。その後、7・8・9・10層のように土坑状に掘り込まれるが、そこからの出土遺物はなく、その時期は不明である。

**遺物出土状況** 出土した遺物は少ない。土器においてはその大半が覆土中から出土している。Pit1の北西側において鉄鎌2本（20・21）が床面直上から出土している。

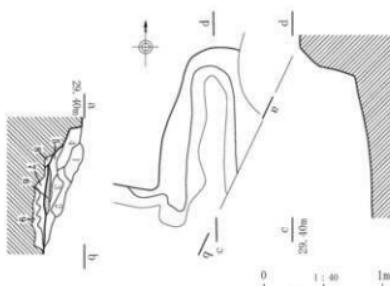
**時期** 出土した遺物には8世紀初頭のものと9世紀前半のものとがある。後者の方が主体となつてることから本建物跡はその時期におさまると考えられる。（石丸）



#### SI-1 土層説明

1. 黒褐色 (7, SWR2/2) 粘性・しまりなし。細粒子の黒色土を主体とし、透3mmのローム粘を7%含む。
2. 橙褐色 (7, SWR2/3) 粘性・しまりありあり 黒色土を主体とし、ロームブロック・黒色土ブロックを5%含む。
3. 黑褐色 (7, SWR2/2) 粘性・しまりなし。黒色土を主体とし、透3mmのローム粘を7%含む。土塊を手で捏ねて柔軟。
4. 黑褐色 (7, SWR2/3) 粘性ありあり 黒色土を主体とし、透3mmのローム粘を7%。土塊を手で捏ねて柔軟。
5. 黑褐色 (7, SWR2/3) 粘性・しまりありあり 黒色土を主体とし、ロームブロック・黒色土ブロックを含む。2層に類似。ロームブロック・黒色土ブロックを含む。2層よりロームブロックを多く含む。
6. 黑褐色 (7, SWR2/2) 粘性・しまり強。ロームを主体とし。黒色土を多く含む。土塊硬直。
7. 黑褐色 (7, SWR2/2) 粘性・しまりなし。細粒子の黒色土を主体とし。透1mm以下のローム粘を7%含む。土塊硬直。
8. 黑褐色 (7, SWR2/2) 粘性・しまりなし。細粒子の黒色土を主体とし。透1mm以下のローム粘を7%含む。土塊硬直。
9. 黑褐色 (7, SWR2/3) 粘性・しまりありあり 黑色土を主体とし、透5mmのローム粘を10%。黒色土ブロックを含む。
10. 黑褐色 (7, SWR2/2) 粘性・しまりありあり 黑色土を主体とし、透5mmのローム粘を7%含む。
11. 黑褐色 (7, SWR2/2) 粘性・しまりありあり 黑色土を主体とし。透5mmのローム粘を含む。
12. 黑土。
13. 黑褐色 (7, SWR2/2) 粘性あり・しまりなし。黑色土を主体とし。透1mmのローム粘を含む。
14. 黑褐色 (7, SWR3/2) 粘性・しまりあり。ロームを主体とし。黑色土ブロックを含む。Pit3地土。
15. 橙褐色 (7, SWR2/3) 粘性・しまりなし。黑色土を主体とし。ロームブロックを含む。

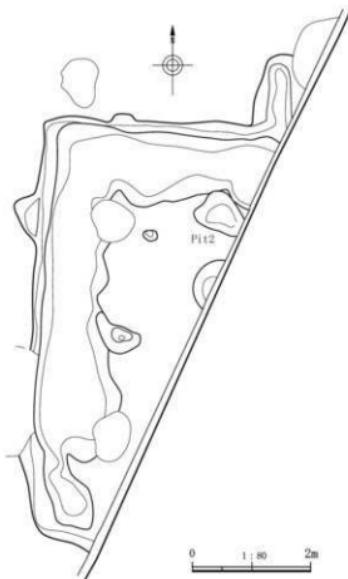
第5図 SI-1 実測図 (1)



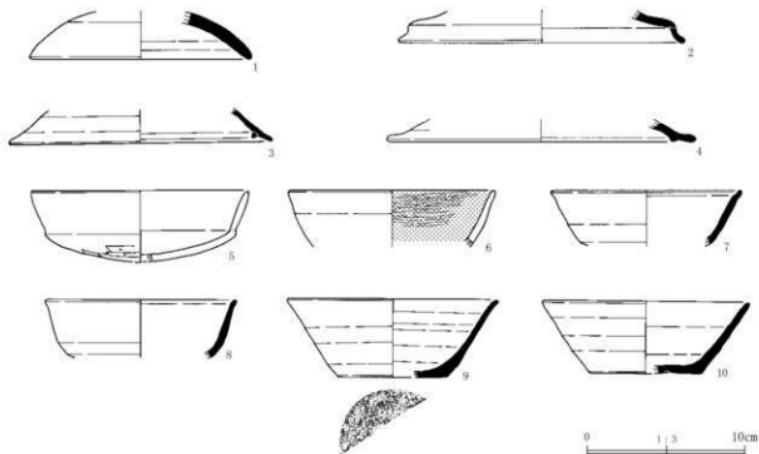
土層説明

1. 黒色 (7.5W4/6) 粘性あり・しまり強 ロームを主体とし、黒色土を斑状に含む。
2. 黒色 (7.5W4/6) 粘性あり・しまり強 ロームブロックを主体とし、黒色土を斑状に含む。
3. 黑色 (7.5W6/6) 粘性あり・しまりなし 砂質を帯びる白色土を主体とし、黒土・黒色土をわずかに含む。
4. 黑色 (7.5W4/6) 粘性・しまりあり ロームを主体とし、黒色土・植土をごく一部に含む。カマド大井部の落土。
5. 塗褐色 (7.5W4/4) 粘性・しまりなし ロームと黒色土を均一に含む。植土粒を75%含む。
6. 深褐色 (7.5W4/9) 粘性・しまりあり 植土を主体とし、黒色土を含む。
7. 棕褐色 (7.5W2/3) 粘性・しまりあり 黒色土を主体とし、径1cm以下のロームブロックを10%含む。植土粒を2%・暗黒色土粒を5%含む。能力壤土。

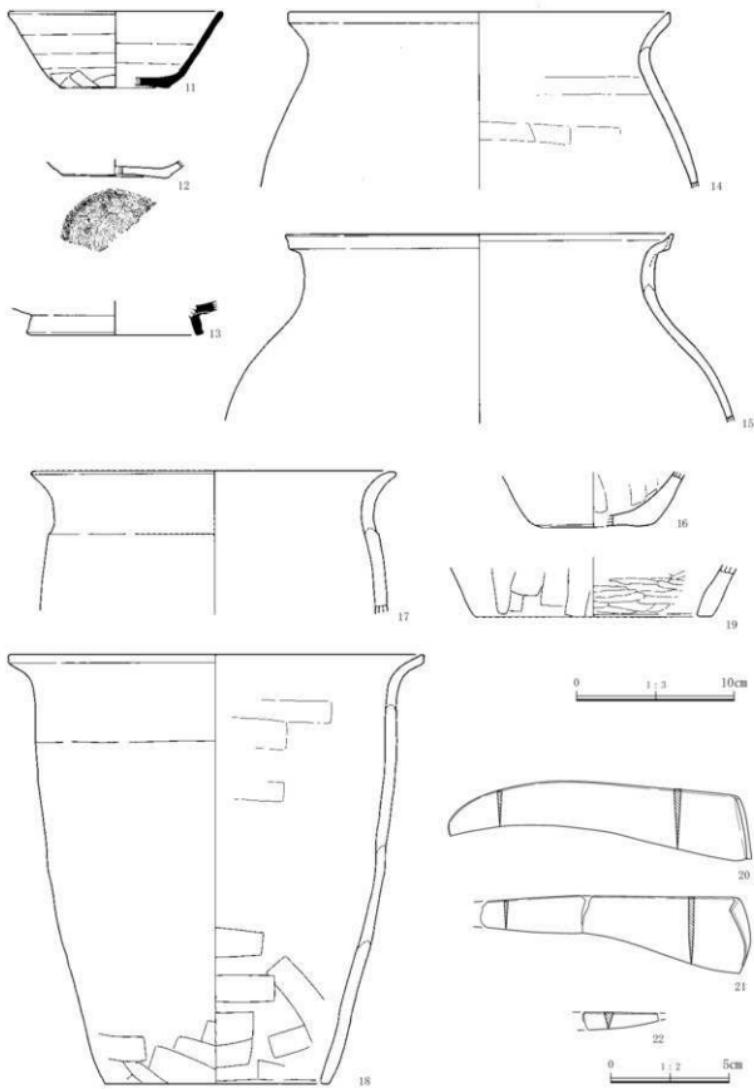
第6図 SI-1 カマド実測図



第7図 SI-1 掘方実測図



第8図 SI-1 出土遺物 (1)



第9図 SI-1出土遺物(2)

第2表 SI-1 出土遺物觀察表

No.	種別	法量 (cm) / 存在部	形成・技術などの特徴 / 肌士	色調	出土位置	備考
1	須恵器 壺	口径 : (14.0) 器高 : [3.0] /1.0以下	輪轉成形。口縁部は丸くおさめる。底部回転へラケズリ。 /雲母多量。石英、長石。	外面 : 黄 (5Y5/1) 内面 : 黄 (5Y5/1)	2区1	
2	須恵器 壺	口径 : (16.0) 器高 : [2.0] /1.0以上	輪轉成形。口縁部は強く外反して開く。/石英。長石。 灰色。	外面 : 黄 (5Y5/1) 内面 : 黄 (5Y5/1)	4区2	
3	須恵器 壺	口径 : (16.6) 器高 : [2.1] /1.0	輪轉成形。カエリはシャープに作られ。接缝しない。頂部回転へラケズリ。/径 1.0mm 石英。長石多量。	外面 : 黄灰 (2.5Y5/1) 内面 : 黄灰 (2.5Y5/1)	4区2	
4	須恵器 壺	口径 : (19.4) 器高 : [1.4] /鏡片	輪轉成形。カエリはわざかに突出する程度だが、接缝する。 酸化気泡。/石英。	外面 : 單色黄 (2.5Y5/2) 内面 : オリーブ黒 (B73/2)	2区2	
5	土師器 环	口径 : (13.8) 器高 : 4.5 /1.0以上	口縁と体部との境は棱をなし。口縁は外方へ開く。体部 へラケズリ。/金雲母。径 2.0mm 石英。長石。	外面 : にぶい黒 (7.0B5/4) 内面 : にぶい黒 (7.0B5/4)	No.2, 1区 1	
6	土師器 环	口径 : (13.0) 器高 : [3.6] /1.0以下	体部はわざかに内凹し。口縁はナダによりわざかに外反 する。内面黑色處理。/石英。長石。	外面 : にぶい黄褐 (10YR5/3) 内面 : 黑 (02/2)	4区3	
7	須恵器 环	口径 : (12.0) 器高 : [3.5] /1.0	輪轉成形。口縁端部内側には土継がれぐる。体部下端に へラケズリが看取れる。/径 1.0mm 石英。長石多量。	外面 : 黄 (NS5/1) 内面 : 黄 (NS5/1)	1区1	
8	須恵器 环	口径 : (12.0) 器高 : [3.5] /1.0	輪轉成形。体部は丸く立ち上がり。口縁端部は外反する。 体部下回転へラケズリ。/繊製。白色微少量。	外面 : 黄 (NS5/1) 内面 : 黄 (NS5/1)	2区2	
9	須恵器 环	口径 : (13.2) 器高 : [6.8] /1.0以下	輪轉成形。近部回転へラケズリ。ナダ。底には棒状工具 による凹・削刻あり。/径 3.0mm 以下石英。長石。灰色。	外面 : 黄 (NS5/1) 内面 : 黄 (NS5/1)	4区2	
10	須恵器 环	口径 : (13.0) 器高 : (7.0) /1.0以下	輪轉成形。直頭へラケズリ。/径 1.0mm 以下白色粒。灰色粒。 雲母微片。	外面 : 黄灰 (2.5Y6/1) 内面 : 黄灰 (2.5Y6/1)	No.8	
11	須恵器 环	口径 : (13.6) 器高 : [8.0] /1.0以下	輪轉成形。直頭斜部へラケズリ。体部下端にへラケズリ。 /径 5.0mm 以下石英。長石。	外面 : 黄 (NS5/1) 内面 : 黄 (NS5/1)	No.9	
12	土師器 环	直径 : (6.6) 器高 : [1.1] /1.0以上	輪轉成形。近部回転あり。内面黑色處理。/石英。長石。 赤褐色粒。	外面 : にぶい黄褐 (10YR3/3) 内面 : 黑 (02/2)	4区2	
13	須恵器 高台付环	口径 : (11.0) 器高 : [2.1] /1.0以下	輪轉成形。高台はまっすぐ外方へ開き。その端部は面を もつ。/径 1.0mm 以下石英。長石。	外面 : 黄 (NS5/1) 内面 : 黄 (NS5/1)	6区2	
14	土師器 环	口径 : (21.0) 器高 : [11.1] /1.0	口縁端部2.0mm 以上に緩やかな面をもつ。両部外面ナダ。 内面 : ナダ。/金雲母。石英。長石多量。	外面 : にぶい赤褐 (7.0B5/4) 内面 : 雜 (7.0B4/3)	No.10, 1区 2, 1区3, 4区2	
15	土師器 环	口径 : (24.4) 器高 : [11.9] /1.0以下	口縁端部は比較的シャープな面をもつ。上方へ立ち上がる 。内外面ナダ調整。/金雲母多量。長石。石英。	外面 : にぶい黒 (7.0B5/4) 内面 : にぶい黄褐 (10YR3/4)	4区	
16	土師器 环	直径 : (7.4) 器高 : [3.4] /1.0	底から体部にかけて丸く屈曲する。外表面ナダ。内面へラ ケズリ。/径 1.0mm 石英。長石。	外面 : 黄褐 (10YR4/2) 内面 : 黄褐 (10YR4/2)	No.10, No. 17	
17	土師器 环	口径 : (23.0) 器高 : [9.0] /1.0以下	口縁端は外反し。端部は丸くおさめる。内外面ナダ。 /白色粒粒多量。	外面 : 黄褐 (7.5YR4/2) 内面 : 黄褐 (7.5YR4/2)	1区4, 4区 1	
18	土師器 环	口径 : (26.0) 器高 : (11.0) /1.0	口縁端部は2面をもち、わざかに上方へ立ち上がる。底面 内外面へラケズリ。/金雲母。石英多量。長石。赤褐色粒。	外面 : にぶい黒 (7.0B5/3) 内面 : にぶい黒 (7.0B5/3)	No.7, 1区2, 5区2	
19	土師器 环	直径 : (14.8) 器高 : [3.2] /1.0	高台は厚手で、底面は平坦面をなす。外表面へラケズリ。 内面 : ガキ。/石英。長石。	外面 : にぶい黒 (7.0B5/3) 内面 : 黄褐 (10YR5/2)	4区2	
No.	種別	法量 (cm)	形態等の特徴	出土位置	備考	
20	鉄製品 鍔	全長 : 12.8 幅 : 2.7 厚さ : 0.3	刀部は直線的にひび。先端部で曲線状になる。着柄部分 は楕円に割り込む。	No.22		
21	鉄製品 鍔	全長 : [11.4] 幅 : 3.5 厚さ : 0.2	刀部は直線的にひび。着柄部分は折り畳む。	No.21		
22	鉄製品 刀子	全長 : [3.2] 幅 : 0.5 厚さ : 0.4	断面三角形で刀部を作出。	No.27		

### SI-2（竪穴建物跡）

**概要** 方形の住居プランが検出された。SI-4と重複しているが、平面検出時にはその切り合い関係は把握できなかった。土層断面観察によってSI-4→SI-2の先後関係が把握できた。

**規模・形態** 南北3.8mを計測する。東西軸は東壁が明瞭でなかったが、周溝の規模から3.8mと推定される。その平面形態は正方形を呈する。

**建物施設** 住居南西側にカマドが検出された。カマド天井部は崩壊していたが、地山成形の袖部が残存していた。カマド中央・燃焼部分では支脚として横瓶（36）の口頭部が正位に置かれ、その上に須恵器壺3点（15・16・21）が伏せた状態で重ねてあった。また両袖には横瓶（36）の体部片が貼り付けられており、横瓶を破碎してカマドの構築材として利用した状況がみられた。その横瓶の体部片は掘方埋土中からも出土しており、床面構築以前にカマドが造られたと想定される。またこの横瓶は7世紀後半に帰属するものであり、本建物跡から出土している土器とは時期差がある。よって他所（古墳か）から持ち込まれたものと推測される。柱穴は4本主柱穴を構成せず、カマド脇に斜位に深く掘り込まれる柱穴が確認された。また竪穴外にもピットが確認されたが、明瞭な柱痕は確認できず、本建物に帰属するか否かは検討の余地を残している。

**覆土堆積状況** 黒色土を主体とした覆土が堆積しており、後世の掘り込みがいくつか確認されるものの、おおむね自然埋没と考えられる。

**遺物出土状況** 覆土中から多量の遺物が出土しており、床面直上での土器から出土した土器は少ない。鉄製品が多く認められ、カマド脇からは鉄鐵（47）が横位になって出土している。また掘方埋土中からは土製紡錘車（42）のほか、鉄製紡錘車（49）や刀子（43・46）といった鉄製品が出土している。42・49はピット状の掘り込み、43・46は柱穴掘方から出土しており、意図的な設置が窺える。

**時期** 出土した遺物は、9世紀後葉から10世紀にかかる所産のものであり、本建物跡はその時期におさまるものと考えられる。

### SI-4（竪穴建物跡）

**概要** 方形のプランが確認されたが、平面検出時にはSI-2との区別は認識できなかった。土層堆積状況の検討によってSI-2との切り合い関係が把握され、SI-4→SI-2の先後関係が認められた。遺物はカマドを中心に、西半を1区、東半を2区として取上げた。

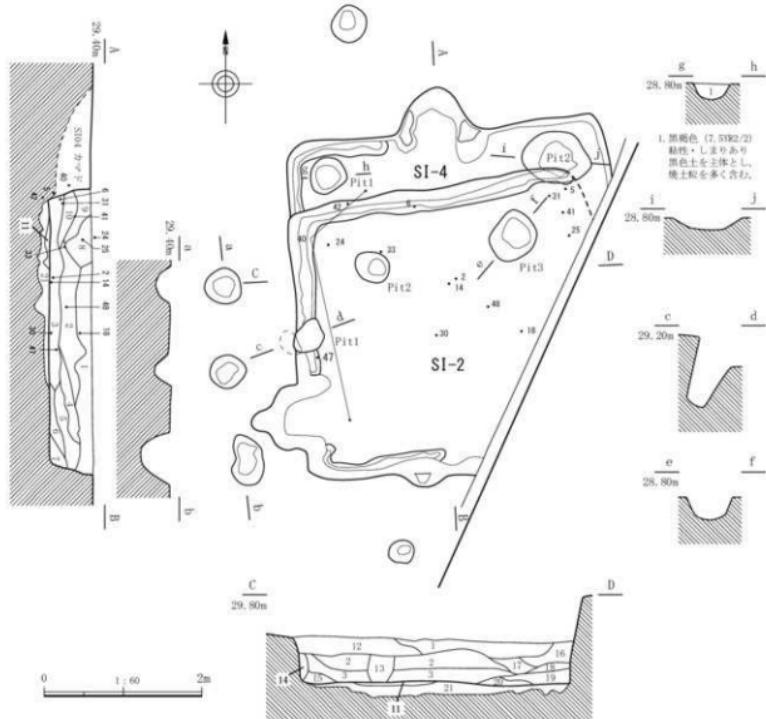
**規模・形態** 東西4.0mを計測する。

**建物施設** 北壁中央にカマドが検出された。カマド天井部は崩壊していたが、袖部が残存していた。カマド袖は地山ローム、礫および方形粘土塊を用いて構築している。カマド左袖には瓶片（20）が貼り付けられている。深度のある柱穴は確認されず、北東隅に浅いピットが確認された。

**覆土堆積状況** SI-2に大きく切られているため、堆積状況は明確には把握できなかったが、黒色土を主体とした覆土が堆積している。

**遺物出土状況** 遺物はカマド内から主に出土している。その他、北東隅土坑からは須恵器甕（15）が出土している。わずかに掘り込んだ土坑に須恵器甕を設置したものと想定される。

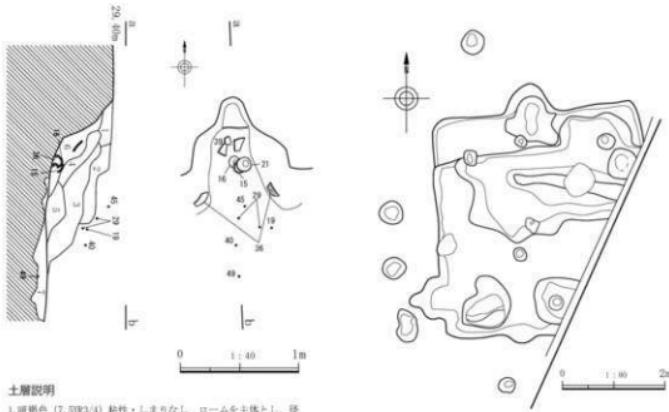
**時期** 出土した遺物は9世紀代のものを主体としており、本建物跡はその時期におさまる。



#### 土層説明

1. 黄褐色 (7.SYR2/2) 粘性・しまりあり 黑色土を主体とし、壤5mのローム粒を30%含む。
2. 黑褐色 (7.SYR2/2) 粘性・しまりなし 黑色土を主体とし、壤5mのローム粒を75%含む。
3. 黑褐色 (7.SYR2/2) 粘性・しまりなし 黑色土を主体とし、壤1.0m以下のローム粒を3%、壤土粒、炭を含む。
4. 黑褐色 (7.SYR2/2) 粘性・しまりあり 黑色土を主体とし、壤2.0mのローム粒を30%、壤土粒、炭を含む。
5. 黑褐色 (7.SYR2/2) 粘性・しまりあり 黑色土を主体とし、壤5.0mのローム粒を30%，壤土粒、炭を含む。
6. 黑色 (7.SYR2/2) 粘性・しまりあり 黑色土を主体とし、壤5mのローム粒を30%、壤土粒、炭を含む。
7. 黑褐色 (7.SYR2/2) 粘性・しまりあり 黑色土を主体とし、壤10mのローム粒を30%含む。
8. 黑褐色 (7.SYR2/2) 粘性・しまりあり 黑色土を主体とし、壤10mのローム粒を30%含む。
9. 黑褐色 (7.SYR2/2) 粘性・しまりなし 黑色土を主体とし、壤5mのローム粒を10%、壤土粒をわずかに含む。
10. 黑褐色 (7.SYR2/2) 粘性・しまりあり 黑色土を主体とし、壤5mのローム粒を10%、壤土粒をわずかに含む。
11. 黄褐色 黄褐色。
12. 黑褐色 (7.SYR2/2) 粘性・しまりややあり 黑色土を主体とし、壤5mのローム粒を10%含む。
13. 黑褐色 (7.SYR2/2) 粘性・しまりややあり 黑色土を主体とし、壤1.0mのローム粒を10%、壤5.0mのロームブロックを含む。
14. 黑褐色 (7.SYR2/2) 粘性・しまりあり 黑色土を主体とし、壤5mのローム粒を30%含む。
15. 黑褐色 (7.SYR2/2) 粘性・しまりあり 黑色土を主体とし、壤5mのローム粒を30%、壤土粒を多く含む。
16. 黑褐色 (7.SYR2/2) 粘性・しまりあり 黑色土を主体とし、壤5mのローム粒を30%、壤土粒、炭をわずかに含む。
17. 黑褐色 (7.SYR2/2) 粘性・しまりあり 黑色土を主体とし、壤5mのローム粒を30%含む。
18. 黑褐色 (7.SYR2/2) 粘性・しまりあり 黑色土を主体とし、グラナ細粒を多く含む。
19. 橙褐色 (7.SYR2/2) 粘性・ややあり 黑色土を主体とし、グラナ細粒化した炭、壤土粒を主体とする。
20. 黑褐色 (7.SYR2/2) 粘性・しまりあり 壤5mのローム粒。壤土粒を含む。
21. 鹿方堆土。

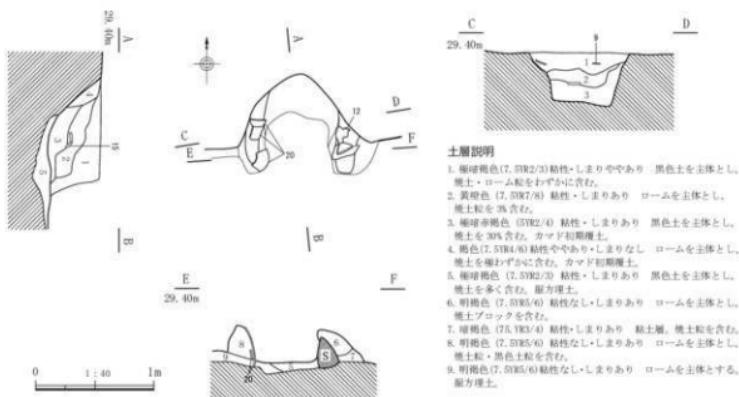
第10図 SI-2・SI-4実測図



土層説明

1. 黒褐色 (7.3RK3/4) 粘性・しまりなし ロームを主体とし、径 5mmの堆土粒をわずかに含む。
2. 黒褐色 (7.3RK2/2) 粘性・しまりなし 黒色土を主体とする。粘土層。
3. 黒褐色 (7.3RK2/2) 粘性・しまりあり 黑色土を主体とし、径 1.0cmの堆土粒、径3mmのローム粒をわずかに含む。
4. 黑褐色 (7.3RK2/4) 粘性・しまりなし ロームを主体とし、黑色土ブロックを含む。カマド覆土。
5. 深緑褐色 (2.5RK2/3) 粘性・しまりあり 黑色土を主体とし、径1.0mmのロームブロック・堆土ブロックを含む。
6. 深緑褐色 (2.5RK2/3) 粘性・しまりややあり 黑色土を主体とし、径2mmの堆土ブロックを多く含む。
7. 脳力覆土。

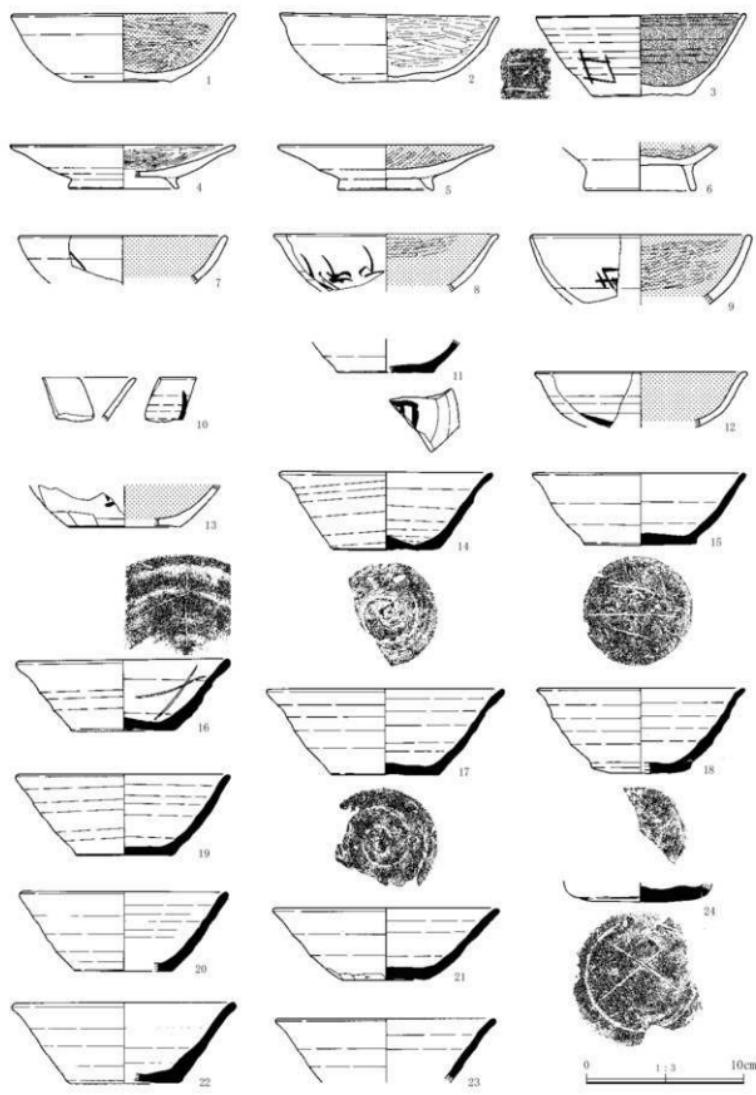
第 11 図 SI-2 カマド実測図



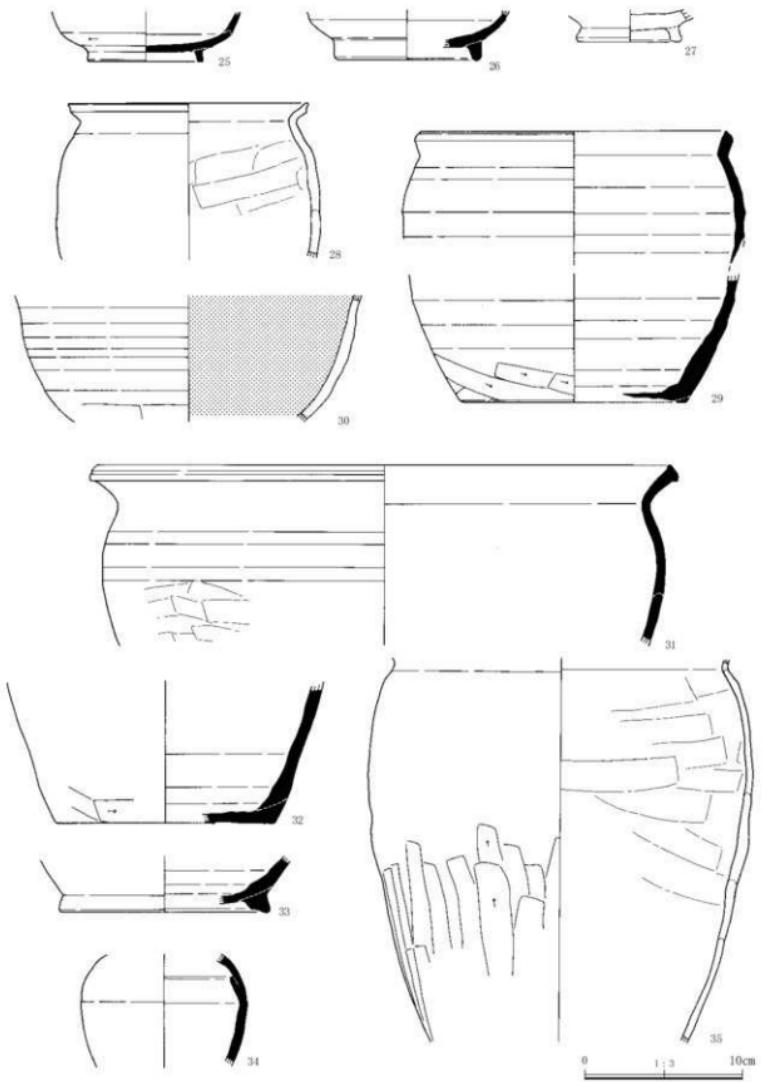
第 13 図 SI-2・4 堀方実測図

- 土層説明
1. 黒褐色 (7.3RK2/3) 粘性・しまりややあり 黑色土を主体とし、堆土・ローム粒をわずかに含む。
  2. 黄褐色 (7.3RK7/8) 粘性・しまりあり ロームを主体とし、堆土粒を含む。
  3. 深緑褐色 (2.5RK2/4) 粘性・しまりあり 黑色土を主体とし、堆土を 30% 含む。カマド初期覆土。
  4. 黑褐色 (2.5RK4/6) 粘性やややあり・しまりなし ロームを主体とし、堆土を極わずかに含む。カマド初期覆土。
  5. 深緑褐色 (2.5RK2/3) 粘性・しまりあり 黑色土を主体とし、堆土を多く含む。脳力覆土。
  6. 明褐色 (7.3RK5/6) 粘性なし・しまりあり ロームを主体とし、堆土ブロックを含む。
  7. 深褐色 (2.5RK2/4) 粘性・しまりあり 堆土層、堆土粒を含む。
  8. 明褐色 (7.3RK5/6) 粘性なし・しまりあり ロームを主体とし、堆土粒・黑色土粒を含む。
  9. 明褐色 (7.3RK5/6) 粘性なし・しまりあり ロームを主体とする。脳力覆土。

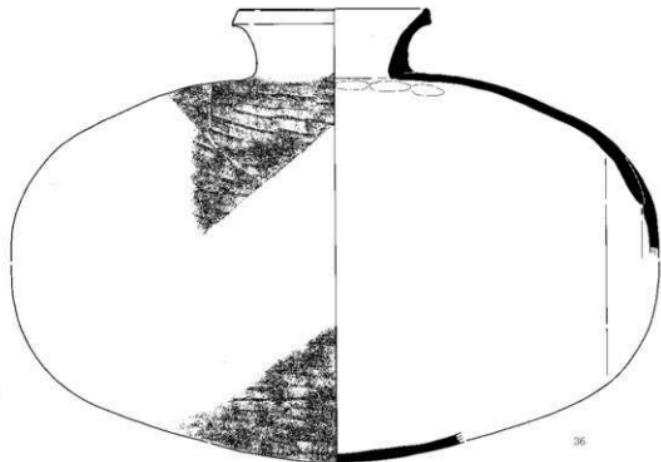
第 12 図 SI-4 カマド実測図



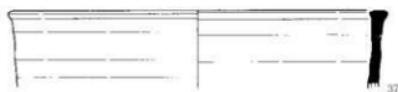
第14図 SI-2出土遺物(1)



第15図 SI-2出土遺物(2)



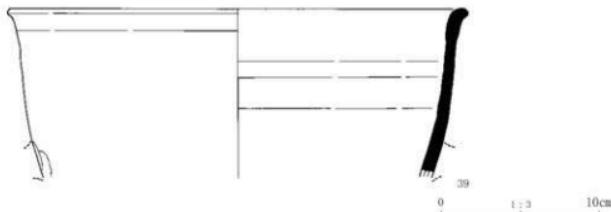
36



37



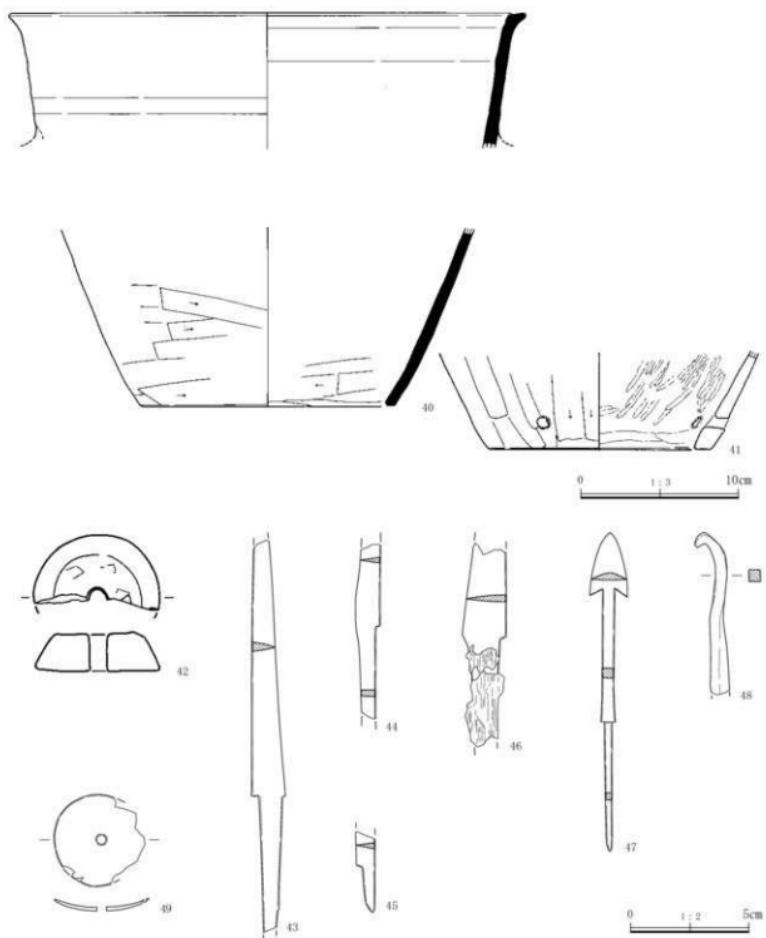
38



39

0 1 : 3 10cm

第 16 図 SI-2 出土遺物 (3)



第 17 図 SI-2 出土遺物 (4)

第3表 SI-2 出土遺物観察表(1)

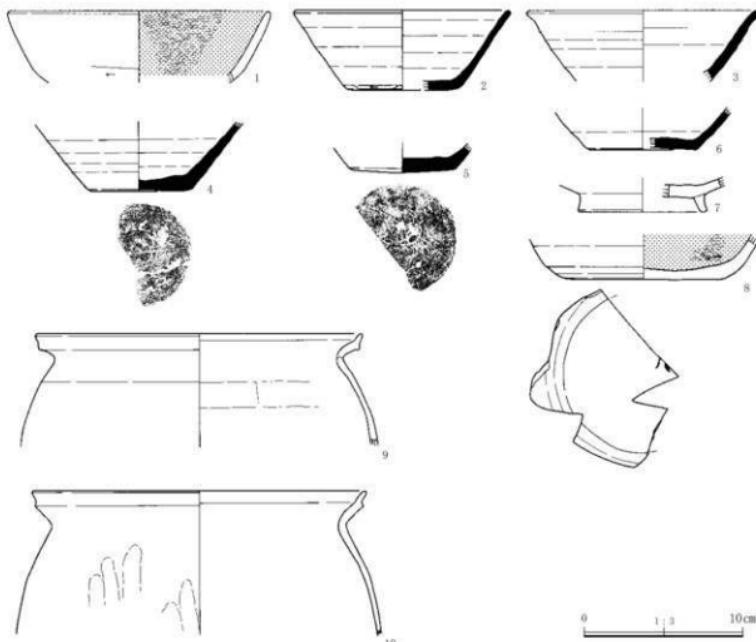
No.	種別	法面 (cm) / 断面	形成・技法などの特徴 / 脱土	色調	出土位置	備考
1	土師器 环	口径: 14.1 底径: 6.3 部高: 4.2	輪轉成形。底部凹輪へア切り。外面黒色処理。/ 石英・長石・ 赤褐色粒。	外面: にぶい黒焼 (7.5VS/3) 内面: 黒 (N2/2)	2区2・3, 4区3	
2	土師器 环	口径: 13.8 底径: 6.0 部高: 4.4 /1.2以上	輪轉成形。底部凹輪へア切り。体部下端には回転ヘアケ ズリを施す。外面ミガキ調整。/ 石英・長石・青母片。	外面: にぶい黒焼 (5VS/4) 内面: にぶい黒焼 (5VS/4)	No.57, 1区 3	
3	土師器 环	口径: (13.2) 底径: 6.3 部高: 4.2以上	輪轉成形。外面に「井」状の縫隙。内面には達が付する。 底部凹輪へア切り。/ 石英・長石・海綿骨質。	外面: 灰黄褐 (10IV4/2) 内面: 灰黄褐 (10IV4/2)	2区3, 28 層	
4	土師器 高台杯环	口径: (14.2) 底径: (7.0) 部高: 2.7 /1.2以上	輪轉成形。内面ミガキ調整。/ 白色粒・海綿骨質。	外面: にぶい黒焼 (7.5VS/4) 内面: にぶい黒焼 (7.5VS/3)	カマド腹 丸, 2区3	
5	土師器 高台杯环	口径: (13.6) 底径: 6.0 部高: 2.8 /1.2以上	輪轉成形。体部下端には回転ヘアケズリを施す。内面黒 色処理。/ 石英・長石。	外面: にぶい黒焼 (10IV2/3) 内面: 黒 (N2/2)	No.49	
6	土師器 高台杯环	底径: 7.1 /1.2以上	輪轉成形。底部下端には回転ヘアケズリを施す。内面黒 色処理。/ 石英・長石。	外面: にぶい黒焼 (10IV6/4) 内面: 黒 (N2/2)	No.37	
7	土師器 环	口径: (13.2) 部高: [3.0] /破片	輪轉成形。輪轉目を残さない。外面に墨書きあり。内面黒 色処理。/ 石英・長石・黒褐色粒。	外面: にぶい黒焼 (10IV6/4) 内面: 黑 (N2/2)	1区3	
8	土師器 环	口径: (14.2) /破片	輪轉成形。外面に「井」状の縫隙。内面黒色処理。/ 石英・ 長石。	外面: 西黄 (2.5V7/3) 内面: 黑 (N2/2)	1区3, 218 3	
9	土師器 环	口径: (14.0) /破片	輪轉成形。各面に「井」の縫隙。内面黒色処理。/ 石英・ 長石・黑色粒・海綿骨質。	外面: にぶい黒焼 (7.5VS/4) 内面: 黑 (N2/2)		
10	土師器 环	底径: [2.8] /破片	輪轉成形。輪轉目を△でかに残す。外面上に墨書きあり。内 面黒色処理。/ 石英・長石。	外面: にぶい黒焼 (7.5VS/4) 内面: 黑 (N2/2)	P1	
11	須恵器 环	底径: (6.0) 部高: [2.1] /破片	輪轉成形。底部凹輪へア切り。底面に墨書きあり。/ 石英・ 長石・灰色粒。	外面: 灰黄 (2.5V7/2) 内面: 灰黄 (2.5V7/2)	4区3	
12	土師器 环	口径: (7.0) 底径: [3.5] /破片	輪轉成形。体部下端へアケズりか。外面上に墨書きあり。内 面黒色処理。/ 石英・長石・赤褐色粒・海綿骨質。	外面: にぶい黒焼 (10IV4/3) 内面: 黑 (N2/2)		
13	土師器 环	底径: (7.0) 部高: [2.7] /破片	輪轉成形。底部凹輪へア切り。外面上部下端を持ちへア ケズり。内面黒色処理。外面上に墨書きあり。/ 石英・長石・ 赤褐色粒。	外面: にぶい黒焼 (7.5VS/4) 内面: 黑 (N2/2)	1区2,	
14	須恵器 环	口径: (13.5) 底径: 6.6 部高: 4.9 /1.2	輪轉成形。底部凹輪へア切り。輪轉目を残す。底 部縫隙。/ 石英・長石・海綿骨質。	外面: にぶい黒 (2.5VS/3) 内面: にぶい黒 (2.5VS/3)	No.58, カ マド腹方	本集下限
15	須恵器 环	口径: 13.2 底径: 7.0 部高: 4.5 /完形	輪轉成形。底部凹輪へア切り。輪轉目をほとんど残さない。 底面に縫隙。/ 長石・石英・チャート・海綿骨質。	外面: オリーブ焼 (2.5V4/3) 内面: 墓灰黄 (2.5V4/2)	カマドNo.6	本集下限
16	須恵器 环	口径: 13.2 底径: 6.5 部高: 4.4 /完形	輪轉成形。底部凹輪へア切り。強い輪轉目を残す。内面 縫隙。/ 4.0mm 磨・石英・長石・海綿骨質。	外面: 黄灰 (2.5VS/4) 内面: 墓灰黄 (2.5V4/2)	カマドNo.5	本集下限
17	須恵器 环	口径: (15.0) 底径: 6.9 部高: 5.4 /1.2以上	輪轉成形。底部凹輪へア切り。体部上半は強めの輪轉目 を残す。底面に縫隙。/ 石英・長石・海綿骨質。	外面: 墓灰 (2.5V6/1) 内面: 墓灰 (2.5V6/1)	4区3	本集下限
18	須恵器 环	口径: (13.2) 底径: 6.4 部高: 5.4 /1.2	輪轉成形。底部凹輪へア切り。強い輪轉目を残す。底面縫隙。 / 石英・長石・海綿骨質。	外面: オリーブ焼 (2.5V4/3) 内面: 墓灰 (2.5V4/1)	No.23	本集下限
19	須恵器 环	口径: (13.1) 底径: 6.5 部高: 5.0 /破片	輪轉成形。底部凹輪へア切り。輪轉目を△でかに残す。 / 石英・長石・海綿骨質。	外面: 墓 (8V5/1) 内面: 墓 (8V4/1)	No.14, 4区 3, カマド3- 4区, 4区 表張	本集下限
20	須恵器 环	口径: 14.9 底径: 5.5 部高: 4.5 /完形	輪轉成形。底部凹輪へア切り。体部下端手持ちヘアケズリ。 輪轉目はあまり残らない。/ 石英・長石・海綿骨質。	外面: 黄焼 (2.5V5/3) 内面: 墓灰黄 (2.5V5/2)	カマドNo.4	本集下限
21	須恵器 环	口径: 14.9 底径: 6.0 部高: 4.0 /破片	輪轉成形。底部凹輪へア切り。体部下端手持ちヘアケズリ。 輪轉目はあまり残らない。/ 石英・長石・海綿骨質。	外面: 黄焼 (2.5V5/3) 内面: 墓灰黄 (2.5V5/2)	カマドNo.4	本集下限

第4表 SI-2 出土遺物觀察表(2)

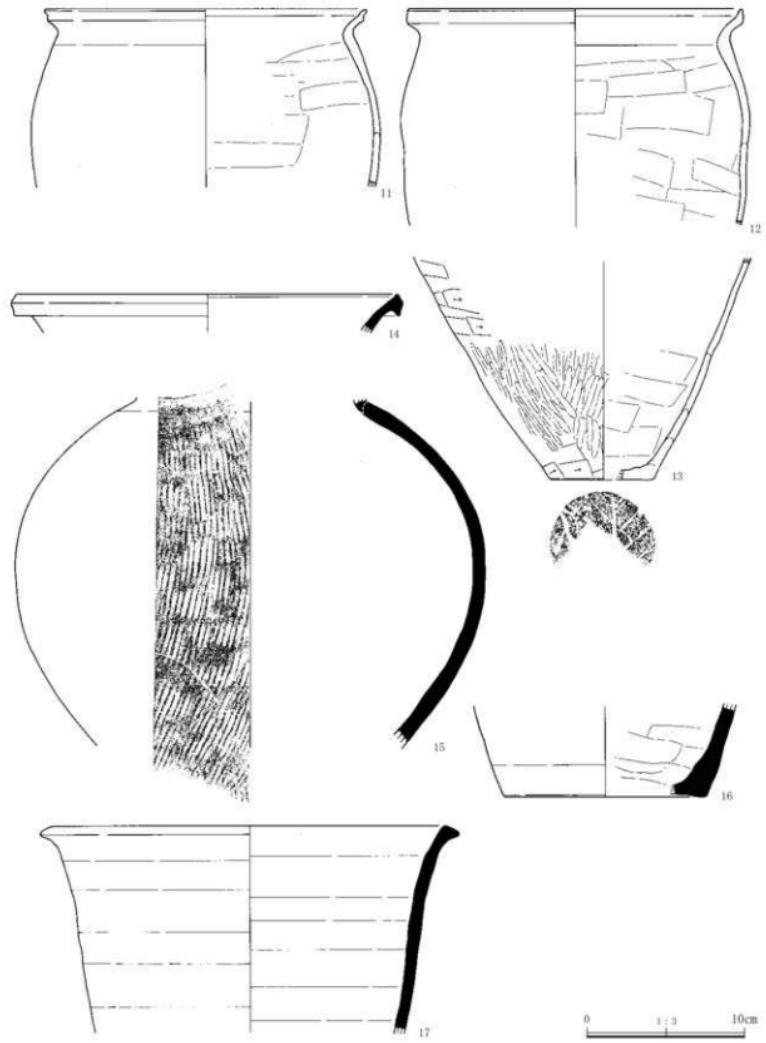
No.	種別	寸法 (cm) / 残存状	形成・技法などの特徴 / 材質	色調	出土位置	備考
22	單匙器 杯	口径 : (14.4) 深さ : 5.1 底径 : (7.9) / 磨片	輪轉成型。底面凹部へラクリ。輪轉目はあまり残らない。 / 石英。	外面 : 墓灰黄 (2.5YS/2) 内面 : 墓灰黄 (2.5YS/2)	2区E.2	
23	單匙器 杯	口径 : (15.9) 深さ : [4.0] 底径 : (7.9) / 磨片	輪轉成型。輪轉目はほとんど残さない。/ 径3.0mm窪・石英・ 長石・海綿骨質。	外面 : オリーブ灰 (5YR5/1) 内面 : オリーブ灰 (2.5YS/1)	カマド3・ 4区	木葉下地。
24	單匙器 杯	口径 : 8.0 深さ : [1.2] 底径 : (7.9) / 磨片	輪轉成型。底面は手持ちへラクリで、丸みを帯びる。 底面に横溝。/ 径4.0mm窪・石英・長石。	外面 : にぶい黄 (2.5YR6/3) 内面 : 墓灰黄 (2.5YS/2)	Ns.34	
25	單匙器 高台付杯	口径 : 7.2 深さ : [3.1] 高台高 : 6.7 底径 : (7.9) / 磨片	輪轉成型。体下端凹部へラクリ。高台は断面長方形 を呈する。/ 径3.0mm窪・石英・長石・赤褐色。	外面 : にぶい赤褐 (5YR5/4) 内面 : にぶい赤褐 (5YR5/4)	Ns.27, 2区 表保	
26	單匙器 高台付杯	口径 : (11.3) 深さ : [3.1] 高台高 : 1.2 底径 : (7.9) / 磨片	輪轉成型。高めの高台を有する。/ 石英・長石・赤褐色・ 海綿骨質。	外面 : 墓灰 (2.5YV2/2) 内面 : 黄褐 (2.5YV3/3)	1区表探	木葉下地。
27	土匙器 高台付杯	口径 : (14.6) 深さ : [2.0] 高台高 : 1.0 底径 : (7.9) / 磨片	輪轉成型。高台は高めで、外方へわざかに開く。内面黒 色地彌。/ 石英・海綿骨質多量。	外面 : オリーブ灰 (2.5Y4/3) 内面 : 黒 (10Y2/2)	4区E探	
28	土匙器 盤	口径 : (15.5) 深さ : (7.2)以上	中形盤。口縁端部はわずかに外方へ突出する。内面へラ ナダ。/ 石英・長石・海綿骨質。	外面 : 灰褐 (7.5YR4/2) 内面 : 灰褐 (7.5YR4/2)	1区S. 2 区S. 20層, 23層	
29	氣泡器 甕	口径 : (19.2) 深さ : (14.2) 底径 : (7.9) / 磨片	輪轉成型。口縁端部に沈殿をめぐらせる。体部下端には ラクリを施す。/ 石英・長石・黑色地。	外面 : 墓黄 (2.5Y7/2) 内面 : 墓黄 (2.5Y7/2)	S1-2・S2-1・ S3・S4-2・ S5・S6・ S7・S8・ S9-1・S10-2	
30	土匙器 盆	口径 : [7.9], 底径 : (7.9), / 磨片	輪轉成型。内面黑色地彌を施す。/ 径7.0mmチャート・石英・ 長石・海綿骨質。	外面 : にぶい黄褐 (10Y6/3) 内面 : 黒 (N2/)	Ns.45	
31	氣泡器 甕	口径 : (36.0) 底径 : (7.9) / 磨片	輪轉成型。口縁端部は斬をなす。外方へラナダ。/ 石英・ 長石・黑色地・海綿骨質。	外面 : 灰褐 (5YR4/2) 内面 : 灰褐 (5YR4/2)	Ns.30, 2区 2・3	木葉下地。
32	氣泡器 甕	口径 : (15.8) 深さ : [8.9] 底径 : (7.9) / 磨片	体部下端へラクリ。/ 石英・長石・海綿骨質。	外面 : 灰 (5Y5/1) 内面 : 灰 (5Y5/1)	4区S. 4区 7層	
33	單匙器 甕	口径 : (15.2) 深さ : [3.5] 底径 : (7.9) / 磨片	輪轉成型。高台は断面台形を呈し、丁寧に作られる。/ 石英・長石・黑色地。	外面 : 墓黄 (2.5Y6/2) 内面 : 墓黄 (2.5Y6/2)	Ns.36, 3区 表探	
34	單匙器 盛カ	口径 : [7.1] 底径 : (7.9) / 磨片	輪轉成型。底部に自然軸が付着する。内面に接合痕を残す。 / 石英・長石・黒雲母。	外面 : 墓黄 (2.5Y6/1) 内面 : 墓黄 (2.5Y6/1)	P1, 3区S. 2・ 3, 4区S. 表探	
35	土匙器 甕	口径 : (24.0) 底径 : (7.9) / 磨片	外山体部下端へラクリ。内面へラナダ。/ 石英・長石 多量。	外面 : にぶい赤褐 (5YR4/4) 内面 : にぶい赤褐 (5YR4/4)	3区S. 2, 表探	
36	單匙器 橫瓶	口径 : 11.8 深さ : 28.5 底径 : (7.9) / 磨片	輪轉成型。体部外表面には引き目を残す。内面ナダ。/ 石英・ 長石・黒雲母。	外面 : にぶい褐 (7.5YR6/3) 内面 : にぶい褐 (7.5YR6/4)	カマドN.7・ 8, カマド3・ 4区K.3, 表探	
37	單匙器 甕	口径 : (23.8) 深さ : (4.9) 底径 : (7.9) / 磨片	輪轉成型。輪轉目はあまり残らない。口縁端部は面をもつ。 / 石英。	外面 : 灰 (5Y5/1) 内面 : 灰 (5Y5/1)	4区表探	
38	單匙器 甕	口径 : (32.0)	輪轉成型。口縁端部は面をなす。牛角状把手を有する。 / 径4.0mm窪・石英・長石・海綿骨質・赤褐色。	外面 : にぶい黄褐 (10YR5/3) 内面 : にぶい褐 (7.5YR5/3)	S1-2・2区 外方 S1-4・N.6・ 8	木葉下地。
39	氣泡器 甕	口径 : (29.0)	輪轉成型。口縁端部は切く外反する。体部はわずかに内 凹する。把手は刻離する。/ 石英・長石・金雲母。	外面 : にぶい褐 (7.5YR5/3) 内面 : にぶい赤褐 (5YR5/4)	カマドN.2・ 3	
40	氣泡器 甕	口径 : (32.6) 底径 : (16.0) 底径 : (7.9) / 磨片	輪轉成型・酸化気孔。把手の剣跡が認められる。体 部下端へラクリ。/ 石英・長石・黒雲母。	外面 : にぶい黄褐 (10YR7/4) 内面 : にぶい黄褐 (10YR7/4)	Ns.3, Ns.51	
41	土匙器 甕	口径 : (14.0)	底端部は面をもつ。側面には一対の焼成崩落痕を施す。 外山へラクリ。内面ミガキ黒艶。/ 石英・長石・黑色地。	外面 : にぶい褐 (7.5YR5/4) 内面 : 灰褐 (7.5YR4/2)	Ns.28, 4区S. 3, 4区表 探	
42	土製品 持漆器	口径 : 5.2 厚さ : 0.7 底径 : 1.6 / 1/2	断面圓形。外山はナダにより平滑な面をなす。/ 石英。	外面 : 黑褐 (2.5Y3/1)	Ns.66	

第5表 SI-2 出土遺物観察表(3)

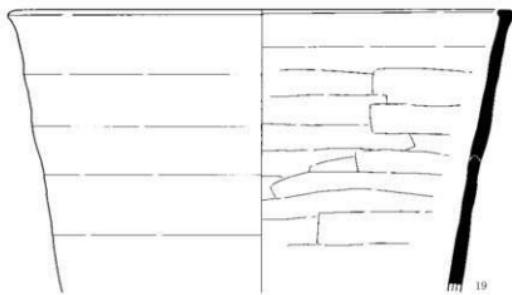
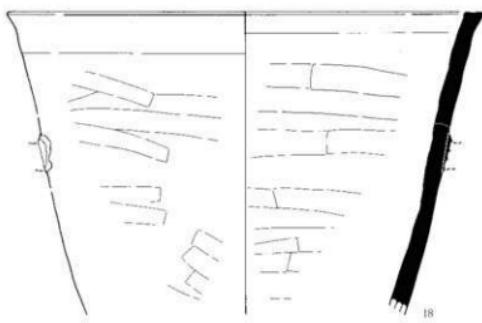
No.	種別	法徴(cm)	形態等の特徴	出土位置	備考
43	鉄製品 刀子	全長: [16.5] 刃部幅: 1.5 茎部幅: 1.0 厚さ: 0.6	両側、表面に織維状のものが付着する。	P3	
44	鉄製品 刀子	全長: [7.4] 刃部幅: 1.1 茎部幅: 0.7 厚さ: 0.3	刃部は目減りしている可能性があり、両側か。本質は保存していない。	カマド前	
45	鉄製品 刀子	全長: [3.5] 刃部幅: 0.8 茎部幅: 0.3	片側。本質は保存していない。	No.8	
46	鉄製品 刀子	全長: [8.6] 刃部幅: 1.9 茎部幅: 1.2 厚さ: 0.3	両側。柄部には本質が保存する。	P3	
47	鉄製品 鎌	全長: 13.4 頭部長: 2.7 頭部幅: 1.6 頭部厚: 1.6 頭部幅: 0.6 頭部厚: 0.4 頭部幅: 0.3	頭身外形三角形、断面丸丸造、長頭角闘。本質は保存していない。	No.48	
48	鉄製品 馬具	全長: [7.0] 幅: 0.5 厚さ: 0.5	断面方形で、先端部は折り曲げられる。	No.56	
49	鉄製品 馬具	径: 3.9 孔径: 0.4 厚さ: 0.2	幼茎部は欠損。	No.65	



第18図 SI-4 出土遺物(1)

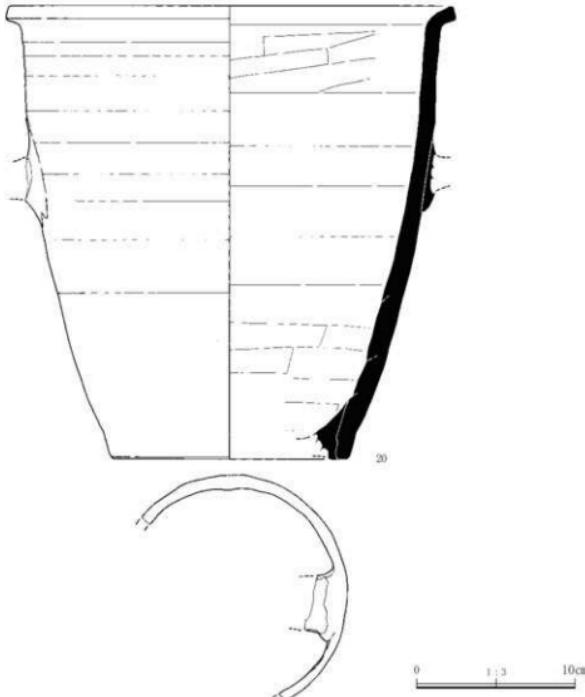


第19図 SI-4 出土遺物 (2)



0 1 : 3 10cm

第20図 SI-4 出土遺物 (3)



第 21 図 SI-4 出土遺物 (3)

第 6 表 SI-4 出土遺物観察表 (1)

No.	種別	法値 (cm) / 残存状	成形・技術などの特徴 / 材土	色調	出土位置	備考
1	土壌器 环	口径 : (6.4) 厚さ : (4.5) 底高 : (4.5) / 破片	輪轂成形。口縁部はまっすぐ立ち上がる。体部下半にへラケズリ。内面黒色処理。/ 石英・金雲母。	外面: にぶい黄緑 (10YR6/3) 内面: 黒 (10Y2/1)	2区斜方	
2	須恵器 环	口径 : (13.6) 底高 : (7.0) / 1/2以上	輪轂成形。底面に手持ちヘラケズリを施す。器面上に黑色の塊出物あり。/ 径 5.0mm 錫多量・石英・長石。	外面: 深 (5Y4/2) 内面: 深 (5Y4/2)	No 13, P1	
3	須恵器 环	口径 : (14.5) 底高 : (4.4) / 破片	輪轂成形。口縁端部(1/2)以下外反する。/ 石英・海綿骨針。	外面: にぶい黄緑 (10YR6/3) 内面: にぶい黄緑 (10YR6/3)	2区一括	木葉下地。
4	須恵器 环	底径 : (6.5) 1/2以上	輪轂成形。底部回転余切り。/ 径 6.0mm 錫多量・石英・長石。	外面: 深 (5Y6/1) 内面: 深 (5Y6/1)	カマド4 区、2区一 括、カマド 一括	
5	須恵器 环	底径 : 6.8 1/2以上	輪轂成形。底面回転余切り。底は平坦面をなきない。/ 径 4.0 mm 線・石英・長石・海綿骨針。	外面: 深 (5Y4/1) 内面: 深 (5Y4/1)	2区一括	木葉下地。
6	須恵器 环	底径 : (6.8) 1/2以上	輪轂成形。/ 径 3.0mm 線・石英・長石・海綿骨針。	外面: 深 (5Y6/1) 内面: 深 (5Y6/1)	2区一括	木葉下地。

第7表 SI-4 出土遺物観察表(2)

No.	種別	法縁(cm) / 残存部	形成・技法などの特徴 / 材質	色調	出土位置	備考
7	須恵器 高台付片	底径 : (8.0) / 縞片	輪轉成形。器面には黒色の噴出物あり。/ 石英・長石。	外面: 黄灰 (2.5W6/1) 内面: 黄灰 (2.5W6/1)	2区一括	
8	土師器 瓶	底径 : (10.0) / 縞片	輪轉成形。内面黑色処理。底に墨書きあり(文字不明)/白色・赤色記・黒雲母。	外面: にぶい黄焼 (10YR5/3) 内面: 黑 (N2/2)	SI-4 No.11 SI-2・3区 表振	
9	土師器 甕	口徑 : (20.4) / 1/2以上	肩部がわざかに張る。内面ヘラナデ。/ 石英多量・金雲母。	外面: にぶい赤褐 (2YR5/4) 内面: にぶい赤褐 (2YR5/4)	カマドNo.4 2区・括	常総型甕。
10	土師器 甕	口徑 : (20.8) / 1/2以上	口縁端部は多方へ開く。外面にナゲ彫刻がみられる。/ 石英多量・金雲母。	外面: にぶい褐 (5YR5/4) 内面: 灰褐 (5YR4/2)	カマド1区 カマド一括 1区・括	常総型甕。
11	土師器 甕	口徑 : (20.4) / 1/2以上	肩部がわざかに張る。内面ヘラナデ。/ 金雲母多量・石英。	外面: にぶい赤褐 (2YR5/4) 内面: にぶい赤褐 (2YR5/4)	No.10 カマド1区	常総型甕。
12	土師器 甕	口径 : (21.0) / 1/2以上	口縁端部はまっすぐ上方へ立ち上がる。内面ヘラナデ。/ 黒雲母片多量。白色粘。	外面: にぶい赤褐 (2YR5/4) 内面: にぶい赤褐 (2YR4/3)	カマドNo.7	常総型甕。
13	土師器 甕	底径 : 6.6 / 1/2以上	外面にミガキ調整を密に施す。一部へフケズリがみられる。内面ヘラナデ。/ 石英・金雲母。	外面: にぶい褐 (7.5YR5/4) 内面: にぶい黄焼 (10YR5/3)	SI-4カマド 底・P1・2区 1区・括 10-42・41・3、 4区表振。	常総型甕。
14	須恵器 甕	口徑 : (24.0) / 縞片	輪轉成形。口縁端部は垂下する。/ 石英・長石・海綿骨針。	外面: 黄灰 (2.5Y5/1) 内面: 黄灰 (2.5Y5/1)	2区一括	木葉下座。
15	須恵器 甕	1/2以上	輪轉成形。中形甕。肩部のあまり張らない球形の体態を有する。/ 石英・長石・海綿骨針。	外面: 黄灰 (2.5YR4/1) 内面: 黄灰 (2.5YR4/1)	No.7, カマ ドNo.2, 2 区・括	木葉下座。
16	須恵器 甕・丸	底径 : (12.8) / 1/2以上	輪轉成形。内面ナゲ調整。/ 径 3.0mm 繩・石英・長石・海綿骨針。	外面: 黄灰 (2.5Y5/1) 内面: 黄灰 (2.5Y5/1)	カマド1区	木葉下座。
17	須恵器 甕	口徑 : (26.4) / 1/2以上	輪轉成形。口縁端部は外傾する面をなす。把手は残存部分において確認できない。輪轉成形。/ 白色・黒色粘。径 4.0mm 繩 2箇。	外面: 灰褐 (10YR5/2) 内面: 灰黄褐 (10YR4/2)	No.2, カマ ド一括	
18	須恵器 甕	口径 : (30.0) / 1/2以上	輪轉成形。口縁端部は平坦面をなす。把手は剥離する。/ 白色・赤色粘。径 5.0mm 繩	外面: 褐 (5YR6/6) 内面: 褐 (5YR6/6)	No.4・9	
19	須恵器 甕	口径 : (32.0) / 1/2以上	輪轉成形。口縁端部は面をなす。把手は残存部分において確認できない。内面ヘラナデ。/ 長石・石英・黒雲母。径 3.0mm 繩	外面: 灰黄 (2.5Y7/2) 内面: にぶい褐 (7.5YR6/3)	2区一括	
20	須恵器 甕	口径 : (37.8) 底高: 28.4 底径: 14.8 / 2/3	輪轉成形。2把手が残存する。底面には三日月形の印。内面ヘラナデ。/ φ 5mm 繩・石英・長石・海綿骨針	外面: 灰黄 (2.5Y6/2) 内面: にぶい黄焼 (10YR6/3)	カマドNo.5 6・8・9	木葉下座。

## SI-3 (竪穴建物跡)

**概要** 建物跡南西隅が検出された。上層は溝によって切られていたため平面検出時には認識できず、溝掘削後に調査を行なった。

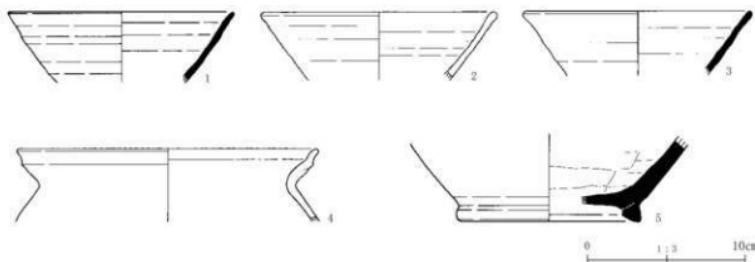
**規模・形態** 規模は不明である。隅角部分をもつことから平面形態は方形と推定される。

**建物施設** 壁周溝が確認された。床面は地山ローム層を硬化させたものであった。

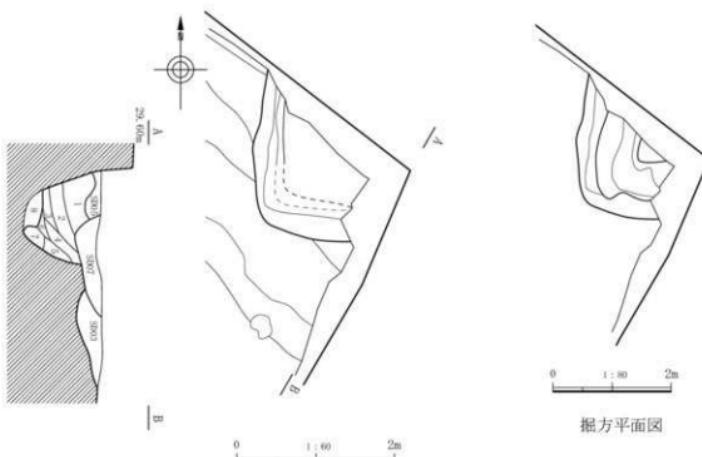
**覆土堆積状況** おおむねレンズ状に堆積しており、自然埋没と判断される。

**遺物出土状況** 出土した遺物は少量である。いずれも覆土中から出土している。

**時期** 出土した遺物は9世紀代のものを主体としており、本建物跡はその時期におさまるものと考えられる。



第22図 SI-3出土遺物



掘方平面図

土層説明

1. 植理褐色 (7.5W2/3) 粘性・しまりややあり 黒色土を主体とし、径1.0cmのロームブロックを含む。径5mmのローム粒を50%含む。
2. 植理褐色 (7.5W2/3) 粘性・しまりあり 黒色土を主体とし、径1mmのローム粒を25%含む。
3. 植理褐色 (7.5W2/3) 粘性・しまりあり 黒色土を主体とし、径1mmのローム粒を30%含む。
4. 植理褐色 (7.5W2/3) 粘性・しまりあり 黒色土を主体とし、径1mmのローム粒を30%含む。
5. 植理褐色 (7.5W3/4) 粘性・しまりあり ロームを主体とし、黑色土を均一にまざりに含む。
6. 植理褐色 (7.5W2/3) 粘性あり・しまりなし 黑色土を主体とし、径1mmのローム粒を30%含む。
7. 植理褐色 (7.5W3/4) 粘性あり・しまりなし 黑色土を主体とし、地山砂を40%含む。
8. 植理褐色 (7.5W3/4) 粘性・しまりあり ロームを主体とし、黑色土・植土粒を含む。解方埋土。

第23図 SI-3実測図

第8表 SI-3出土遺物観察表(1)

No	種別	法兼(cm)・残存高	形成・技法などの特徴 / 騒土	色調	出土位置	備考
1	埴輪器 环	口径 : (14.2) 深高 : (4.4) 厚片	輪轉成形。口縁端部はまっすぐ伸びる。/右英・長石・黒雲母。	外面:灰 (5W6/1) 内面:灰 (5W6/1)	トレンナ下 層	
2	埴輪器 环	口径 : (14.8) 深高 : (4.3) 1/8	輪轉成形。口縁端部はわずかに広がる。/右英・青緑骨質。	外面:にごい黄褐 (16W7/4) 内面:にごい黄褐 (16W7/4)	トレンナ下 層	

第9表 SI-3 出土遺物観察表(2)

No	種別	法線(cm)/残存部	成形・技法などの特徴 / 砂土	色調	出土位置	備考
3	須恵器 环	口径: (14.4) 器高: [4.0] /1/8	輪轉成形。口縁部は真っ直ぐ開く。/ 石英・青磁骨鈎。	外面: 深 (7, 頂6/1) 内面: 深 (7, 頂6/1)	トレンチ2	木葉下地。
4	土師器 甕	口径: (18.9) 器高: [4.5] /1/12	口縁部は外気しながら広がる。/ 石英・白雲母。	外面: 明赤陶 (5TR5/6) 内面: 深 (5TR6/6)	一括	素練型甕。
5	須恵器 壺	底径: (11.4) 器高: [5.4] /破片	輪轉成形。高台は断面逆台形を呈する。外面に自然模が付帯する。/ 石英。	外面: 墓市灰 (2, 5TR3/1) 内面: 墓灰 (3S/1)	一括	

**SB-1 (掘立柱建物跡)**

**概要** 柱穴列が確認され、その配置状況から掘立柱建物跡と認識した。平面検出を行った結果、掘方および柱痕が確認できたため、掘方そして柱穴をそれぞれ5cm程度段掘りし、平面測量および写真撮影を行った。しかしその後、土層断面観察そして柱穴掘方調査を行ったところ、当初平面検出で確認できた柱痕と土層断面観察で確認されたそれとが合致しない部分が出てしまった。

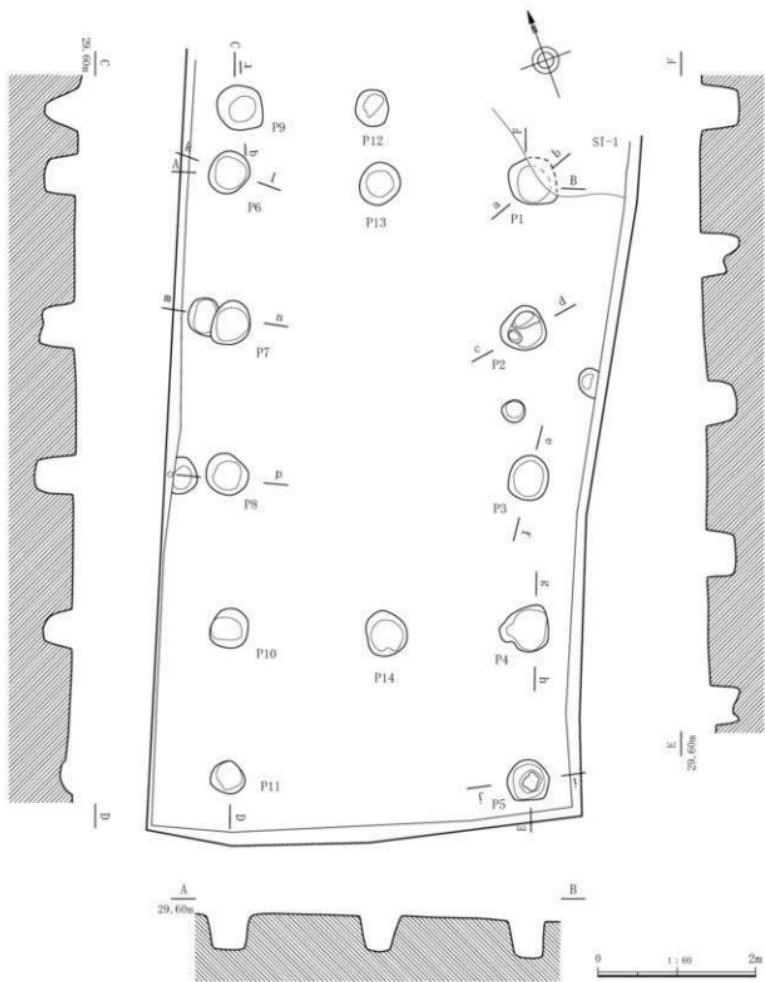
SI-1と重複しており、本掘立柱建物跡の方が新しいものと考えられるが、SI-1の覆土中から柱穴は明確には検出できなかった。とくにP1北側、P9-P12と東西方向に並ぶと想定されるピットは確認できなかつた。

**規模** 南北8.5mを計測する。確認されたのは建物の一部で、東西方向へ伸びる可能性がある。南北方向柱間(P6-P7-P8-P10-P11,P1-P2-P3-P4-P5)は1.9mでほぼ均等に配置されている。東西方向平均柱間(P1-P13-P6,P4-P14-P10)も1.9mである。

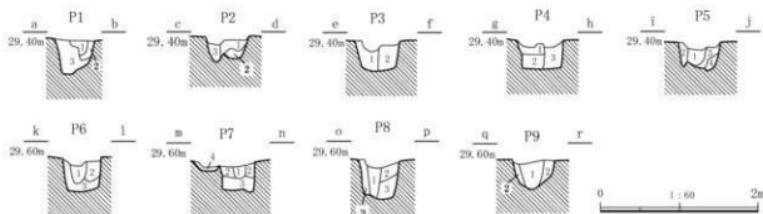
**建物施設** 調査区内においては南北に最大5間が確認されるが、P9・P12は南北柱間から北面下屋庇、P5・P11は南面下屋庇の可能性が考えられる。

**覆土堆積状況** 平面検出および土層断面観察において柱痕が確認されたものは、P2・P3・P4・P5・P6・P7・P8・P9である。いずれも柱抜き取り痕は確認されていない。

**遺物出土状況** ピット中から少量の遺物が出土した程度で、意図的に配置されたと想定されるものは認められなかつた。遺構の重複関係などから中世以降に帰属するものと考えられる。



第24図 SB-1 実測図(1)



#### P1土層説明

1. 機械褐色 (7.5YR2/3) 粘性なし・しまり強い 黒色土を主体とし、径1cmのローム粘を20%含む。
2. 黒褐色 (7.5YR2/2) 粘性ややあり・しまりなし 黑色土を主体とし、白色土(透視灰)を50%含む。
3. 黑褐色 (7.5YR2/2) 粘性・しまりなし 黑色土を主体とし、径5mmのローム粘を10%含む。

#### P2土層説明

1. 機械褐色 (7.5YR2/3) 粘性なし・しまり強い 黑色土を主体とし、径1cmのローム粘を20%含む。P11の層に類似。
2. 黑褐色 (7.5YR2/2) 粘性・しまりなし 黑色土を主体とし、径5mmのローム粘を10%含む。
3. 黑褐色 (7.5YR2/2) 粘性・しまりあり 黑色土を主体とする。柱状。

#### P3土層説明

1. 黑褐色 (7.5YR2/2) 粘性・しまりあり 黑色土を主体とし、炭を含む。柱状。
2. 機械褐色 (7.5YR2/3) 粘性なし・しまりあり 黑色土を主体とし、径3.0cmのローム粘を20%含む。

#### P4土層説明

1. 黑褐色 (7.5YR2/2) 粘性・しまりあり 黑色土を主体とする。柱状。
2. 機械褐色 (7.5YR2/3) 粘性なし・しまり強い 黑色土を主体とし、径1cmのローム粘を20%含む。
3. 機械褐色 (7.5YR2/3) 粘性なし・しまり強い 黑色土を主体とし、径5mmのローム粘を20%含む。

#### P5土層説明

1. 黑褐色 (7.5YR2/2) 粘性・しまりあり 黑色土を主体とする。柱状。
2. 機械褐色 (7.5YR2/3) 粘性なし・しまり強い 黑色土を主体とし、径1cmのローム粘を20%含む。
3. 機械褐色 (7.5YR2/3) 粘性なし・しまり強い 黑色土を主体とし、径5mmのローム粘を20%含む。
4. 機械褐色 (7.5YR2/3) 粘性ややあり・しまりなし 黑色土を主体とし、ローム粘を3%含む。

#### P6土層説明

1. 黑褐色 (7.5YR2/2) 粘性・しまりあり 黑色土を主体とする。柱状。
2. 機械褐色 (7.5YR2/3) 粘性なし・しまり強い 黑色土を主体とし、径1cmのローム粘を20%含む。
3. 機械褐色 (7.5YR2/3) 粘性・しまりあり 黑色土を主体とし、ロームプロックを多く含む。

#### P7土層説明

1. 黑褐色 (7.5YR2/2) 粘性・しまりあり 黑色土を主体とする。柱状。
2. 機械褐色 (7.5YR2/3) 粘性なし・しまり強い 黑色土を主体とし、径1cmのローム粘を20%含む。
3. 機械褐色 (7.5YR2/3) 粘性・しまりあり 黑色土を主体とし、ロームプロックを多く含む。

#### P8土層説明

1. 黑褐色 (7.5YR2/2) 粘性・しまりあり 黑色土を主体とする。柱状。
2. 機械褐色 (7.5YR2/3) 粘性なし・しまり強い 黑色土を主体とし、ロームプロックを多く含む。
3. 機械褐色 (7.5YR2/3) 粘性・しまりあり 黑色土を主体とし、ロームプロックを多く含む。

#### P9土層説明

1. 黑褐色 (7.5YR2/2) 粘性・しまりあり 黑色土を主体とする。柱状。
2. 機械褐色 (7.5YR2/3) 粘性・しまりあり 黑色土を主体とし、ロームプロックを多く含む。

第25図 SB-1 実測図(2)

## (2) 溝・堀跡

堀・溝は5条確認された。その規模からSD-2は堀、SD-3・SD-4・SD-6・SD-7は溝と判断される。SD-3・SD-4・SD-6・SD-7の深度は浅く、また流水の痕跡は発見されなかった。SD-7上面にはロームによる整地がなされ、さらに調査区北側には現在でも溝と平行するように道路が走っていることから、道の側溝である可能性が考えられる。

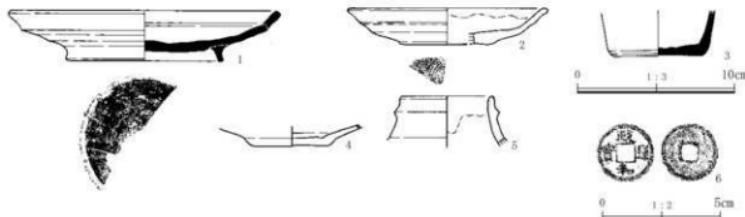
## SD-2 (堀跡)

**概要** 平面プランは明瞭に検出され、まず調査区東壁に沿ってサブトレーンチを掘削した。その後、上層・中層・下層に大きく分層されたため、層位ごとに掘削を行った。SD-6 と重複しており、平面検出状況および土層断面観察により SD-2 → SD-6 の先後関係が把握された。

**規模・形態** 全長は不明。幅 7.3m、深さ 1.9m を計測する。底面は箱型状を呈し、中位で角度をえて大きく開く。底面には湧水のある土坑が確認されたが、上層からの掘り込みは認められず、その機能は不明である。両側壁には多くのビットが検出され、柱穴と考えられるものも認められた。土層断面において木柱が横倒しになった状況が窺える土層（17 層）も確認された。柱穴と推定されるものについては、エレベーション図を作成した。その他のビットについては、根摺乱によるものと判断した。

**覆土堆積状況** 覆土は大きく上層・中層・下層に分けられる。下層（11 層以下）はロームを多く含むもので、自然堆積と考えられる。中層（2・3・7 層）は黒色土を主体としており、ロームを主体とする下層を不自然に切っていることから、掘り直し後の自然埋没と判断した。そして上層（1 層）は、堅緻な面をなしており、整地層と想定される。

**遺物出土状況** 覆土中から多くの遺物が出土している。その多くは古代の土師器・須恵器で、周辺遺構を大きく破壊したために混入したものと考えられる。その他、陶器片および宋錢「政和通寶」が出土しており、本遺構の埋没時期が比定される。



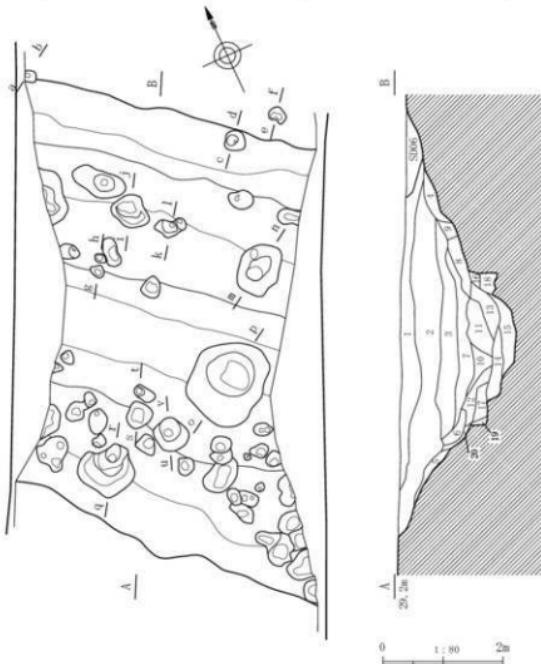
第 26 図 SD-2 出土遺物

第 10 表 SD-2 出土遺物観察表 (1)

No.	種別	法値 (cm) / 残存部	成形・技法などの特徴 / 新古	色調	出土位置	備考
1	須恵器 盤	口径 : (8.0) 底径 : (6.0) 厚さ : 3.3 1/2 (3.3)	輪轉成型。口縁部はわずかに外反し、体部との内曲面には模様を刻んでいます。右部はハート字に開く。底部外縁に擦痕。 / φ 5 mm 石英	外面 : 灰 (7, 田5/1) 内面 : 灰 (7, 田5/1)	中層	
2	陶器 瓶	口径 : (12.6) 底径 : (6.0) 厚さ : 2.3 1/2 (2.3)	輪轉成型。口縁部内外面緣角。底部は突出する。底部同軸垂直切り。		上層	
3	須恵器 コップ形	底径 : 6.3 厚さ : [3.1] 1/2	輪轉成型。底部は平坦で、口縁に向かってわずかに開く。外縁に自然歯。	外面 : 灰 (5Y4/1) 内面 : 灰 (5Y5/1)	上層	
4	土師器 かづらけ	底径 : 4.9 厚さ : [1.8] 2/3 (1.8)	底部は下方に突出し、内面体部との境は沈線状に回む。 / 右肩、長石、黒雲母	外面 : に赤い斑紋 (10R7/3) 内面 : に赤い斑紋 (10R7/3)	上層	

第 11 表 SD-2 出土遺物観察表 (2)

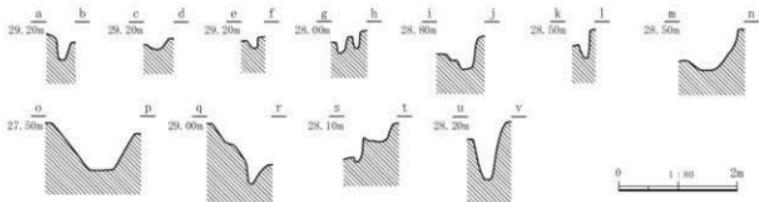
No.	種別	法縁 (cm) / 残存部	形成・技法などの特徴 / 耐土	色調	出土位置	備考
5	陶器 瓶	口径: (6.0) 部高: [3.2] 1/3 以下	口縁部灰釉。貢入あり。		トレンチ I	
No.	種別	法縁 (cm) / 残存部	形態などの特徴	出土位置		備考
6	銅製品 錢	外径: 2.47 内径: 2.05 鍵孔: 0.13	政和通寶。真善。	トレンチ		



## 土層説明

1. 黒褐色 (7.SVR2/2) 粘性・しまりあり 黒色土を主体とし、透5mmのローム粒を30%含む。硬面をなす。
2. 黒褐色 (7.SVR2/2) 粘性・しまりあり 黑色土を主体とし、透5mmのローム粒を7%含む。ローム粒は下層に堆積する。
3. 黒褐色 (7.SVR2/2) 粘性・しまりあり 黑色土を主体とし、透5mmのローム粒を含む。
4. 楊柳褐色 (7.SVR2/2) 粘性・しまりあり 黑色土を主体とし、透5mmのローム粒を含む。初期段土。
5. 楊柳褐色 (7.SVR2/2) 粘性・しまりあり 黑色土を主体とし、透5mmのローム粒を含む。初期段土。
6. 黑色 (7.SVR1.7/1) 粘性・しまりあり 黑色土を主体とし、透5mmのローム粒を25%含む。初期段土。
7. 黑色 (7.SVR1.7/1) 粘性・しまりあり 黑色土を主体とし、透5mmのローム粒を20%含む。
8. 楊柳褐色 (7.SVR2/2) 粘性・しまりあり 黑色土とロームブロックの混合。(層と類似)。
9. 黑褐色 (7.SVR2/2) 粘性・しまりあり 黑色土を主体とし、透1.0cmのローム粒を含む。柱底か。
10. 黑褐色 (7.SVR3/2) 粘性・しまりあり 黑色土を主体とし、透5mmのローム粒を30%含む。
11. 明褐色 (7.SVR3/4) 粘性・しまりあり ロームを主体とし、赤埴・鹿田瓦 (Ae-WP) を多く含む。
12. 明褐色 (7.SVR3/4) 粘性・しまりあり ロームを主体とし、赤埴・鹿田瓦 (Ae-WP) を多く含む。
13. 明褐色 (7.SVR3/2) 粘性・しまりあり 黑色土を主体とし、ローム粒を30%含む。
14. 楊柳褐色 (7.SVR2/2) 粘性・しまりややあり 黑色土を主体とし、ローム粒を30%含む。
15. 墓褐色 (7.SVR3/2) 粘性・しまりあり 黑色土を主体とし、木柱か。
16. 楊柳褐色 (7.SVR2/2) 粘性・しまりあり 黑色土を主体とする。木柱か。
17. 黑褐色 (7.SVR2/2) 粘性・しまりあり 黑色土を主体とし、透1.0cmのロームブロックを含む。木柱か。
18. 楊柳褐色 (7.SVR2/2) 粘性・しまりややあり 黑色土とロームを切一に含む。
19. 楊柳褐色 (7.SVR2/2) 粘性・しまりややあり 黑色土とロームの混合。

第 27 図 SD-2 実測図 (1)



第28図 SD-2 実測図(2)

#### SD-3 (溝跡)

**概要** 東西に走る溝が平面検出された。当初、北側の一段高い平坦面をSD-5としたが、土層断面確認においても切り合は認められないことから1条の溝と判断した。SD-4・SD-7と重複し、SD-3 → SD-4・SD-7の先後関係が把握された。

**規模・形態** 全長は不明。幅1.3m、深さ0.3mを計測する。その底面はおおむね平坦面をなすが、南半はわずかに深く掘り込まれる箇所がある。

**覆土堆積状況** 覆土は単層で、黒色土を主体とする。流水の様相は見えなかった。

**遺物出土状況** 出土した遺物は少量である。本遺構に明確に伴うと判断される遺物は出土していない。

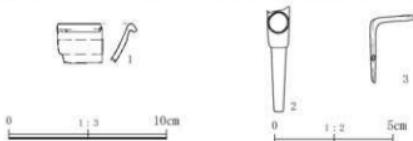
#### SD-4 (溝跡)

**概要** 東西に走る溝が検出された。SD-3と重複し、SD-3 → SD-4の先後関係が把握された。切り合は平面検出時に確認できたため、SD-3調査終了後に掘削を行った。

**規模** SD-3に切られており、全長・幅とともに不明である。深さ0.3m。その断面は楕円形に掘り込まれる。

**覆土堆積状況** 覆土は単層に近く、黒色土を主体とする。

**遺物出土状況** 出土した遺物は少量である。覆土中からキセルが出土している。



第29図 SD-4 出土遺物

第12表 SD-4 出土遺物観察表

No.	種別 白磁 網	法線(cm)/残存部 器高: [2.5] 1/4m以下	成形・技法などの特徴 口縁端部を折り返し、玉縁状にする。	出土位置 覆土	備考
1	銅製品 棒管	全長: [4.4] 径: 1.0 厚さ: 0.05	細管吸い口。	No.2	
2	鉄製品 鉗	全長: 2.9 幅: 2.1 厚さ: 0.2	尖頭。断面丸形。	No.3	

### SD-6 (溝跡)

**概要** 東西に走る溝が検出された。SD-2 と重複し、SD-2 → SD-6 の先後関係が把握された。切り合ひ関係は、平面検出時に把握できたため、SD-6 の掘削を最初に行った。

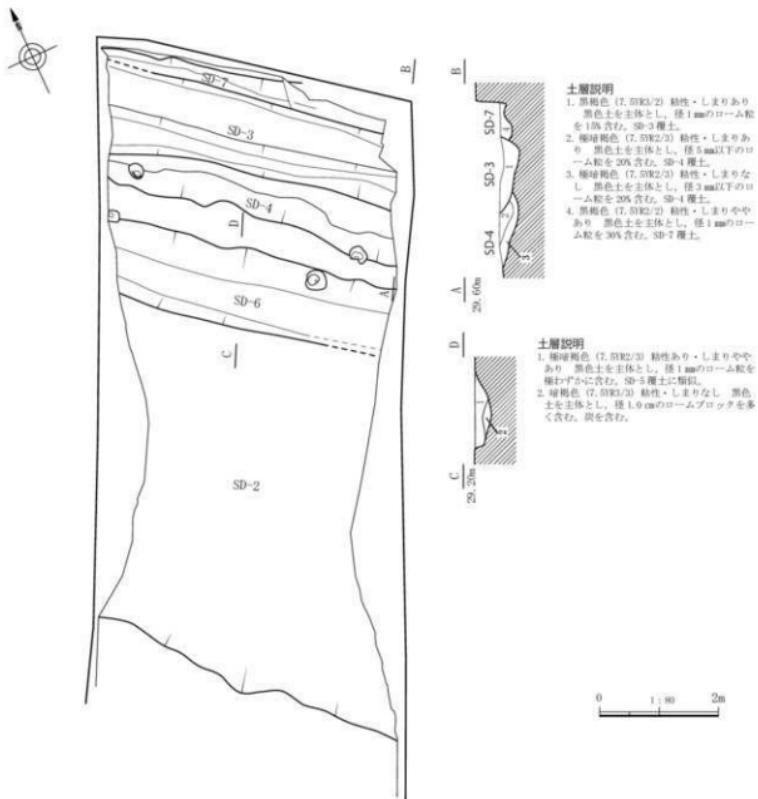
**規模・形態** 全長は不明。幅 1.4m・深さ 0.3m を計測する。底面は楕円形に掘り込まれる。

**覆土堆積状況** 覆土はほぼ単層で、黒色土を主体とする。

**遺物出土状況** 出土した遺物は少量である。本遺構に明確に伴う遺物は出土していない。

### SD-7 (溝跡)

**概要** 東西に走る溝跡が検出された。SD-3 と重複し、SD-7 → SD-3 の先後関係が把握された。切り合



第 30 図 溝跡実測図

い関係は、平面検出時に把握できたため、SD-7 調査後に掘削を行った。

**規模・形態** 全長不明。SD-3 に切られているためその幅は不明である。南側が一段深く掘りこまれ、北側に平坦面が広がっており、道路面である可能性が考えられる。

**覆土堆積状況** 覆土は単層で、黒色土を主体とする。その上面にはロームを用いた硬化面が検出され、SD-3 構築時の道路硬化面である可能性が考えられる。

**遺物出土状況** 出土した遺物は少量である。本遺構に明確に伴う遺物は出土していない。

### (3) 井戸跡

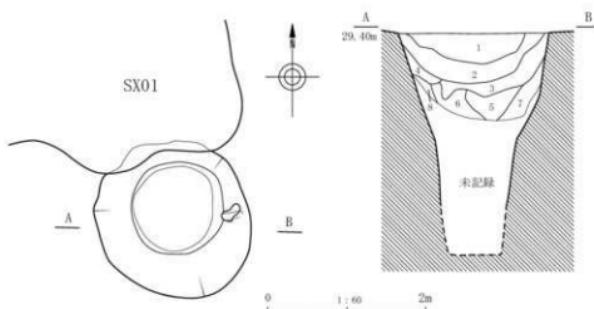
#### SE-1（井戸跡）

**概要** 平面円形のプランが検出された。SX-1・SI-1 と重複し、SI-1 → SE-1 → SX-1 の先後関係が把握された。切り合ひ関係は、遺構平面検出時に把握できたため、SX-1 調査終了後調査を行なった。

**規模・形態** 直径 2.1m・深さ 2.8m を計測する。最深部は基本土層 V 層にあたり湧水が認められた。平面形態は上面から下端まで円形を呈する。断面形態は中位で一端括れる漏斗状を呈する。上半部下端には水平方向に掘り込まれるピットが検出された。

**施設** 井戸枠は確認されなかった。井戸周辺において平面検出を入念に行ったが、覆屋が想定されるようなピットは検出されなかった。

**覆土堆積状況** 最上層 1・2 層はロームを主体とし、それ以下は黒色土を主体とする覆土が堆積している。最上層 1・2 層はロームを主体としており、最終的な埋没は人為埋没と考えられる。



#### 土層説明

1. 黒褐色 (7.5W2/2) 粘性・しまりあり 黒色土を主体とし、ローム粒を極わずかに含む。
2. 極端褐色 (7.5W2/2) 粘性・しまりあり ローム質の黑色土。厚1.0mのロームブロックを含む。
3. 黒色 (7.5W2/1) 粘性・しまりあり 黒色土を主体とし、厚1.0cmのロームブロックを極わずかに含む。
4. 黑色 (7.5W2/1) 粘性・しまりあり 黒色土を主体とする。3箇に颗粒。
5. 黑色 (7.5W2/1) 粘性・しまりあり 黒色土を主体とする。黑色土を含むロームを5%含む。
6. 極端褐色 (7.5W2/2) 粘性・しまりあり 黒色土を主体とする。黑色土を含むロームを10%含む。
7. 極端褐色 (7.5W2/2) 粘性・しまりあり 黒色土を主体とし、ロームブロックを極わずかに含む。
8. 極端褐色 (7.5W2/2) 粘性・しまりあり 黒色土を主体とし、ロームブロックを極わずかに含む。7箇に颗粒。

第 31 図 SE-1 実測図

**遺物出土状況** 出土した遺物は稀少で、覆土中から土器破片が出土している。井戸廃絶行為に伴うと想定される出土状況は認められなかった。木製品等も出土していない。

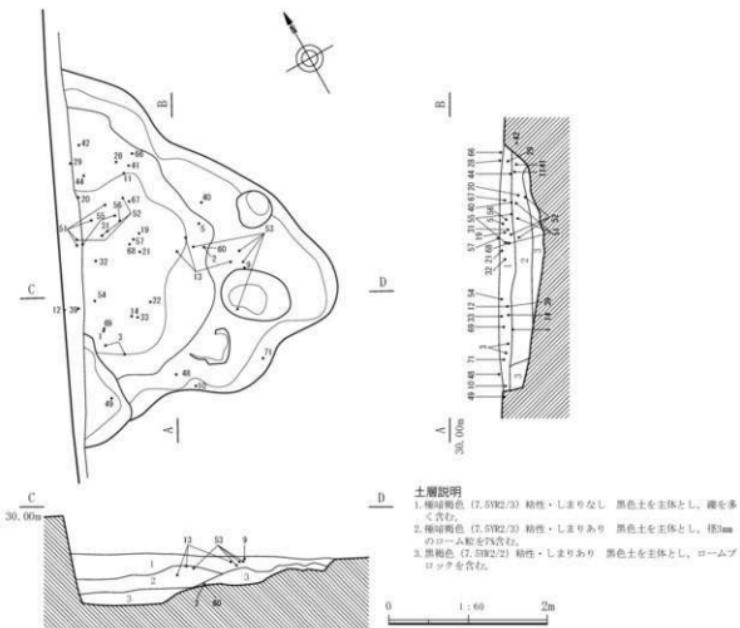
#### (4) 性格不明遺構

##### SX-1 (性格不明土坑)

**概要** 平面不整形形の土坑が確認された。SE-1・SI-1と重複しており、SI-1 → SE-1 → SX-1 の先後関係が把握された。切り合い関係は、遺構平面検出時に把握できたため、SX-1 から調査を行なった。サブトレンチ掘削後、明瞭に 1 ~ 3 層に分層できたため、層位ごとに遺物を取上げた。南北・東西のベルトを軸に 4 分割し、北西を 1 区、北東を 2 区、南東を 3 区、南西を 4 区とした。

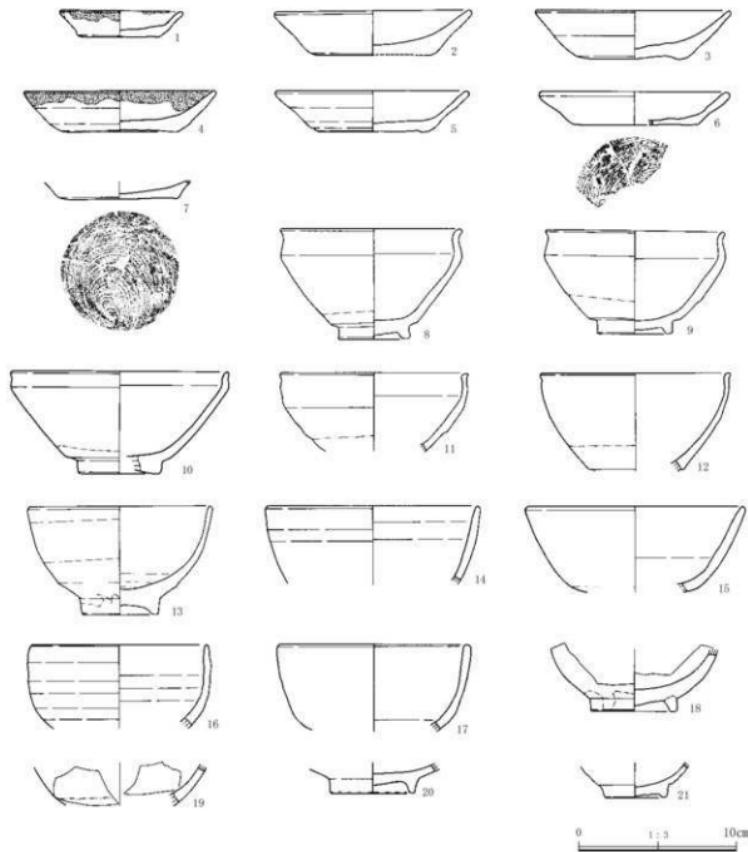
**規模・形態** 西半は調査区外であるが、南北最大 4.7m、深さ 0.6m を計測する。その平面形態は不整な梢円形を呈し、その底面は楕円形を呈する。その形態は、人為的掘り込みのような様相は窺えず、風倒木坑などを再利用したものか。

**覆土堆積状況** 覆土は 3 層に分層され、黒色土を主体とする。1・2 層は多量の遺物・礫を包含しており、人為的埋没と判断される。

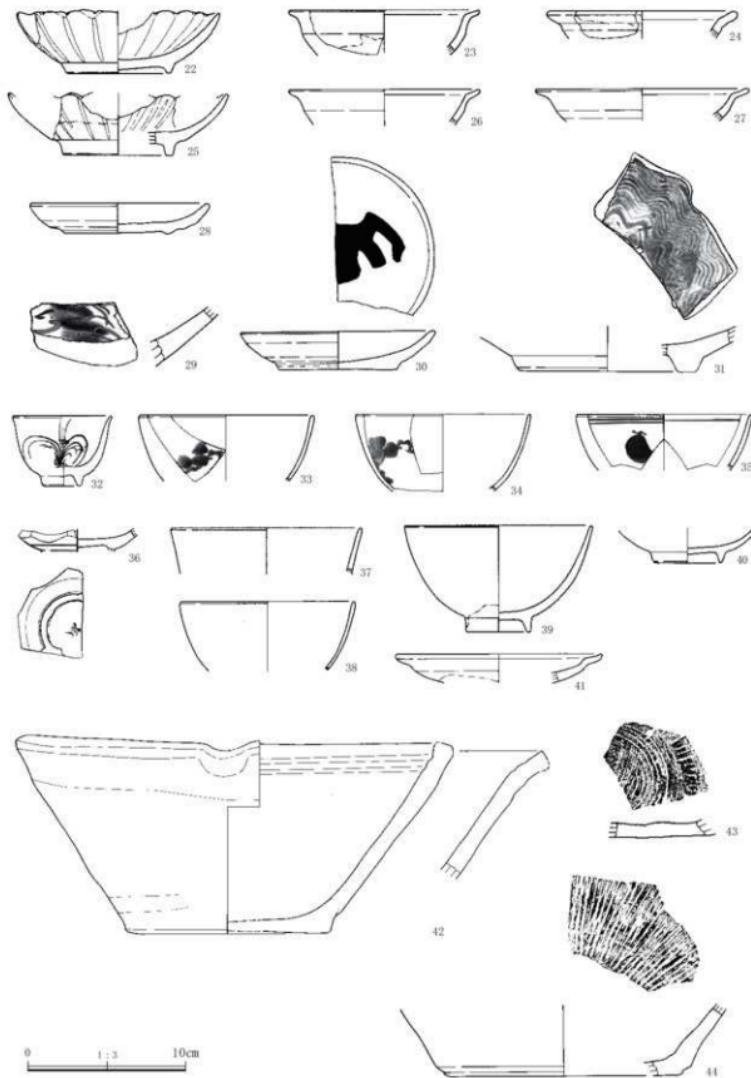


第 32 図 SX-1 実測図

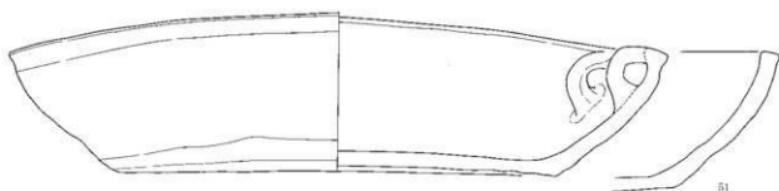
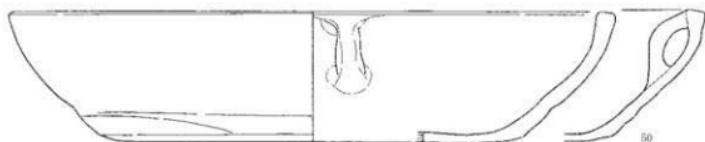
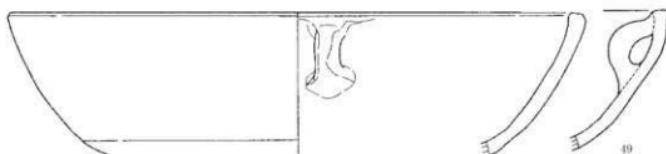
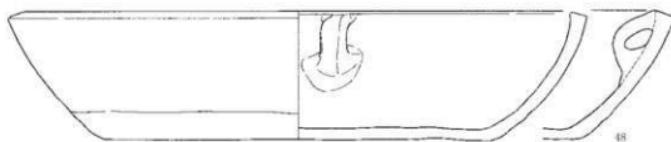
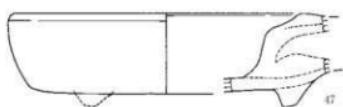
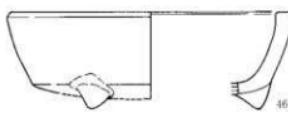
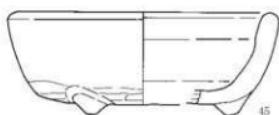
**遺物出土状況** 覆土中に多量の土器・陶磁器片・礫を包含する。とくに1・2層から多くの遺物が出土している。礫は拳大の円礫を主体としており、北半(1・2区)から多量に出土している。いずれも配置・配列したような状況は認められなかった。



第33図 SX-1出土遺物(1)

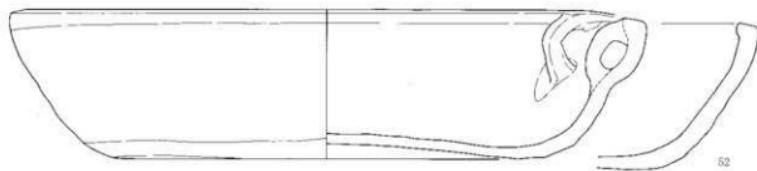


第34図 SX-1出土遺物(2)

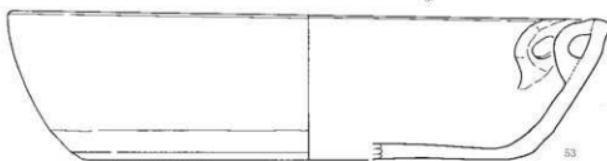


0 1 2 3 10cm

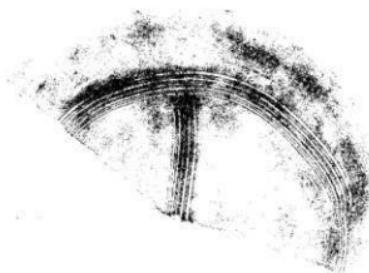
第35図 SX-1出土遺物(3)



52



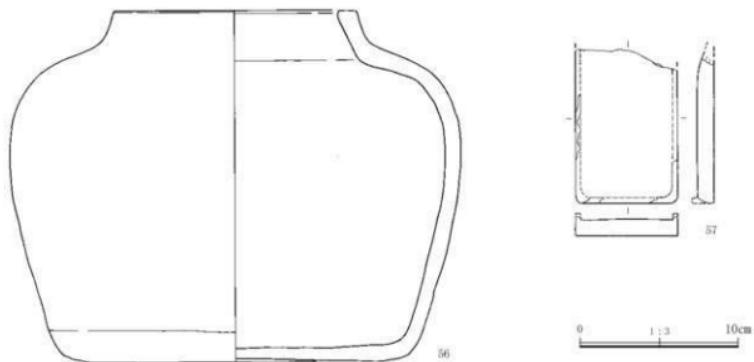
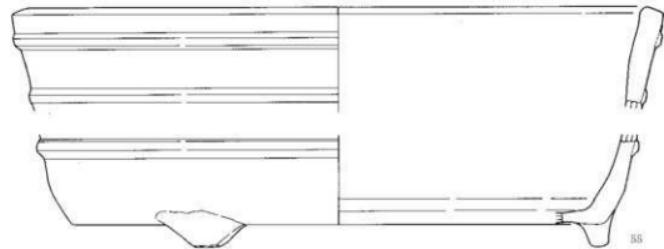
53



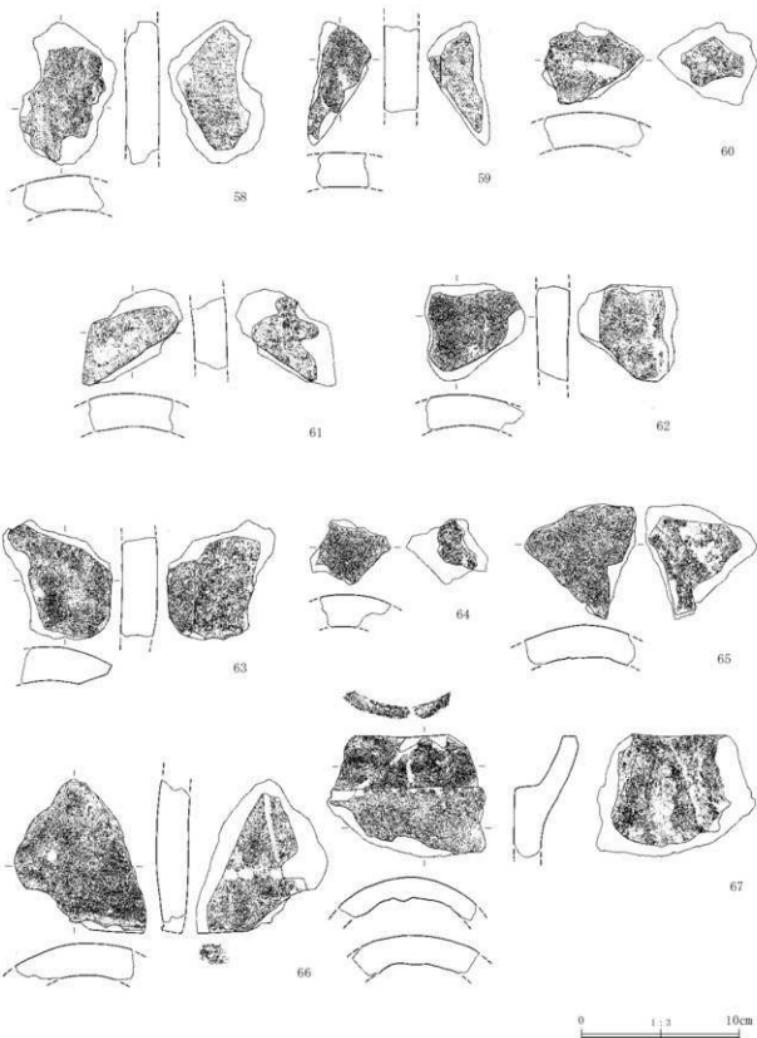
54



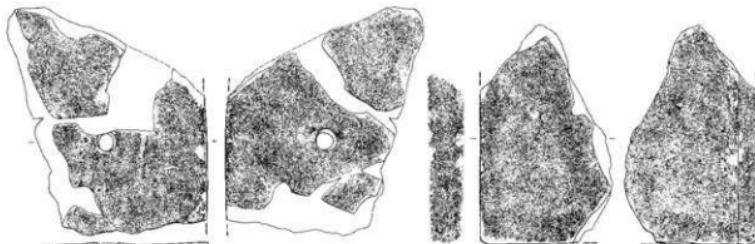
第36図 SX-1出土遺物(4)



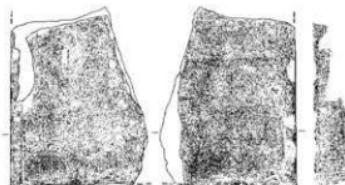
第37図 SX-1出土遺物(5)



第38図 SX-1出土遺物(6)



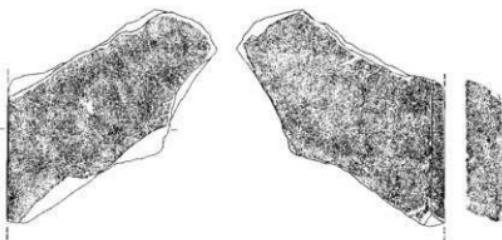
68



69



70



71

0 1-3 10cm

第39図 SX-1出土遺物(7)

第13表 SX-1出土遺物観察表(1)

No.	種別	法量(cm)	成形・技法などの特徴 / 破土	色調	出土位置	備考
1	土師質 かわらけ /実形	口径: 7.8 底径: 5.3 高さ: 1.7	底面は凹形赤切り後、粘土付着もしくは不明正形。底部内面は横ナギ。調理付着。/ 非褐色。	外表面: 棕(5YR6/6) 内表面: 棕(5YR6/6)	No.130	
2	土師質 かわらけ /実形	口径: 12.4 底径: 7.6 高さ: 2.9	底面は凹形赤切り。内面は平滑な面をなす。/ 石英・赤褐色粒・ 灰鉛片。	外表面: にっぽい黄褐色 (7.5YR7/4) 内表面: にっぽい黄褐色 (10YR6/3)	No.162	
3	土師質 かわらけ /2以上	口径: (12.2) 底径: 7.6 高さ: 3.0 /2以上	底面は凹形赤切り。体頂中央にわずかに縦をもつ。内面は平 滑な面をなす。/ 石英・赤褐色粒・金雲母。	外表面: にっぽい褐 (7.5YR7/4) 内表面: にっぽい褐 (7.5YR7/4)	No.108・109, 南北 ルト2層。 3区。4 区	
4	土師質 かわらけ /2以上	口径: (12.0) 底径: 7.4 高さ: 2.5 /2以上	底面は凹形赤切り。内面は平滑な面をなす。調理付着。/ 石英・ 赤褐色粒・金雲母。	外表面: にっぽい褐 (7.5YR6/4) 内表面: にっぽい褐 (7.5YR6/4)	北ベルト2層	
5	土師質 かわらけ /2以上	口径: (12.1) 底径: (7.0) 高さ: 4.6 /3以上	底面は凹形赤切り。底部内面には渦巻状のナゲを残す。/ 非褐 色粒・金雲母。	外表面: 棕(7.5YR7/6) 内表面: 棕(7.5YR7/6)	No.41	
6	土師質 かわらけ /1以上	口径: (12.0) 底径: (8.0) 高さ: 2.1 /1以上	底面は凹形赤切り。底面内面には渦巻状のナゲを残す。/ 非褐 色粒・黒雲母。	外表面: にっぽい褐 (7.5YR6/4) 内表面: にっぽい褐 (7.5YR6/4)	4区	
7	土師質 かわらけ /1以上	底径: (2.5) 高さ: [1.1] /1以上	底面は凹形赤切り。底面内面には渦巻状のナゲを残す。/ 非褐 色粒・金雲母。	外表面: 棕(5YR6/6) 内表面: 棕(5YR6/6)	1区	
No.	種別	产地	法量(cm) 既存残存	成形・技法などの特徴 / 破土	出土位置	備考
8	陶器 天日茶碗	瀬戸・美濃	口径: 11.4 底径: 4.5 高さ: 7.0 /3/4	柄軸が崩落時に広がる。右台は無軸。	1区。2区1, 4区, 東ベルト1層	
9	陶器 天日茶碗	瀬戸・美濃	口径: 11.2 底径: 4.7 高さ: 7.6 /2/3	外表面底面下端から高台を除いて鉄軸を施す。口縁部内面に柄軸。	No.66, 2区1, 北 ルト1層	
10	陶器 天日茶碗	瀬戸・美濃	口径: (13.0) 底径: (5.2) 高さ: 6.4 /1/4	黒色釉を拂して褐色釉が広く覆う。	No.102, 2区1	
11	陶器 天日茶碗	瀬戸・美濃	口径: (11.0) 底径: [5.0] /1/2以下	外表面底面下位に拂いて鉄軸を施す。	No.159, 1区1	
12	陶器 天日茶碗	瀬戸・美濃	口径: (12.0) 底径: [6.1] /1/5	鉄軸(体頂下端から高台部を除く)。	No.132	
13	陶器 瓶	内野山窯	口径: 11.6 底径: 4.8 高さ: 6.8 /2/3	高台以外鋼錆跡。割り出し高台。	No.43・45・64・ 195, 3区1	
14	陶器 尾呂茶碗	瀬戸・美濃	口径: (13.0) 底径: [4.9] /1/4	口縁端部に粗粒な剥離。	No.129	
15	陶器 尾呂茶碗	瀬戸・美濃	口径: (13.0) 底径: [4.9] /1/2以下	内外曲筋軸。口縁鉄軸剥離。	1区。東ベルト1層, 北ベルト2層	
16	陶器 瓶	瀬戸・美濃	口径: (11.0) 底径: [4.9] /1/4	輪縫目がわずかに残る。貸入あり。	北ベルト1層	
17	陶器 丸瓶	美濃	口径: (13.0) 底径: [4.9] /1/6	体部内面下端に上げかに縦をもつ。内外面に自然軸。	南ベルト2層	
18	陶器 丸瓶	瀬戸・美濃	口径: [4.2] 底径: 5.4 /1/2以下	内外面軸(高台部分除く)。	東ベルト1層	
19	陶器 瓶	内野山窯	器高: [2.6] /1/6以下	内外曲筋軸	No.22	
20	陶器 天日茶碗	瀬戸・美濃	底径: 5.3 器高: [1.9] /1/1	内外曲筋軸。	No.186	

第14表 SX-1出土遺物観察表(2)

No.	種別	产地	法量(cm)/残存値	成形・技法などの特徴/紹介	出土位置	備考
21	陶器 环	廻戸・美濃	口径: 3.9 底径: [2.2] /1/1	見込み軸袖。高台削り出し。	No. 140	
22	陶器 环	廻戸・美濃	口径: (12.8) 底径: 6.6 25高: 4.0 /1/2	外面は1条の沈線。見込みは僅みによって花弁を成形する。	No. 194	
23	陶器 环	廻戸・美濃	口径: (12.0) 25高: [2.8] /1/8	灰袖。貫入あり。	3区1	
24	陶器 皿	不明	口径: (12.6) 底径: (1.7) /1/8	口縁面ははねかに把束する。口縁部から体部内面にかけて灰袖。表面		
25	陶器 菊皿	廻戸・美濃	口径: (13.8) 底径: (6.8) 25高: 3.9 /1/3以下	口縁部に脚継袖。花弁間は1条の沈線で区画。	北ベルト1層	
26	陶器 皿	不明	口径: (12.6) 底径: [2.2] /1/8	口縁面ははねかに内溝する。内外袖。貫入あり。	3区1	
27	陶器 皿	不明	口径: (13.4) 器高: [2.9] /1/4以下	口縁面ははねかに把束する。内外面灰袖。貫入あり。	3区1	
28	陶器 吉野丸皿	廻戸	口径: (11.2) 底径: 6.6 25高: 2.9 /2/3以上	内外面灰石袖。底部内輪へラケズリ。	No. 4	
29	陶器 皿	不明	器高: [3.7] /1/12以下	見込みに縁袖。外面袖なし。	No. 168	
30	陶器 鉢絵皿	肥前	口径: (12.2) 底径: 7.4 25高: 4.4 /1/2以上	見込みに筆文。	西ベルト1層	
31	陶器 皿	唐津	口径: (11.0) 底径: [2.9] /2/3以上	刷毛目面。見込みの一部に砂付着。	No. 144	
32	磁器 小鉢	肥前	口径: (6.4) 器高: 4.4 底径: 2.4 /1/2以上	背面にススキ文。	No. 135	
33	磁器 皿	肥前	口径: (11.0) 器高: [4.1] /1/6以下	外面に筆文。	No. 113	34と同一品。
34	磁器 皿	肥前	口径: (11.0) 器高: [4.8] /1/6	外面に筆文。	西ベルト1層	33と同一品。
35	磁器 皿	肥前	口径: (11.0) 25高: [3.5] /1/6	外面口縁部二重脚継。内面口縁部脚継。	1区	
36	磁器 皿	肥前	25高: [1.5] /1/3	外面脚継。底面脚継。	北ベルト2層	
37	白磁 皿	不明	口径: (12.0) 25高: [2.9] /1/8以下	口縁部は外方へえすすぐ開く。貫入あり。	4区1	
38	磁器 皿	肥前	口径: (11.0) 25高: [4.3] /1/4	無文。貫入あり。	4区1, 西ベルト1層	
39	磁器 皿	肥前	口径: (11.0) 底径: 4.0 器高: 6.7 /1/3	軸層は厚く、外面には柄毛目が認められる。	No. 132	
40	磁器 皿	肥前	底径: 4.2 25高: [2.2] /1/1	無文。貫入あり。	No. 122	
41	白磁 皿	中国	口径: (13.0) 器高: [1.8] /1/8	貫入あり。	No. 167	

第15表 SX-1出土遺物観察表(3)

No.	種別	產地	法量(cm)・残存状	成形・技法などの特徴／断土	出土位置	備考	
42	陶器 様鉢	在地	口径:27.5 底径:12.9 器高:12.5 /3/4以上	内面口縁部下に2条の沈線が造る。標目8条単位。/石英・長石・ 斑晶含む。	No.171, 1層, 4区, 西ベルト1層		
43	陶器 様鉢	不明	器高: [1,1] /1/12.以下	底部片。標目6条単位。自然破け行着する。/石英多量。	西ベルト1層		
44	陶器 様鉢	丹波	底径: (15.0) 器高: (4.5) /1/6以下	外面自然輪形ひら。断土に長石含む。	No.165		
45	灰質土器 香炉	在地	口径: 16.8 底径: (13.2) 器高: 6.4 /1/2	1脚が残存する。外面部下端には不整な横ナブ。/石英・長石。	No.165		
46	灰質土器 香炉	在地	口径: (17.1) 底径: (14.4) 器高: 9.0 /1/3以上	1脚が残存する。外面部下端は縦をなす。内面にはヘナナゲの 静止痕を残す。/石英・長石。	No.193, 4区		
47	灰質土器 十輪	在地	口径: (19.6) 底径: (17.2) 器高: 5.8 /1/6	1脚が残存する。把手は欠損。外面部下端には不整なナブを残す。 /石英・長石。	表探		
48	土師質土器 器	在地	口径: (36.0) 底径: (24.4) 器高: 8.0 /1/3	1内耳残存。内面に細巻状工具による施文。	No.96, 西ベルト1層, 表探		
49	灰質土器 桔梗	在地	口径: (36.0) 器高: [8.9] /1/3	1内耳残存。体部下端に横ナブ。/石英・長石。	No.101		
50	灰質土器 桔梗	在地	口径: (38.0) 底径: (24.0) 器高: 8.1 /1/4	1内耳残存。外面部下端ケズリ。外曲折状の楕円孔。内面底 カキメ。/石英・長石・赤褐色。	西ベルト1層。南ベ ルト1層		
51	灰質土器 桔梗	在地	口径: (41.0) 底径: (26.4) 器高: 10.1 /5/6以上	2内耳1單位が残存する。剥形の垂みあり。外面部下端不整な 横ナブ・タケヅリ。/石英・長石	No.154・157・190・ 196, 1層, 西ベル ト2層, 1区中盤		
52	灰質土器 桔梗	在地	口径: (40.0) 底径: (27.4) 器高: 9.4 /1/2以上	2内耳1単位が残存する。見込みに6条単位の櫛摺き文様。外面部 下端は不整な横位ヘラケヅリ。/石英・長石	No.181・184・196		
53	土師質土器 桔梗	在地	口径: (38.0) 底径: (27.2) 器高: 9.0 /1/2以上	2内耳残存。外面部下端横ナブ。内面底カキメ。蓮光輪文様。 /石英・白色石・灰色石。	No.44・63・72・81, 118・120, 西ベルト1層, 西ベルト1層, 西ベルト1層, 東ベルト1層		
54	灰質土器 桔梗	在地	底径: (25.0) 器高: (5.1) /1/3	外面部下端ケズリ。内面底カキメ。/石英・長石。	No.116, 西ベルト2層		
55	灰質土器 深鉢	在地	口径: (41.0) 底径: (33.4) 器高: 1/4以上	1脚残存。口縁部下から体部には突帶をめぐらす。/石英・長石,	No.142・153, 北ベ ルト1層, 2区3,		
56	灰質土器 鉢	在地	口径: (15.3) 底径: 21.6 器高: 21.9 /1/2以上	外曲わざかに光沢を帯びる。底面外周ケズリ。	No.146, 西ベルト1層 2層, 1区1, 表探		
57	硯	在地	幅[6.4] 厚さ [1.0]/1/2以上	表: 鞍瓶あり。 裏: ダテ方向のナブ。	No.164		
No.	種別	產地	法量(cm)・残存状	成形・技法などの特徴／断土	色調	出土位置	備考
58	丸瓦	在地	長さ: [9.1] 厚さ: [2.1] /破片	凸面: ダテ方向のナブ。 凹面: 直目側・指印圧印。 /石英・雲母片。	凸面: 深黄(N4/7) 凹面: 淡白(D7/1)	断土	
59	丸瓦	在地	長さ: [7.0] 厚さ: [2.1] /破片	凸面: ダテ方向のナブ。 凹面: 直目側・指印圧印。 /浮2mm薄・石英・長石・雲母片。	凸面: 深(N4/7) 凹面: 深(N4/7)	表探	
60	丸瓦	在地	長さ: [7.0] 厚さ: [2.0] /破片	凸面: ダテ方向のナブ。 凹面: (摩滅のため不明) /石英・雲母片。	凸面: 深黄 (2,57/3) 凹面: 淡黄 (2,57/3)	No.162	
61	丸瓦	在地	長さ: [4.6] 厚さ: [2.0] /破片	凸面: ダテ・直目方向のナブ・指印圧印。 凹面: 布目側。 /雲母片。	凸面: 深黄 (7,55/1) 凹面: 淡黄 (7,55/1)	1区	

第 16 表 SX-1 出土遺物観察表 (4)

No.	種別	産地	法量 (cm) / 残存部	成形・技法などの特徴 / 素材	色調	出土位置	備考
62	丸瓦	在地	長さ : [6.0] 厚さ : [2.0] / 磁片	凸面 : タテ方向のナデ。 凹面 : ベニ板。 / 径 3mm 繩、石英・黄石・雲母片。	凸面 : 明黄褐色 (10187/6) 凹面 : 明黄褐色 (10187/6)	覆土 覆土	面にスカリ
63	丸瓦	在地	長さ : [7.0] 厚さ : [2.1] / 磁片	凸面 : タテ方向のナデ。 凹面 : ベニ板。 / 磁片。	凸面 : 深灰 (7.5V6/1) 凹面 : 深灰 (5V6/1)	1 区中層 側部	側部残存。
64	丸瓦	在地	長さ : [4.1] 厚さ : [2.0] / 磁片	凸面 : タテ方向のナデ。 凹面 : ベニ板。 / 磁片。	凸面 : 深灰 (7.5V6/1) 凹面 : 深灰 (5V7/1)	1 区 側部	
65	丸瓦	在地	長さ : [7.2] 厚さ : [2.0] / 磁片	凸面 : ヨコ方向のナデ。 凹面 : (埋藏のため不明) / 磁片。	凸面 : 深灰 (5V6/1) 凹面 : 深灰 (5V7/1)	1 区 側部	
66	R.瓦	在地	長さ : [1.0] 厚さ : [2.0] / 磁片	凸面 : ヨコ方向のナデ。 凹面 : ベニ板。 / 磁片。	凸面 : 深灰 (5V8/2) 凹面 : 深灰 (5V8/1)	2 区 側部	側部残存。
67	丸瓦	在地	長さ : [2.6] 厚さ : [1.5] 磁 1.1 [1.丸瓦 2.0] / 磁片	凸面 : ヨコ方向のナデ。 凹面 : ベニ板・指關压痕。 / 磁片。	凸面 : 深灰 (5V6/1) 凹面 : 深灰 (5V6/1)	2 区 側部	玉經式。
68	平瓦	在地	長さ : [13.2] 厚さ : [2.0] / 磁片	凸面 : ナデ調整。 凹面 : ナデ調整。 / 径 8mm 繩。	凸面 : 深灰 (5V5/1) 凹面 : 深灰 (5V5/1)	2 区 側部	釘穴あり。
69	平瓦	在地	長さ : [13.8] 厚さ : [1.9] / 磁片	凸面 : ナデ調整。 凹面 : ナデ調整。 / 径 8mm 繩、石英・黄石・雲母片。	凸面 : 深灰オリーブ (5V6/2) 凹面 : 深灰 (5V6/1)	2 区 側部	側部・端部残存。
70	平瓦	在地	長さ : [11.4] 厚さ : [2.0] / 磁片	凸面 : ヨコ方向のナデ。 凹面 : ヨコ・タテ方向のナデ。 / 径 8mm 繩。	凸面 : オリーブ墨 (5V5/2) 凹面 : 深灰 (2.3V7/4)	2 区 側部	側部・端部残存。 (縫合・凸面磨耗?)。
71	平瓦	在地	長さ : [9.5] 厚さ : [2.0] / 磁片	凸面 : ナデ調整。 凹面 : ヨコ・タテ方向のナデ。 / 径 8mm 繩。	凸面 : 深灰 (2.3V6/2) 凹面 : 深灰 (5V5/1)	2 区 側部	側部残存。

## (5) 土坑

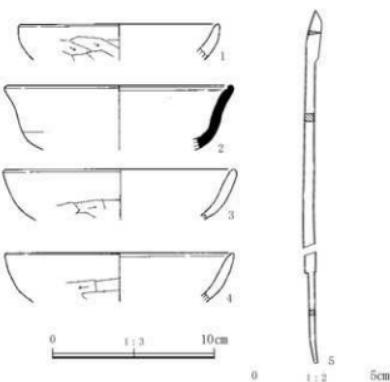
## SK-1 (土坑)

**概要** SI-1 の北東側で検出された。底面は根によるものと考えられる細かな凹凸をなす。風倒木痕の可能性は考えられたが、比較的多くの遺物が出土した。

**規模・形態** 平面不整形。断面橢形。深さ 57cm。

**覆土堆積状況** 単層でロームブロックを含む黒褐色土である。自然堆積の様相を呈するが、短期間に埋没したものと想定される。

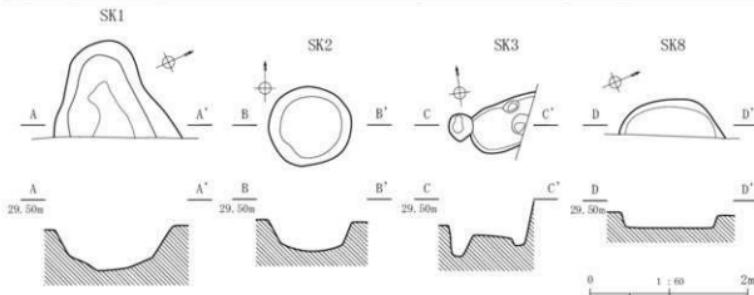
**遺物出土状況** 覆土中から土師器片・須恵器片・鉄製品（鐵鏃）が出土している。埋納したような出土状況は見られなかったが、隣接する SI-2・SI-4 号住居跡との関連性が考えられる。



第 40 図 SK-1 出土遺物

第 17 表 SK-1 出土遺物観察表

No.	種別	法量 (cm) / 残存部	成形・技法などの特徴 / 肉土	色調	出土位置	備考
1	土師器 片	口径 : (12.3) 器高 : [2.2] / 1/8	体部から内湯気味に立ち上がる。口縁部は外反する。口縁端部内面に灰線。/ 石英・黑色板・赤褐色。	外面 : にぶい黄緑 (10186/4) 内面 : にぶい黄緑 (10186/4)	覆土	
2	須恵器 片	口径 : (14.0) 器高 : [4.0] / 1/4以下	体部は丸く立ち上がり。口縁部は外反する。口縁端部内面に灰線。/ 石英。	外面 : 灰 (5V4/1) 内面 : 灰 (5V4/1)	覆土	
3	土師器 片	口径 : (14.3) 器高 : [3.1] / 1/8	体部からごくわずかに稜をもつた。口縁部は外方へ開く。体部外面はラケヅリ。口縁端部内面ナメ。/ 長石・黑色板。	外面 : 赤褐 (5V4/6) 内面 : 赤褐 (5V4/6)	覆土	
4	土師器 片	口径 : (14.4) 器高 : [3.0] / 1/8	体部は内湯気味に立ち上がる。口縁端部は内折ぎ状になる。体部外面はラケヅリ。内面ナメ。	外面 : にぶい緑 (5V4/4) 内面 : 明赤褐 (5V5/6)	覆土	
No.	種別	法量 (cm) / 残存部	形態等の特徴	出土位置	備考	
5	鉄製品 塊	全長 : [14.4] 刃部長 : 2.0 刃部幅 : 0.6 茎部長 : 3.7 茎部幅 : 0.3	片刃。先端はカマス状になる。長角。茎部断面は長方形。			



第 41 図 土坑実測図

## SK-2 (土坑)

**概要** SK-1 の北側において単独で検出された。

**規模・形態** 平面円形、断面椀形。径 104cm、深さ 40cm。

**覆土堆積状況** 単層でロームブロックを含む黒褐色土である。自然堆積の様相を呈する。

**遺物出土状況** 覆土中から土師器片・須恵器片が出土しているが、いずれも小片である。

## SK-3 (土坑)

**概要** 調査区北側で、周囲からはピットが多く検出されており、それらとの関連が想定される。

**規模・形態** 平面椿円形、断面有段。深さ 16cm。

**覆土堆積状況** 単層でロームブロックを含む黒褐色土である。自然堆積の様相を呈する。

**遺物出土状況** 遺物は出土していない。

## SK-8 (土坑)

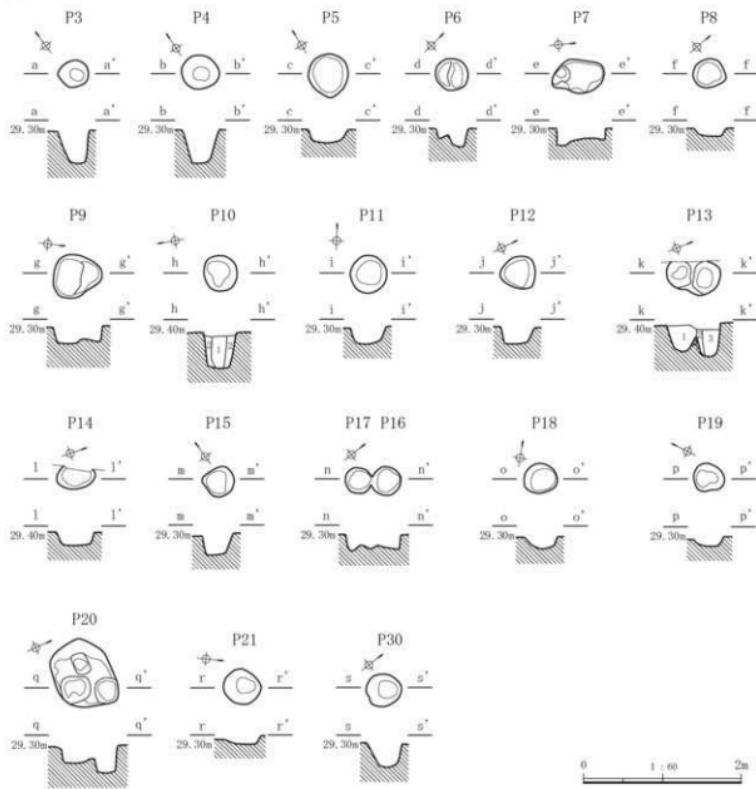
**概要** SI-1 と重複し、本土坑の方が新しい。

**規模・形態** 平面円形、断面逆台形。深さ 19cm。

**覆土堆積状況** 単層でロームブロックを含む黒褐色土である。自然堆積の様相を呈する。

**遺物出土状況** 覆土中から土師器甕の破片が出土している。SI-1 からの混入か。

(6) ピット



土層説明

P4 黒褐色(7.5YR2/2) 粘性・しまりあり 黒色土を主体とし、径1.0 mmのローム粒を7%含む。

P7 黒褐色(7.5YR2/4) 粘性・しまりなし 黑色土を主体とし、ロームブロックを含む。

P9 黒褐色(7.5YR2/4) 粘性・しまりあり 黑色土を主体とし、径1 cmのローム粒を7%含む。

P10 黒褐色(7.5YR2/2) 粘性・しまりあり 黑色土を主体とし、径1 mmのローム粒を3%含む。

P11 黒褐色(7.5YR2/4) 粘性・しまりあり 黒色土を主体とし、径1 mmのローム粒を3%含む。

P12 黒褐色(7.5YR2/2) 粘性・しまりあり 黒色土を主体とし、径1 mmのローム粒を3%含む。

P13 黒褐色(7.5YR2/2) 粘性・しまりあり 黑色土を主体とし、ローム粒を部分的に含む。

P14 黒褐色(7.5YR2/3) 粘性・しまりあり 黑色土を主体とし、ローム粒を部分的に含む。

P15 黒褐色(7.5YR2/3) 粘性・しまりあり 黑色土を主体とし、ローム粒を部分的に含む。

P16 黒褐色(7.5YR2/2) 粘性・しまりあり 黑色土を主体とし、ローム粒を部分的に含む。

P17 黒褐色(7.5YR2/2) 粘性・しまりあり 黑色土を主体とし、ローム粒を部分的に含む。

P18 黒褐色(7.5YR2/2) 粘性・しまりあり 黑色土を主体とし、ローム粒を部分的に含む。

P19 黒褐色(7.5YR2/2) 粘性・しまりあり 黑色土を主体とし、ローム粒を部分的に含む。

P20 黒褐色(7.5YR2/2) 粘性・しまりあり 黑色土を主体とし、ローム粒を部分的に含む。

P21 黒褐色(7.5YR2/2) 粘性・しまりあり 黑色土を主体とし、ローム粒を部分的に含む。

P30 黒褐色(7.5YR2/2) 粘性・しまりあり 黑色土を主体とし、ローム粒を部分的に含む。

1. 黒褐色(7.5YR2/2) 粘性・しまりあり 黑色土を主体とし、径1 mmのローム粒を7%含む。

2. 黑褐色(7.5YR2/2) 粘性・しまりややあり 黑色土を主体とし、ローム粒を20%含む。

3. 黑褐色(7.5YR2/2) 粘性・しまりややあり 黑色土を主体とし、ローム粒を5%含む。

4. 地山層。

P41 黑褐色(7.5YR2/2) 粘性・しまりなし 黑色土を主体とし、ロームブロックを部分的に含む。

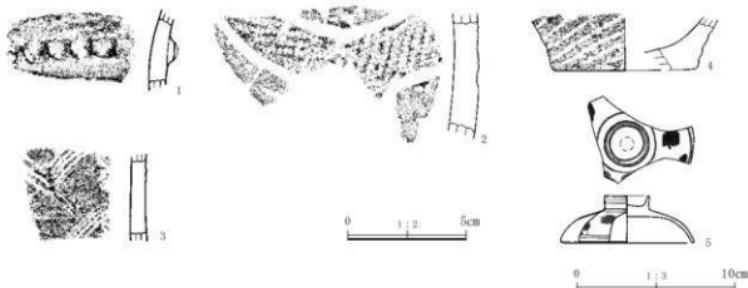
P45 黑褐色(7.5YR2/2) 粘性・しまりややあり 黑色土を主体とし、径1 cmのローム粒をわずかに含む。

第42図 ピット実測図

### (7) 遺構外出土遺物

遺構外出土遺物には、縄文土器・弥生土器を掲載した。当該期の遺構は確認されていないが、近隣に存在する可能性がある。大鋸町遺跡第2地点では、加曾利E式段階の土坑が認められ、縄文早期、中期阿玉台式・堀之内I式・加曾利B式のものが遺構外から出土している。本遺跡においても堀之内I式、後期初頭称名寺I式が小片で出土している。弥生時代では、後期十王台式が認められた。

ただし、縄文土器片および弥生土器片は小片であり、かつその出土位置は溝の覆土中など二次的・三次的移動が想定されるものであった。また、出土遺物さらには覆土の様相から鑑みて縄文時代・弥生時代に帰属する可能性のあるものはなかった。なお、古墳時代前期・中期の遺物は確認できていない。



第43図 遺構外出土遺物

第18表 遺構外出土遺物観察表

No.	種別	型式	法量 (cm) / 残存部	成形・技法などの特徴 / 軟土	色調	出土位置	備考
1	縄文	堀之内 I	器高: [2.2] / 1:12 以下	横走する隆帯に連続する刻みを施す。/ 石英、黒雲母。	外面: 黒褐 (10YR5/2) 内面: 淡黄褐 (10YR4/2)	905	
2	縄文	称名寺 I	器高: [5.3] / 1:12 以下	沈線で区画後、縄文は斜めに施す。/ 石英。	外面: にぶい黄褐 (10YR6/4) 内面: にぶい褐 (7.5YR6/3)	902 上層	
3	弥生	十王台	器高: [2.4] / 1:12 以下	4角・単位の網焼き波状文を施す。内面ナメ。/ 石英。	外面: にぶい黄褐 (10YR6/3) 内面: にぶい黄褐 (10YR6/3)	902 上層	
4	弥生	十王台	底径: (6.0) 器高: [2.2] / 1:2 以下	外面附加条 1 枚。底面有目板。/ 石英。	外面: にぶい黄褐 (10YR6/3) 内面: 淡黄 (2.5YR6/2)	SII-2 区 2	
No.	種別	型式	法量 (cm) / 残存部	成形・技法などの特徴 / 軟土	出土位置	備考	
5	縄器 蓋	肥腹	縫み径: 2.8 口徑: (8.4) 器高: 3.0 1/3	小ぶりの縫みを有する。外面内面給付けなし。	赤褐		

第19表 出土遺物属性表(1)

表の凡例は表末に掲載した

遺物名	出土地点	出土遺物	縄文		弥生		古代		中世		近世		不明	総計	
			個体	破片	小計	個体	破片	小計	個体	破片	小計	個体	破片		
SI-1	1区	調査器	不明	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
		衛生土器	ト玉台	0	0	0	0	9	9	0	0	0	0	0	9
		土師器	甕	0	0	0	0	0	0	71	71	0	0	0	71
		甕	0	0	0	0	0	0	0	9	9	0	0	0	9
		鉢	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1
	東北部	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		甕・N	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1
		片・A	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	2
		片・N	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1
		片・H	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	3
	鉢器	片・O	0	0	0	0	0	0	2	3	0	0	0	0	3
		盤・O	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1
		皿・N	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1
		不明・N	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	2
		不明・O	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1
2区	衛生土器	鉢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ト玉台	0	0	0	0	8	8	0	0	0	0	0	0	8
		土師器	甕	0	0	0	0	0	0	0	35	35	0	0	0
		甕	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1
		片	0	0	0	0	0	0	6	6	0	0	0	0	6
	東北部	片(内巻)	0	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	3
		不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		甕・N	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		片・A	0	0	0	0	0	0	9	9	0	0	0	0	9
		片・N	0	0	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0	4
	土器	片・H	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	2
		片・O	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1
		皿・N	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1
		皿・O	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1
		不明・O	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1
3区	衛生土器	鉢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ト玉台	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	2
		土師器	甕	0	0	0	0	0	0	11	11	0	0	0	0
		小明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		甕・N	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1
	東北部	片・A	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1
		片・N	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1
		片・H	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1
		片・O	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	2
		不明・N	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1
4区	土器	陶器	甕	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		片	0	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	3
		瓦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		鉢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	東北部	甕・A	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	2
		甕・N	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1
		甕・O	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	2
		片・A	0	0	0	0	0	0	11	11	0	0	0	0	11
		片・N	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	3
P1	土器	片・O	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1
		片・H	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1
		不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	F2	土器	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		土師器	甕	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1
		片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
F4	土器	土器	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		土師器	甕	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1
	F4	土器	瓦	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0
		土師器	甕	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	2
F6	土器	鉢	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1
	土師器	鉢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

第20表 出土遺物属性表(2)

遺物名	出土地点	出土遺物	縄文			弥生			古代			中世			近世			不明	総計
			個体	破片	小計	個体	破片	小計	個体	破片	小計	個体	破片	小計	個体	破片	小計		
SI-1 一区	土師器	甕	0	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0	3
		須恵器	坪・A	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
SI-2 1区	土師器	坪・O	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
		十手台	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
SI-3 2区	土師器	甕	0	0	0	0	0	0	56	56	0	0	0	0	0	0	0	0	56
		瓶	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
SI-4 2区	須恵器	坪	0	0	0	0	0	0	5	5	0	0	0	0	0	0	0	0	5
		坪(内黒)	0	0	0	0	0	0	11	11	0	0	0	0	0	0	0	0	11
SI-5 2区	土師器	鉢	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
		不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
SI-6 3区	土師器	甕	0	0	0	0	0	0	7	7	0	0	0	0	0	0	0	0	7
		瓶	0	0	0	0	0	0	5	5	0	0	0	0	0	0	0	0	5
SI-7 3区	須恵器	坪・A	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3
		瓶・A	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
SI-8 3区	土師器	瓶・O	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
		坪・N	0	0	0	0	0	0	20	20	0	0	0	0	0	0	0	0	20
SI-9 3区	須恵器	坪・O	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		蓋・A	0	0	0	0	0	0	11	11	0	0	0	0	0	0	0	0	11
SI-10 3区	土師器	蓋・O	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
		蓋・N	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
SI-11 3区	須恵器	不明・A	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
		不明・N	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
SI-12 3区	土師器	不明・H	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		不明・O	0	0	0	0	0	0	12	12	0	0	0	0	0	0	0	0	12
SI-13 4区	土師器	甕	0	0	0	0	0	0	71	71	0	0	0	0	0	0	0	0	71
		瓶	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
SI-14 4区	須恵器	坪	0	0	0	0	0	0	8	8	0	0	0	0	0	0	0	0	8
		坪(内黒)	0	0	0	0	0	0	30	30	0	0	0	0	0	0	0	0	30
SI-15 4区	土師器	鉢	0	0	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4
		不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	145
SI-16 5区	土師器	甕・A	0	0	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4
		甕・N	0	0	0	0	0	0	6	6	0	0	0	0	0	0	0	0	6
SI-17 5区	須恵器	甕・O	0	0	0	0	0	0	6	6	0	0	0	0	0	0	0	0	6
		蓋・A	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
SI-18 5区	土師器	蓋・N	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		蓋・O	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
SI-19 5区	須恵器	坪・A	0	0	0	0	0	0	2	17	0	0	0	0	0	0	0	0	17
		坪・N	0	0	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4
SI-20 5区	土師器	坪・H	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		坪・O	0	0	0	0	0	0	17	17	0	0	0	0	0	0	0	0	17
SI-21 5区	須恵器	蓋・N	0	0	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4
		坪・H	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
SI-22 5区	土師器	坪・O	0	0	0	0	0	0	13	13	0	0	0	0	0	0	0	0	13
		瓶・O	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
SI-23 5区	須恵器	蓋・A	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
		蓋・N	0	0	0	0	0	0	6	6	0	0	0	0	0	0	0	0	6
SI-24 6区	土師器	不明	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		不明・H	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
SI-25 6区	須恵器	不明・O	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
		土師器	甕	0	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4

第21表 出土遺物属性表(3)

遺物名	出土地点	出土遺物	縄文		弥生		古代		中世		近世		不明	總数				
			個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片						
SI-2	4区	土師器	甌	0	0	0	0	0	0	6	6	0	0	0	0	0	6	
		环	0	0	0	0	0	0	2	8	10	0	0	0	0	0	10	
		环(内墨)	0	0	0	0	0	0	0	27	27	0	0	0	0	0	27	
		鉢	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	2	
		不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	137	
		須恵器	甌・A	0	0	0	0	0	0	9	9	0	0	0	0	0	9	
			甌・N	0	0	0	0	0	0	8	8	0	0	0	0	0	8	
			甌・O	0	0	0	0	0	0	6	6	0	0	0	0	0	6	
			甌・A	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	2	
			甌・O	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	
			环・A	0	0	0	0	0	0	24	24	0	0	0	0	0	24	
			环・N	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	3	
			环・H	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	3	
			环・O	0	0	0	0	0	0	13	13	0	0	0	0	0	13	
			瓶形・O	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	
			壺・A	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	
			壺・O	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	
			不明・A	0	0	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0	0	4	
			不明・N	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	
			不明・H	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	3	
			不明・O	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	2	
		銅器	錐状	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	ガマ	土師器	甌	0	0	0	0	0	0	1	12	13	0	0	0	0	13	
			壺	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	2	
			环	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	
			不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	
		須恵器	环・A	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	2	
			环・O	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	
1区+2区		土師器	甌	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	
			環	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
1区+3区		土師器	甌(内墨)	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	
		須恵器	甌・A	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	
			环・O	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	
1区+4区		土師器	甌	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	
			環	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	
		須恵器	甌・O	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	
			环・O	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	
2区+4区		土師器	甌・A	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	
			环・A	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	
3区+4区		土師器	甌	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	2	
			環	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	2	
		須恵器	甌・N	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	2	
			环・A	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	2	
			环・O	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	
3区+ガマ		須恵器	甌・N	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	
4区+ガマ		土師器	甌	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	
2区+3区+4区		須恵器	甌・A	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	
4区+P1		土師器	甌	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	3	
SI-3	上層	土師器	甌	0	0	0	0	0	0	7	7	0	0	0	0	0	7	
			环(内墨)	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	3	
			不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22	
		須恵器	环・A	0	0	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0	0	4	
			环・O	0	0	0	0	0	0	5	5	0	0	0	0	0	5	
		下層	土師器	甌	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	3
			环	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	
		須恵器	甌・O	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	
			环・A	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	3	
		一括	土師器	甌	0	0	0	0	0	0	18	18	0	0	0	0	0	18
			环	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	3	
			环(内墨)	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	
			不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		須恵器	环・A	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	
			环・O	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	
			壺形・O	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	
		JR22	骨器	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
SI-4	I区	土師器	甌	0	0	0	0	0	0	18	18	0	0	0	0	0	18	
			环	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	
			不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		須恵器	环・A	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	2	
			环・O	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	
			不明・O	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	2	

第22表 出土遺物属性表(4)

遺物名	出土地点	出土遺物	縄文			弥生			古代			中世			近世			不明	総計
			個体		破片	個体		破片	個体		破片	個体		破片	個体		破片		
			縦	横					縦	横					縦	横			
S1-4	2区	土師器	甕	0	0	0	0	0	0	22	22	0	0	0	0	0	0	0	22
		环(内黒)	0	0	0	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0	0	0	0	4
		不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15
		須恵器	甕・O	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1
			甕・A	0	0	0	0	0	0	1	5	6	0	0	0	0	0	0	6
			甕・O	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1
			甕・N	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1
			甕・H	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1
			不明・A	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1
		漆器	十手台	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
力ノ下	佐生土器	土師器	甕	0	0	0	0	0	0	29	29	0	0	0	0	0	0	0	29
		环(内黒)	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
		不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15
		須恵器	甕・A	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	2
			甕・N	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
			甕・A	0	0	0	0	0	0	0	7	7	0	0	0	0	0	0	7
			甕・O	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	2
			漆	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	2
		土師器	甕	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		漆器	十手台	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SB-1	P1t2	土師器	甕	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
		須恵器	甕・O	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
			甕・O	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
		P1t5	土師器	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			須恵器	甕・O	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1
		P1t6	土師器	甕	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0
			甕	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1
		P1t7	土師器	甕	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1
			不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
P1t8	佐生土器	須恵器	甕・O	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		須恵器	甕・O	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			甕	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			須恵器	甕・O	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		P1t9	土師器	甕	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		P1t10	土師器	甕	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			須恵器	甕・O	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
SB-2	上層	縄文土器	名残1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			名残2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			瓶之内	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
			不明	0	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
		先住土器	十手台	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
		土師器	甕	0	0	0	0	0	0	0	122	122	0	0	0	0	0	0	122
			甕	0	0	0	0	0	0	1	11	12	0	0	0	0	0	0	12
			甕	0	0	0	0	0	0	0	45	45	0	0	0	0	0	0	45
			瓶(内黒)	0	0	0	0	0	0	0	30	30	0	0	0	0	0	0	30
			甕	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	2
			不明	0	0	0	0	0	0	0	5	5	0	0	0	0	0	0	5
		須恵器	甕・A	0	0	0	0	0	0	0	44	44	0	0	0	0	0	0	44
			甕・N	0	0	0	0	0	0	11	11	0	0	0	0	0	0	0	11
			甕・H	0	0	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0	0	0	0	4
			甕・O	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	2
			甕・A	0	0	0	0	0	0	7	7	0	0	0	0	0	0	0	7
			甕・N	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
			甕・A	0	0	0	0	0	0	3	96	99	0	0	0	0	0	0	99
			甕・N	0	0	0	0	0	0	5	5	0	0	0	0	0	0	0	5
			甕・H	0	0	0	0	0	0	7	7	0	0	0	0	0	0	0	7
			甕・O	0	0	0	0	0	0	1	99	100	0	0	0	0	0	0	100
			甕・A	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	2
			甕・N	0	0	0	0	0	0	9	9	0	0	0	0	0	0	0	9
			甕・H	0	0	0	0	0	0	5	5	0	0	0	0	0	0	0	5
			甕・O	0	0	0	0	0	0	17	17	0	0	0	0	0	0	0	17
			甕・A	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
			甕・N	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
			甕・H	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	2

第23表 出土遺物属性表(5)

遺物名	出土地点	出土遺物	縄文		弥生		古代		中世		近世		不明	總数	
			個体	破片											
SB-2 上層	須恵器	壺・O	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	7
		不明・A	0	0	0	0	0	0	24	24	0	0	0	0	24
		不明・O	0	0	0	0	0	0	60	60	0	0	0	0	60
		高杯・A	0	0	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0	4
		高杯・H	0	0	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0	4
		鉢	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1
		灰釉	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	2
		豆鉢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1
		鉢2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		碗狀	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中層	須生土器	千手台	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1
		壺	0	0	0	0	0	0	32	32	0	0	0	0	32
		鉢	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	3
		瓶	0	0	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0	4
		坪(内黒)	0	0	0	0	0	0	6	6	0	0	0	0	6
		不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		壺・A	0	0	0	0	0	0	7	7	0	0	0	0	7
		壺・N	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	3
		壺・H	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1
		壺・O	0	0	0	0	0	0	16	16	0	0	0	0	16
		壺・A	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1
		壺・O	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	2
		坪	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	3
		壺・A	0	0	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0	4
		壺・O	0	0	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0	4
		坪・A	0	0	0	0	0	0	21	21	0	0	0	0	21
		坪・N	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	2
		坪・H	0	0	0	0	0	0	1	4	5	0	0	0	5
		坪・O	0	0	0	0	0	0	26	26	0	0	0	0	26
		盤・H	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	2
		盤・O	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	3
		盞・A	0	0	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0	4
		盞・O	0	0	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0	4
		盞・A	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	2
		盞・O	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1
		不明・A	0	0	0	0	0	0	6	6	0	0	0	0	6
		不明・O	0	0	0	0	0	0	17	17	0	0	0	0	17
		豆鉢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0
下層	土師器	壺	0	0	0	0	0	0	16	16	0	0	0	0	16
		坪	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	3
		坪(内黒)	0	0	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0	4
		盞	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1
		不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		壺・O	0	0	0	0	0	0	6	6	0	0	0	0	6
		坪・A	0	0	0	0	0	0	10	10	0	0	0	0	10
		坪・O	0	0	0	0	0	0	9	9	0	0	0	0	9
		盤・A	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	2
		盤・O	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1
P113	陶器	陶	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	2
上層+中層	須恵器	壺・H	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1
		壺・O	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	2
		坪・A	0	0	0	0	0	0	2	3	0	0	0	0	5
		盞・A	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1
中層+下層	土師器	陶	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1
		坪・H	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1
		坪・A	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1
		坪・O	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1
上層+下層	須恵器	壺・A	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1
		坪・A	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1
		坪・O	0	0	0	0	0	0	6	6	0	0	0	0	6
		不明	0	0	0	0	0	0	73	73	0	0	0	0	73
SB-3 一括	須生土器	千手台	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1
		不明	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1
		壺	0	0	0	0	0	0	32	32	0	0	0	0	32
		盞	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	2
		坪	0	0	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0	4
	土師器	坪(内黒)	0	0	0	0	0	0	6	6	0	0	0	0	6
		不明	0	0	0	0	0	0	73	73	0	0	0	0	73
		壺・O	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1
		坪・A	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	2
		坪・O	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	3
	須恵器	壺・O	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1
		坪	0	0	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0	4
		不明・A	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	3
		不明・O	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1

第24表 出土遺物属性表(6)

遺物名	出土地点	出土遺物	縄文			弥生			古代			中世			近世			不明	総計	
			個体	破片	小計	個体	破片	小計	個体	破片	小計	個体	破片	小計	個体	破片	小計			
SB-3	一括	瓦器	火鉢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	1
SB-4	一括	衛生土器	中期か	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		土師器	EC・内黒	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
			かわらけ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	0	2
			不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		漆器	甕・O	0	0	0	0	0	0	0	5	5	0	0	0	0	0	0	0	5
			甕・A	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	2
			甕・A	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
		陶製品	甕状	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
SB-5	一括	衛生土器	土手台	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		土師器	甕	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
			不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
		漆器	甕・O	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
			甕・A	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	2
			甕・A	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
		不明・O	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
			高杯・A	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
		瓦	瓦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		陶器	梅状	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
SB-6	一括	陶文土器	甕之内	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		土師器	甕	0	0	0	0	0	0	0	7	7	0	0	0	0	0	0	0	7
			甕	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
			不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15
		漆器	甕・A	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	2
			甕・N	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
			甕・O	0	0	0	0	0	0	0	5	5	0	0	0	0	0	0	0	5
			甕・A	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	2
			甕・O	0	0	0	0	0	0	0	5	5	0	0	0	0	0	0	0	5
			甕・O	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
			甕・A	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	2
			甕・O	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
		不明・O	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5	0	0	0	0	0	0	0	5
SK-1	一括	土師器	甕	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	2
			甕	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
		漆器	甕・A	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	2
			甕・O	0	0	0	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0	0	0	0	4
			甕・O	0	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0	3
		不明・O	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
SK-1	1区	土師器	甕	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
			甕	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
			鉢	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	2
			かわらけ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	9	0	0	0	0	0	9
		漆器	甕・A	0	0	0	0	0	0	0	7	7	0	0	0	0	0	0	0	7
			甕・O	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
			甕・H	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
			甕・O	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
		不明・A	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
			不明・O	0	0	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4
		瓦器	烟管	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
			内耳過	0	0	0	0	0	0	0	35	35	0	0	0	0	0	0	0	35
			圓形	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	2
			火鉢	0	0	0	0	0	0	0	53	53	0	0	0	0	0	0	0	53
			甕	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
		不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			白磁・碗	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1
		瓦	瓦	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
		陶製品	甕状	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		石器	砾石	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			チャート	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	36
			安山岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22
			細灰岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	202
			ホン・フルカ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			石英岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			砂岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	188
			泥岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	49
			粘土岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			小窓	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	181
	2区	陶文土器	不明	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		土師器	甕	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
			甕	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1

第 25 表 出土遺物属性表 (7)

遺物名	出土地点	出土遺物		縄文		弥生		古代		中世		近世		不明	総数		
		個体	破片	小計	個体	破片	小計	個体	破片	小計	個体	破片	小計				
SK-1	2 区	土師器 小口付	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	3	
		瓦	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	
		耳・A	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	
		不明・O	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	2	
		土器 反器	内耳溝	0	0	0	0	0	0	7	7	0	0	0	0	7	
		香炉	0	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	3	
		不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		瓦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		石器 砕	砾石	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		鐵	雲山鉗	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		手マーク	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		磁灰瓦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		鰐屋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		砂岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		泥岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		粘土岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		小礫	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	3 区	縄文土器	輪之内1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
		土師器	甌	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	
		鉢	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	2	
		手わらじ	0	0	0	0	0	0	7	7	0	0	0	0	0	7	
		須恵器	甌・N	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	
		甌・A	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	2	
		甌・O	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	
		土器 反器	焰脂	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	
		内耳溝	0	0	0	0	0	0	0	0	9	9	0	0	0	9	
		香炉	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	
		大鉢	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	2	
		不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		瓦	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5	0	0	0	5	
		鐵	安山岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		手マーク	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		砂岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		泥岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		小礫	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	4 区	土師器	鉢	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	
		須恵器	甌・A	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	
		甌・O	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	
		盃	O	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	
		手わらじ	O	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	3	
		土器 反器	焰脂	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	
		内耳溝	0	0	0	0	0	0	0	0	9	9	0	0	0	9	
		香炉	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	
		大鉢	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	2	
		不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		瓦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5	0	0	5	
		鐵	手マーク	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		砂岩	雲山鉗	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		磁灰瓦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		鰐屋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		砂岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		小礫	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	一筋	土師器	甌	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	2	
		瓦	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	2	
		手わらじ	(内黒)	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	
		手わらじ	0	0	0	0	0	0	6	6	0	0	0	0	0	6	
		須恵器	甌・A	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	2	
		甌・H	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	
		甌・O	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	2	
		盃・O	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	
		甌・A	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	
		瓶・O	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	
		不明・O	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	
		土器 反器	焰脂	0	0	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0	4	
		内耳溝	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	2	
		大鉢	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	2	
		不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	1区+2区	土器	内耳溝	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	
		内耳溝	0	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	3	
	1区+3区	土器	内耳溝	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	
		内耳溝	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	
	2区+3区	土器	内耳溝	0	0	0	0	0	0	0	15	15	0	0	0	0	15
	一筋	土師器	甌	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	3	
		瓦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

第 26 表 出土遺物属性表 (8)

遺物名	出土地点	出土遺物		縄文		弥生		古代		中世		近世		不明	総計				
		個体	破片	小計	個体	破片	小計	個体	破片	小計	個体	破片	小計						
SK-1	一括	土師器	环(内黑)	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3			
		鉢	0	0	0	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0	4			
		不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
		須恵器	环・O	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	2			
SK-2	一括	須恵土器	下干台	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1			
		土師器	甕	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	3			
		环	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	2				
		鉢	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1				
		不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2				
SK-4 (SK-1内)	一括	土師器	壺・O	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1			
		須恵器	環・N	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1			
SK-8	一括	土師器	甕	0	0	0	0	0	0	11	11	0	0	0	0	11			
SK-9 (欠番)	一括	土師器	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2			
		土師器	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6			
P1092	一括	土師器	环(内黒)	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	2			
		不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9				
P1097	一括	須恵器	甕・N	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1			
P1099	一括	土師器	甕	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1			
P1110	一括	土師器	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1			
P1111	一括	土師器	甕	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1			
P1117	一括	土師器	环(内黒)	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1			
		須恵器	壺・O	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1			
P1120	一括	土師器	鉢	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	2			
P1126	一括	須恵器	甕・O	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1			
P1127	一括	土師器	环・A	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1			
		环・O	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1				
		不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
		須恵器	环・A	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1			
		环・O	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1				
		不明	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1				
P1128	一括	土師器	甕	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2			
		須恵器	甕	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	2			
		土師器	甕	0	0	0	0	0	0	7	7	0	0	0	0	7			
		环(内黒)	0	0	0	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0	4			
		不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
		須恵器	环・A	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1			
		环・O	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1			
		甕・O	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	2			
		不明・O	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1			
		磁器	白磁瓶	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1			
		丸	IC	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0			
		総計		0	16	16	0	35	35	15	2,657	2,672	11	72	73	0	26	2,422	5,244

## 【凡例】

須恵器は胎土の特徴によって N・A・H・S に分類した。

N は新治窯跡群産の胎土と類似し、角をもつ白色粒・透明粒を多量に含む。白雲母を多量に含む。

A は木葉下窯跡群産の胎土と類似し、①角をもつ白色砂粒をやや多量に含む。②角をもつ透明砂粒を少量含む。③丸みをおびた灰白色砂(チャート)を少量含む。④海綿骨針(白色針状物)を含む。

H は壺・内窓跡群産の胎土と類似し、白色(半透明)粒子を少量含むものもあるが精練されている。(焼成はかなり硬質で、青灰色を呈するものが一定量確認される。黒色の溶出物が確認されるものも一定量存在する。)

S は三和窯跡群産の胎土と類似し、白色粒子(軟質・パミス=輕石碎片)を多量に含む。ガラス質の透明軽物を含む。

O は上記に該当しないもの。

## 参考文献

赤井博之 1998 「古代常陸新治窯跡群基礎的研究—奈良・平安時代の須恵器編年を中心に—」『倭良岐考古』第 20 号

## 第IV章 まとめ

大銀町遺跡は、昭和 60 年の調査において弥生後期、十王台式から古墳時代前期、五領式の過渡期を示す土器群が出土した遺跡として著名である（井上 1998）。その後、平成 16 年に行われた調査では古式須恵器が出土するなど（斎藤・新垣 2005），弥生時代から古墳時代、古代に至る集落跡であることが分かっている。

本調査区は、台地の頂部に位置し、これまでの調査区より一段高い場所にある。そこでは縄文時代および弥生時代の遺物は少量で、おもに古代の集落跡、中世の堀、近世の廃棄土坑が確認された。

まず古代の集落跡では、9 世紀を主体とする堅穴建物群が確認された。SI-1 は一辺 7.4 m を計測する大型の堅穴建物跡で、ここからは建物の廃棄過程が観察された。まずカマド天井部分を破壊し、そこに盛土を施したのち、その上面を突き固めている。上屋は柱抜き取りの痕跡が窺えたことから、主要な部材は持ち出され、上屋はある程度壊されたものと想定される。その後、残りの部材は火をかけ焼失させ、最後に埋土を施したと考えられる。つまり人為的な焼失と考えられ、そのため堅穴内には土器はほとんど残存しておらず、持ち出されたのであろう。ただし鉄鎌が 2 点床面から出土しており、これらがなんらかの儀礼行為に関わるものである可能性は十分考えられるが、本調査では明らかにはできなかった。

SI-2 は一辺 3.8 m の中型の堅穴建物跡であるが、そこからは多量の土器と鉄製品が出土した。とくに掘方内からは刀子や鉄製紡錘車、土製紡錘車が出土しており、建物構築時の儀礼が推測される。また墨書き器も多く出土しており、「大家尺ヶ」(8)、「南」(9)などがある。「大家」は官衙関連遺跡から出土する傾向が高いようであるが、この「大家」が SI-1 程度のものを指すのか、それとも周間にさらに大型の建物跡があるのかは今後の課題として残される。

SI-4 は SI-2 に切られているが、おおよそ SI-2 とほぼ同規模の堅穴建物跡であろう。カマド脇には小穴を掘り、須恵器甕(15)を設置したとその出土状況から推測された。また甕が多量に出土している点は留意される。

その他、古代に帰属する遺物としては SD-2 の覆土中からコップ形須恵器が出土している。計量に用いられた可能性が高く、官衙的遺跡から出土する傾向があるようである。また、SX-1 からは多量の布目瓦が出土している。これらは SX-1 に廃棄されたものと考えられるが、SX-1 の外では出土しておらず、瓦葺建物跡の位置が問題となる。中世～近世にかけての土器・陶磁器も出土しているため、古代の堅穴建物群と並行する時期のものは今後検討していかなくてはならない。

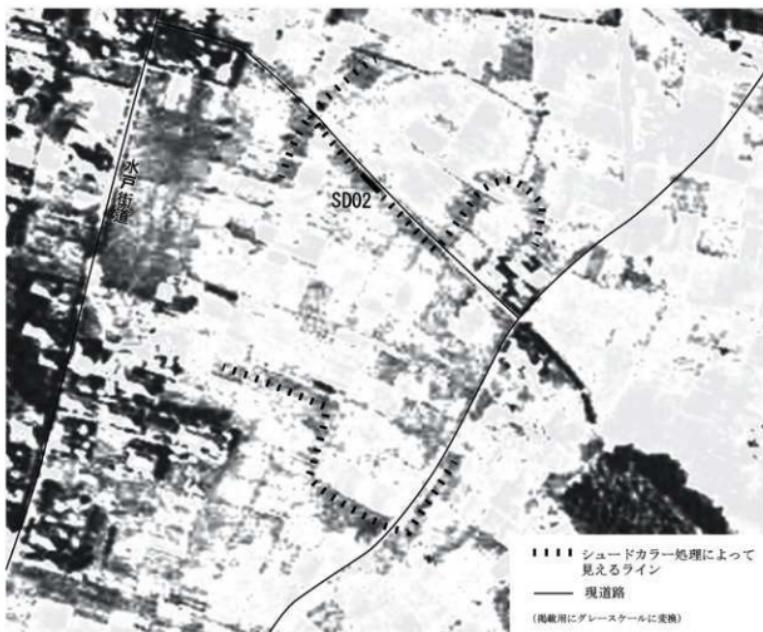
このように古代においては官衙的な色合いの強い遺物が出土していると言えるが、遺構としてはまだその性格は不明瞭な点が多いと言わざるを得ない。SD-2 は出土遺物から中世に埋没した堀跡である。その外側には古代の SI-3 があるが、内側には空闊地を挟んで SI-1 をはじめとする堅穴建物跡が存在する。幅の限られた調査区内であるため、その空闊地がとくに東西方向にどのように広がるのかは不明ではある。しかし、もし仮にその空闊地が SD-2 に起因するものであるならば、中世の堀の前身として古代の区画溝が存在した可能性も推測しておいてよいだろう。

中世では SD-2 が堀跡として確認された。南壁の方が北壁より傾斜がきつく、南側を内側とした想

定される。SD-2 の内側には明確な中世の遺構は確認できなかったが、SX-1 に切られる SK-1 井戸跡が中世に位置づけられる可能性を残している。また、SX-1 は 17 世紀～18 世紀までの遺物を多く含む廃棄土坑であるが、推測される建物跡の存続時期を考えれば、SD-2 との関連性も推測される。調査区南側には鉤の手状に曲がる旧道があり、それが当該期の建物跡と関連する可能性も考えておきたい。

SD-7 は道路の側溝と考えられるが、明治前期に作成された「迅速測図」においても道路を確認することが出来る。SD-7 は SD-2 とほぼ並行して走っていることから関連が想定される。そこで 1947 年に米軍によって撮影された航空写真をシードカラー処理してみた。シードカラー処理とは、リモートセンシングにおける画像処理の一つで、モノクロ画像に擬似的にカラー画像に変換する処理のことである。近年では未発掘の道路跡の発見などに使用されている。処理された画像を見ると、SD-2 の部分と合致するように北西～南東方向に走るラインが見られた。そのラインを追ったものが第 44 図である。西側には SD-2 と直交するライン、東側では北方向への屈曲が見られた。また調査区の南側には鉤の手状に屈曲するラインが認められた。これらが堀の走行方向を示しているとは限らないだろうが、分析結果として掲載しておく。

SX-1 から出土した多量の香炉を含む多種多様な土器群は、堀を有する建物跡を想定するには十分



第 44 図 調査区周辺シードカラー処理結果

であろう。当地は南に吉田城と中世の有力神社である吉田神社があり、さらに水戸街道に接する重要な地に位置する。台地頂部という好立地を考えれば、今後そこに居を構えた人物がどのような人物であるかを考えていく必要がある。(石丸)

#### 引用・参考文献

- 伊東重敏 1971『水戸市埋蔵文化財包蔵地基本調査報告書(応急版)』水戸市教育委員会
- 伊東重敏 1976『大六天古墳(森戸古墳群第12号墳)』常澄村文化財調査報告第1集 常澄村教育委員会
- 井上義安 1985『水戸市下畠遺跡 市道酒門8号線拡幅工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市下畠遺跡発掘調査会
- 井上義安 1988『水戸市大鋸町遺跡(仮称)元吉田第三住宅団地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市大鋸町遺跡発掘調査会
- 井上義安 1995『水戸市北星敷古墳』水戸市教育委員会
- 井上義安・蓼沼香未由・仁平妙子・根本睦子 1999『水戸市埋蔵文化財分布調査報告書 平成10年度版』水戸市教育委員会
- 茨城県教育委員会 2000『茨城県遺跡地図』
- 川口武彦 2004『台渡里遺跡』水戸市教育委員会
- 川口武彦 2008a「水戸市百合が丘町出土の神子柴型尖頭器」『婆良岐考古』第27号
- 川口武彦 2008b『茨城県水戸市台渡里庵寺長者山地区・大串遺跡第7地点』『古代交通研究会第14回大会アズマの国の道路と景観』
- 川口武彦 2008c「旧水戸市域北・中部における古墳の群構成」『シンポジウム 常陸の古墳群』明治大学古代学研究所
- 斎藤 洋・新垣清貴 2005『大鋸町遺跡』水戸市教育委員会、グランディハウス株式会社、株式会社地域文化財コンサルタント
- 佐々木藤雄・閑口慶久・大橋 生 2006『大鋸町遺跡(第3地点)』東京航業研究所編 水戸市教育委員会
- 閑口慶久編 2006『吉田古墳I 史跡整備計画に伴う吉田古墳群第1号墳の第1次・第2次調査』水戸市教育委員会
- 橋本勝雄 2002『茨城県における旧石器時代の編年』『茨城県における旧石器時代研究の到達点—その現状と課題—』茨城県考古学協会・茨城旧石器シンポジウム実行委員会・ひたちなか市教育委員会
- 日沖剛史・石丸敦史・川口武彦・色川順子・新垣清貴・渥美賢吾 2008『薄内遺跡(第1地点)』水戸市教育委員会
- 水戸市史編纂委員会 1963『水戸市史』上巻 水戸市役所



# 写 真 図 版

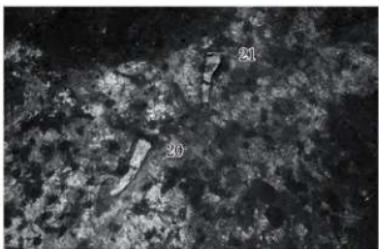




遺跡全景（北西から）



SI-1 全景（南から）



SI-1 鉄鎌出土状況（北から）



SI-1 土層堆積状況（北から）



SI-1 堀方全景（南から）

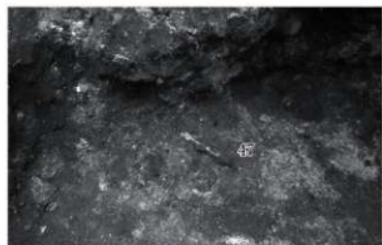
写真図版 2



SI-2 全景 (東から)



SI-2 カマド全景 (東から)



SI-2 鉄轆出土状況 (東から)



SI-4 カマド全景 (南から)



SI-2・SI-4 据方全景 (南から)



SI-3 全景 (北から)



SB-1 完掘全景 (北から)



SD-2 全景 (南東から)



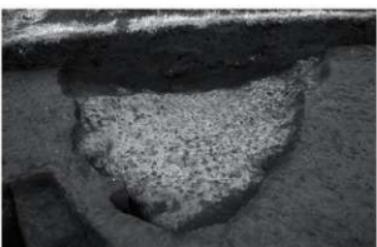
SD-2 土層堆積状況 (東から)



SD-3・SD-4・SD-7 全景 (西から)



SD-6 全景 (西から)



SX-1 全景 (東から)



SX-1 遺物出土状況 (東から)



SX-1 土層堆積状況 (南から)



SE-1 全景 (東から)



SE-1 壁面状況 (東から)

写真図版 4



SI-1 出土遺物



SI-2 出土遺物 (1)

写真図版 5



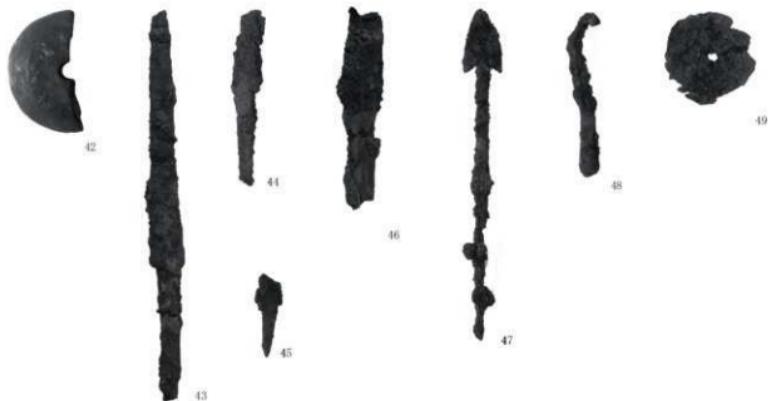
SI-2 出土遺物 (2)

写真図版 6

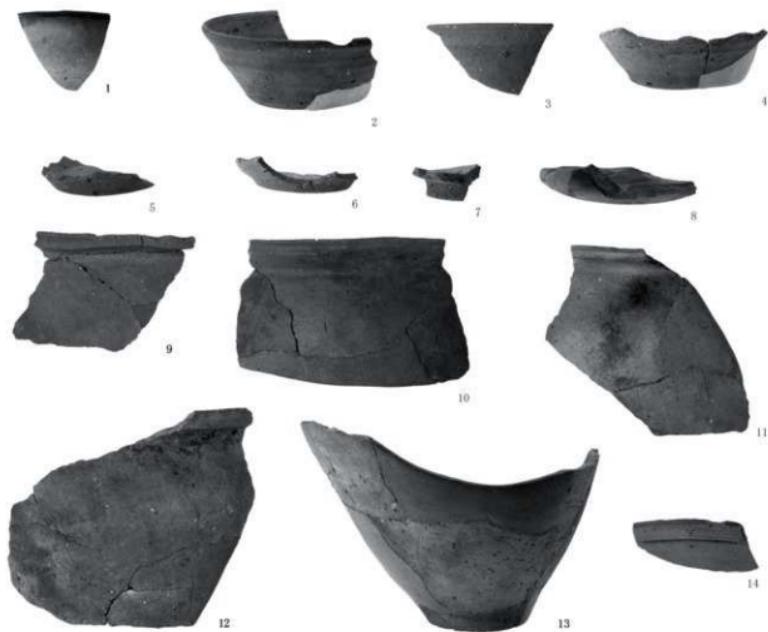


SI-2 出土遺物 (3)

写真図版 7



SI-2 出土遺物 (4)



SI-4 出土遺物 (1)

写真図版 8



SI-4 出土遺物 (2)

写真図版 9



SI-3 出土遺物



SD-2 出土遺物



SD-4 出土遺物



SX-1 出土遺物 (1)

写真図版 10



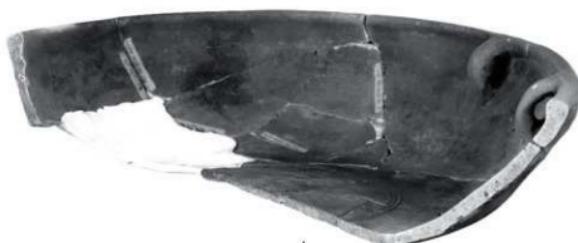
SX-1 出土遺物 (2)



50



53



—



52

SX-1 出土遺物 (3)

写真図版 12



51



54



55



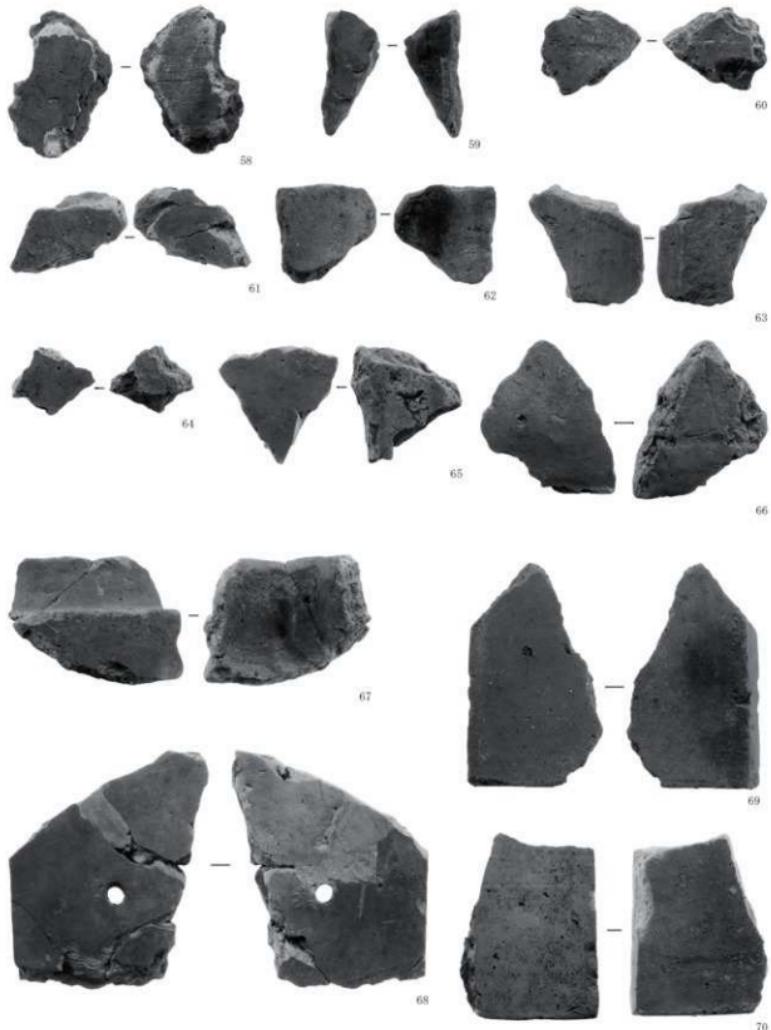
56



57

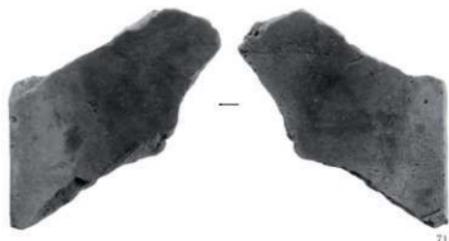
SX-1 出土遺物 (4)

写真図版 13



SX-1 出土遺物 (5)

写真図版 14



SX-1 出土遺物 (6)



SK-1 出土遺物



遺構外出土遺物



SK-9 出土遺物

## 報告書抄録

ふりがな	おがまちいせき (だいはぢちてん)							
書名	大鋸町遺跡（第8地点）							
副書名	宅地分譲工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	水戸市埋蔵文化財調査報告 第27集							
編集者名	石丸 敦史							
著者名	石丸 敦史・間口 慶久・瀬美 賢吾							
編集機関	有限会社 毛野考古学研究所							
所在地	〒 379-2146 群馬県前橋市公田町 1002番地1 Tel 027-265-1804							
発行年月日	西暦 2009（平成21）年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯 ○○°○○'	東経 ○○°○○'	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
大鋸町遺跡	水戸市元吉田町	08201	011	36° 21'	140° 28'	20080623 ~	367.0 m <sup>2</sup>	宅地分譲工事に伴う
	2349-1, 2350-1, 2351 地内			19"	58"	20080719		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
			縄文	-	縄文土器		古代では墨書き器「大家」やコップ形土器など官衙との関係性が窺える遺物が出土している。 中世では堀が確認され、範囲が存在していた可能性が考えられる。	
			弥生	-	弥生土器			
			古代	竪穴建物跡	土師器・須恵器・鉄製品			
			中世	堀	陶器・瓦質土器・錢貨			
			近世	溝・土坑・ピット	陶器・磁器・煙管			

項目		遺物の取り扱い			
水洗い	すべて行った。				
注記	・インクジェットプリンターを使用し、凡例にならってすべて行った。				
接合	・接合は必要に応じて行い、樹脂によって補強した。				
実測	・遺物実測図は報告書掲載分についてのみ作成した。				
台帳	・遺物台帳、図面台帳、写真台帳があり、検索が可能なように作成している。合計1冊（綴り）				
遺物保管方法	・出土遺物は、報告書使用と未使用に分け、遺物収納箱に納めた。各箱には収納内容を明記している。なお、未使用分については種別ごとに分類、収納してある。				

## 水戸市埋蔵文化財調査報告

第1集	台渡里庚寺跡	一範囲確認調査報告書一	2005年3月発行
第2集	台渡里庚寺跡	一市道常磐17号線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(1)一	2005年4月発行
第3集	大鋸町遺跡	一グランディヒルズ元吉田造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一	2005年8月発行
第4集	台渡里庚寺跡	一市道常磐17号線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(2)一	2006年3月発行
第5集	台渡里遺跡	一集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一	2006年3月発行
第6集	吉田古墳I	一史跡整備計画に伴う吉田古墳群第1・2次調査報告書一	2006年3月発行
第7集	大鋸町遺跡(第3地点)	一市道浜田200号線側溝建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一	2006年3月発行
第8集	坏遺跡(第3地点)	一ヴィヴァンコート赤塚建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一	2007年3月発行
第9集	坏遺跡(第4地点)	一ブランタンコリースⅡ建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一	2007年3月発行
第10集	吉田古墳II	一史跡整備計画に伴う吉田古墳群第1号墳の第3次発掘調査報告書一	2007年3月発行
第11集	平成17年度水戸市内遺跡発掘調査報告書	一	2007年3月発行
第12集	アラヤ遺跡(第2地点)	一市道常磐10号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一	2007年3月発行
第13集	米沢町遺跡(第5地点)	一住宅展示場建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一	2007年3月発行
第14集	大串遺跡(第7地点)	一介護老人福祉施設建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一	2008年3月発行
第15集	台渡里遺跡(第39次調査)	一市道常磐222号線公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一	2008年3月発行
第16集	渡里町遺跡(第5地点)	一市道常磐31号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一	2008年6月発行
第17集	渡里町遺跡(第6地点)	一市道常磐34、275号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一	2008年6月発行
第18集	薄内遺跡(第1地点)	一移動体通信基地局建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一	2008年8月発行
第19集	堀遺跡(第9地点)	一住宅造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一	2008年9月発行
第20集	元石川大谷原遺跡	一住宅造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一	2008年12月発行
第21集	台渡里I	一平成18年度長者山地区範囲確認調査概報一	2009年3月発行
第22集	平成18年度水戸市内遺跡発掘調査報告書	一	2009年3月発行
第23集	吉田古墳III	一史跡整備計画に伴う吉田古墳群第1古墳の第4・5次発掘調査報告書一	2009年3月発行
第24集	町付遺跡(第1地点)	一集合住宅建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一	2009年3月発行
第25集	東絶遺跡(第1地点)	一物販店建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一	2009年3月発行
第26集	荷鉢坂遺跡(第1地点)	一コンビニエンスストア建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一	2009年3月発行
第27集	大鋸町遺跡(第8地点)	一宅地分譲工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一	2009年3月発行

### 水戸市埋蔵文化財調査報告 第27集

## 大鋸町遺跡 (第8地点)

一宅地分譲工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一

2009年3月25日 印刷

2009年3月31日 発行

編集 有限会社 毛野考古学研究所

〒379-2146 群馬県前橋市公田町1002番地1

TEL. 027-265-1804

発行 水戸市教育委員会

〒310-8610 茨城県水戸市中央1-4-1

TEL. 029-224-1111

印刷 山三印刷株式会社

〒311-4153 茨城県水戸市河和田町4433-33

TEL. 029-252-8481